

(10) 被害の経験

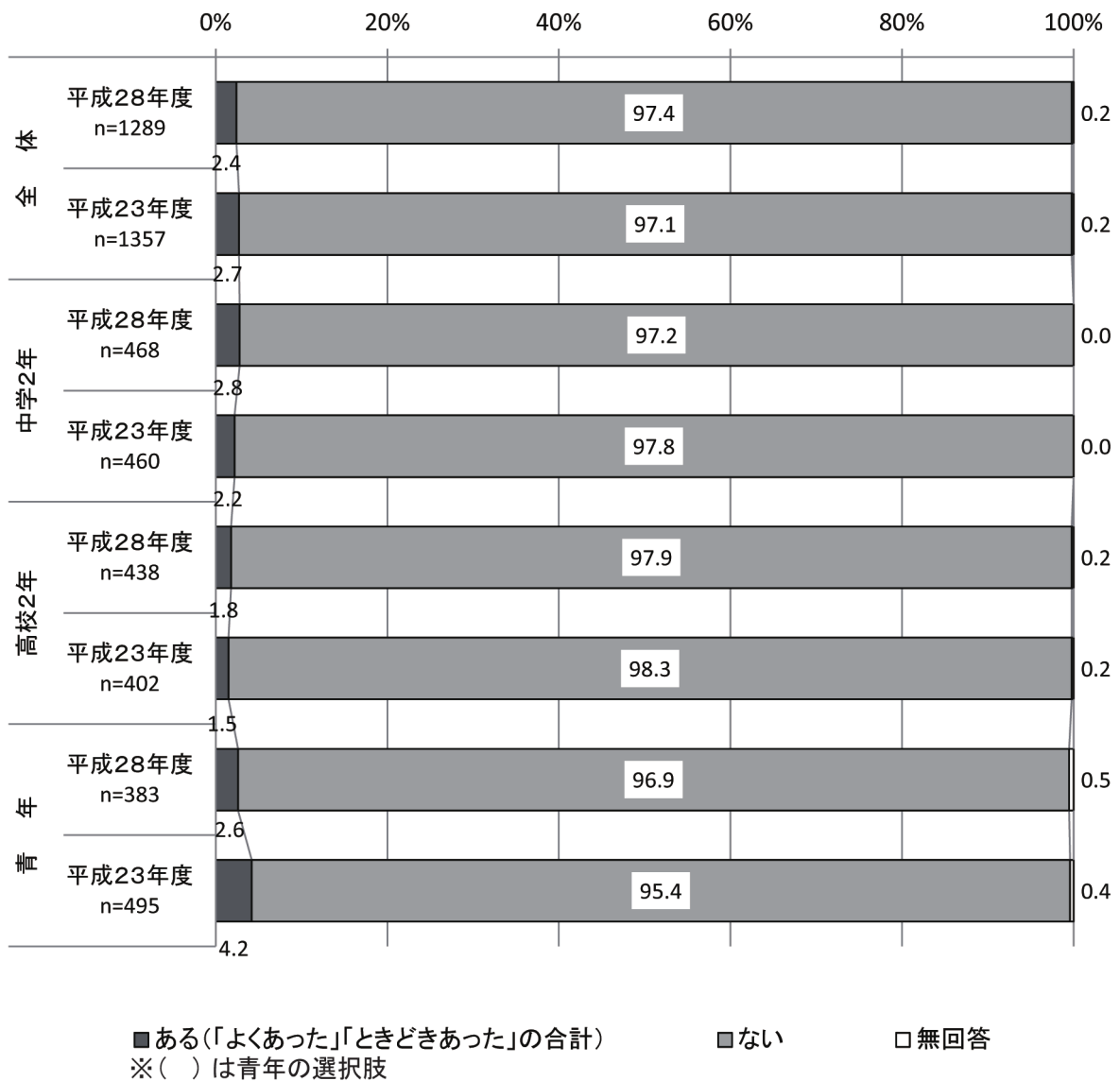
▶▶ ア 被害の経験

問 あなたは、最近1年ぐらいの間に、下記のことについて、したことがありますか。それぞれ当てはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。  
(青年は「18歳(高校卒業)」までにしたことがあるか)

(ア) おどされて、お金や物をとられた

どの年代でも「ない」と回答した人が96%を超えている。

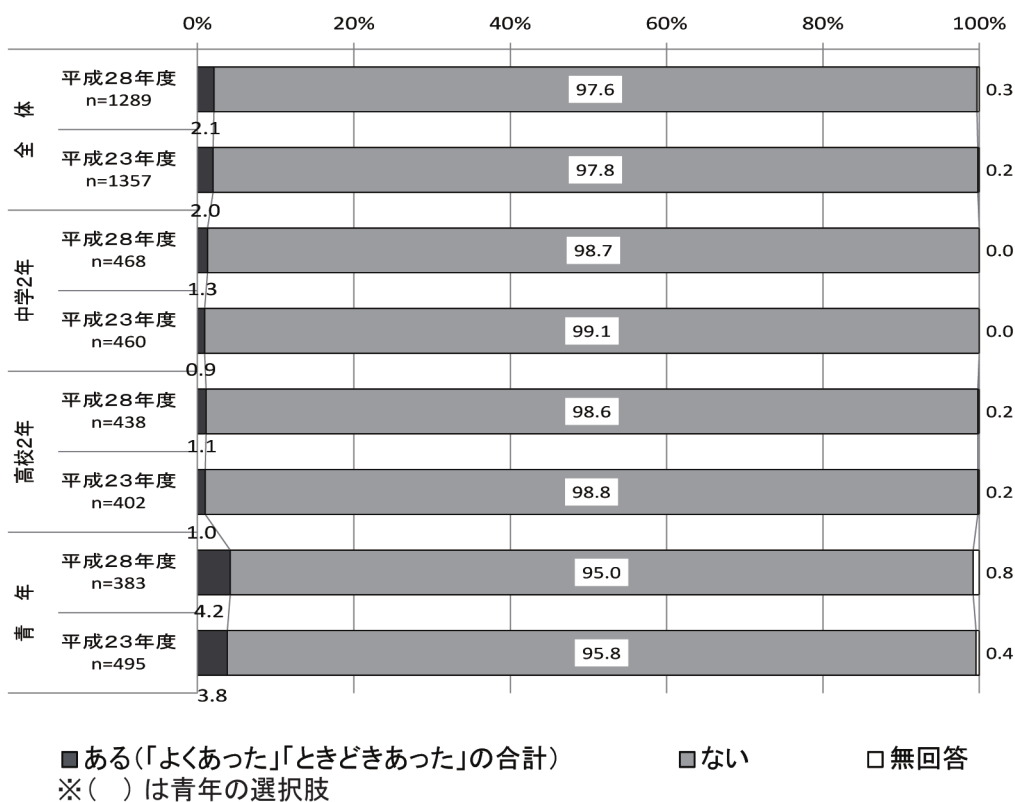
図115



(イ) 列車や人混みの中で、ちかんにあった

全体的にみて97%以上が「ない」と回答している。「ある」と回答した割合が一番多かったのは青年(4.2%)であった。

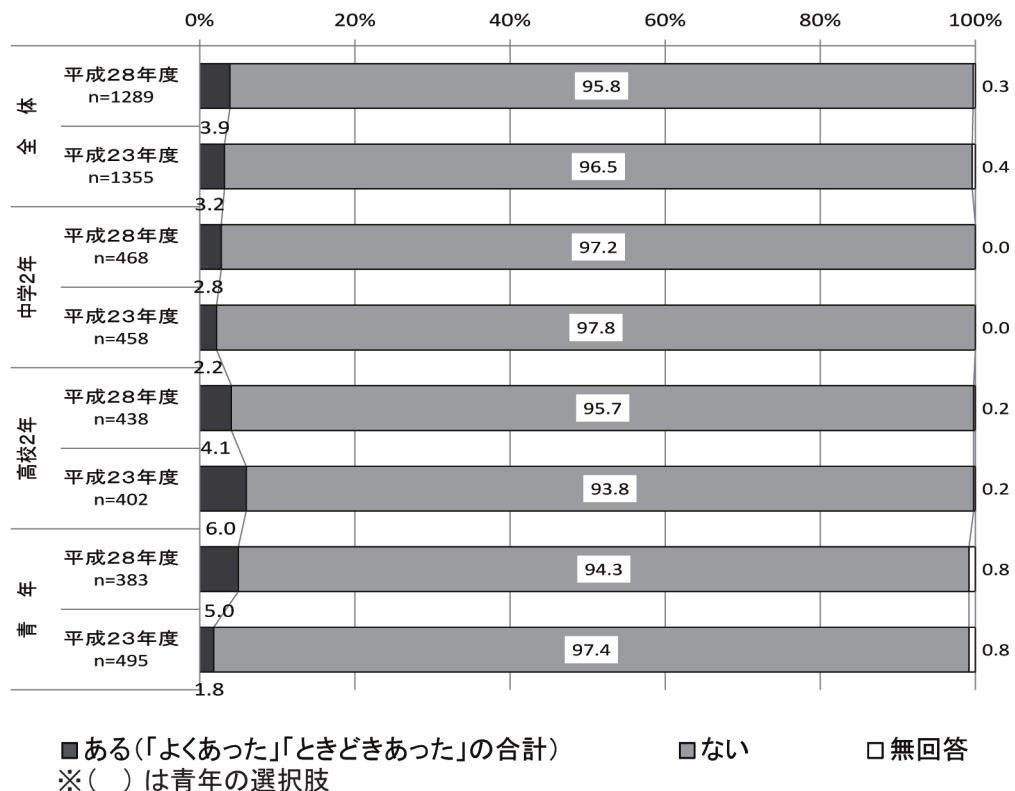
図116



(ウ) インターネット上の掲示板などで自分の悪口などの書き込みをされた

どの年代でも「ない」と回答した人が9割を超えている。「ある」と回答した割合が一番多かったのは青年(5%)である。

図117



## (11) 非行傾向による比較

### ▶▶ ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

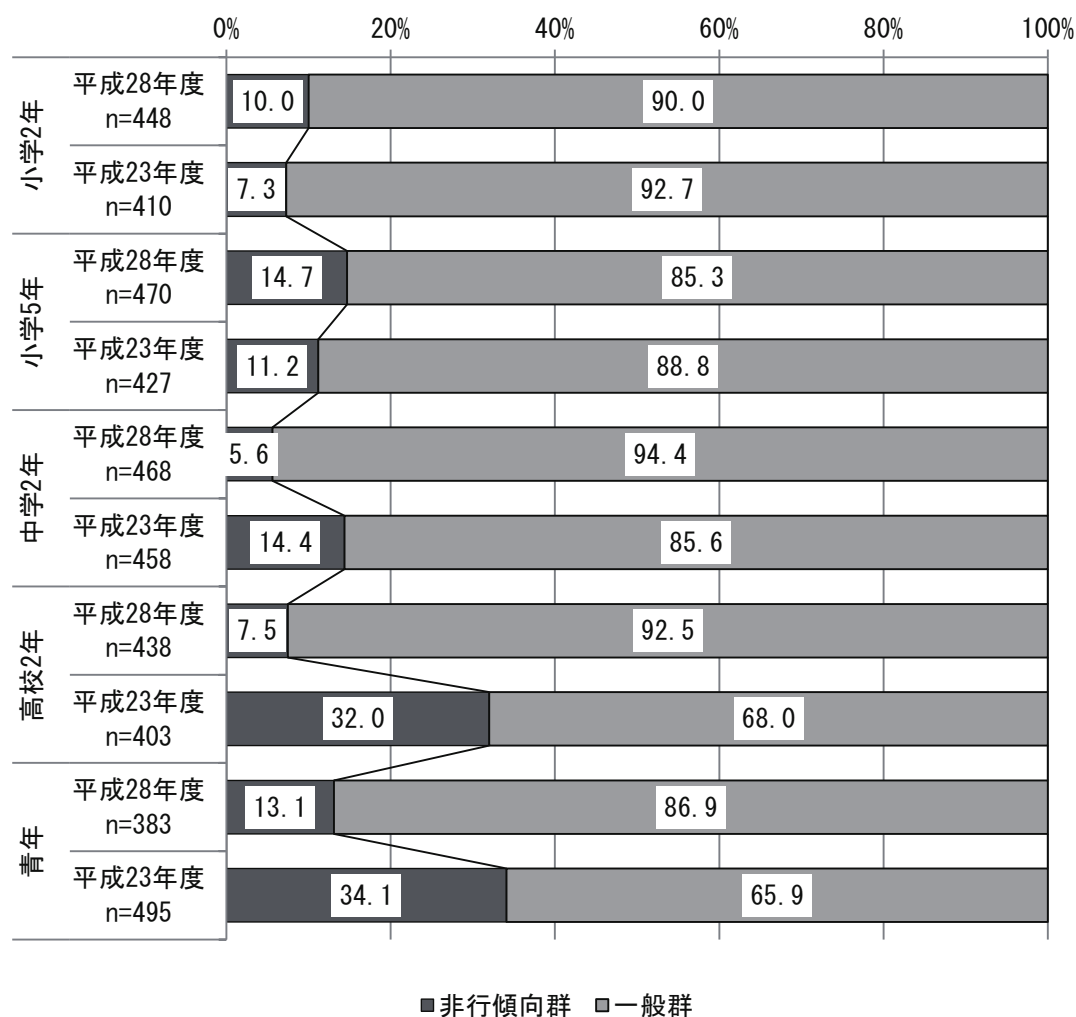
非行傾向群 = 以下の行為の最近1年間ぐらいの経験について、3つ以上「1～2度ある」「ときどきある」を選んだ者。(青年では高校生までに「よくあった」「ときどきあった」)

- ・ 友だちとゲームセンターで遊んだことがある
- ・ 友だちをいじめたことがある
- ・ 親のお金をだまって持ち出したことがある
- ・ 親にひどく反抗したことがある
- ・ 友だちと夜遅くまで遊んだことがある
- ・ 出会い系サイトを使ったことがある
- ・ インターネット上の掲示板等で他人の悪口等の書き込みをしたことがある

一般群 = 上記以外の者。

非行傾向群と一般群の割合 (%)

図 118



非行傾向群と一般群の割合は、各年代の1割未満から1.5割程度であった。

平成23年度と比較すると、小学2年と小学5年では非行傾向群が僅かに増加している一方で、中学2年では非行傾向群の割合が約9%、高校2年では約25%、青年では21%と大きく減少している。

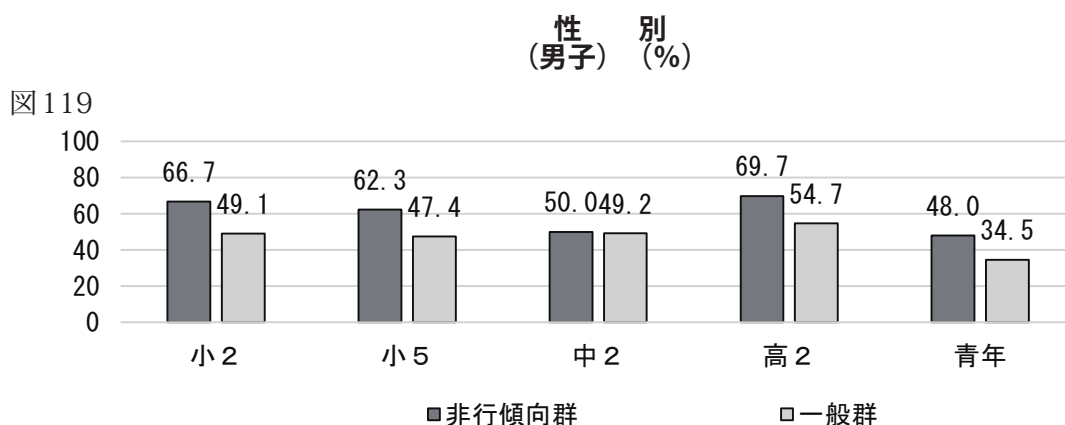
### ▶▶ イ 非行傾向群と一般群の比較方法

非行傾向群と一般群別に全質問項目を集計し、回答率に10%以上の差があった項目を抽出した。非行傾向群と一般群で2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。

なお、非行傾向群と一般群別の集計は、有効回答者数（n）から無回答を除いて行った。

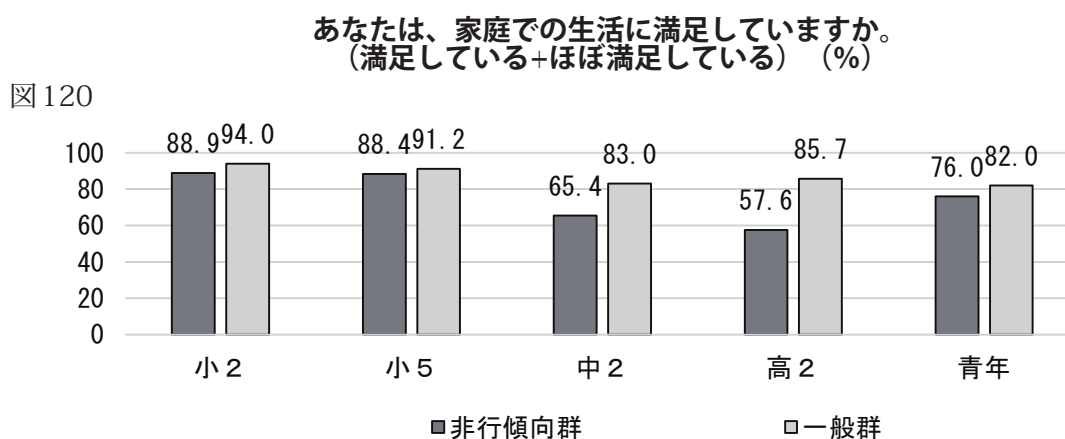
### ▶▶ ウ 属性

- 性別をみるといずれの年代でも非行傾向群の方が男子の割合が高く、中学2年以外では非行傾向群と一般群の差は10%以上あった。



### ▶▶ エ 家族・家庭

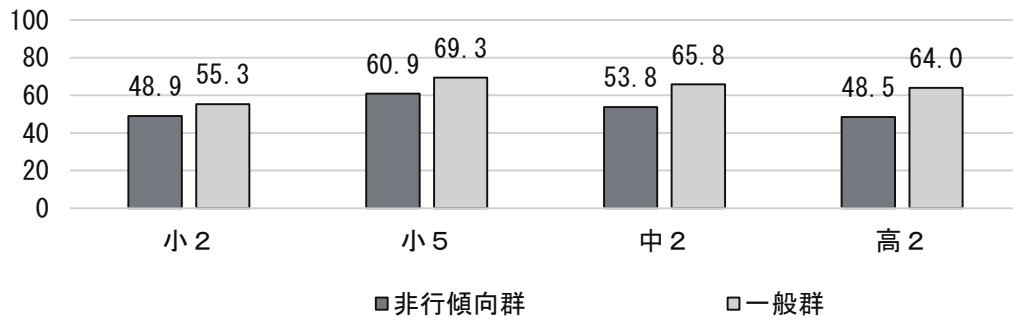
- 非行傾向群では、家庭生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合が一般群に比べ総じて低かった。特に非行傾向群と一般群の差が大きかったのは中学2年の約18%、高校2年の約28%であった。



- 非行傾向群では、大人の家族と一緒に夕食を食べる頻度について「ほとんど毎日一緒に食べる」と回答した割合が一般群に比べ全ての年代において低かった。非行傾向群と一般群の差は小学2年で約6%、小学5年で約8%、中学2年約12%、高校2年では約16%と、年代があがるにつれ差が大きくなる傾向があった。

あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）と一緒に夕飯を食べますか。  
（ほとんど毎日一緒に食べる）（%）

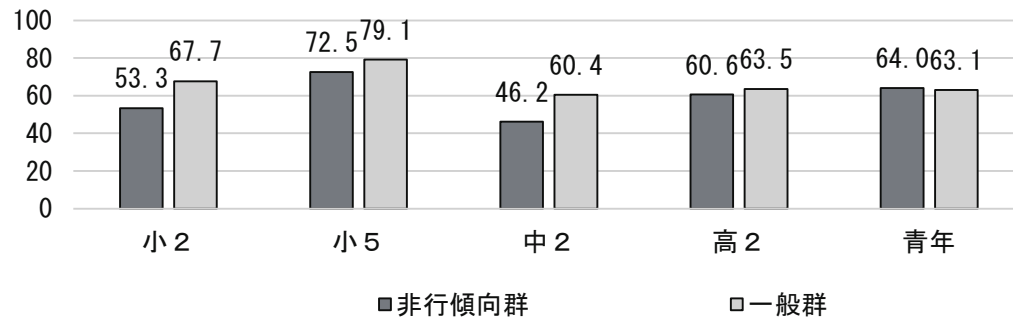
図 121



○ 家庭での大人の家族との会話の頻度を尋ねる質問で、「よく話す」と回答した割合は、青年を除く年代で非行経験群の方が低かった。一般群との差が大きかったのは小学2年と中学2年で、約14%の差があった。

あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）とどれくらい話をしますか。  
（よく話す）（%）

図 122



### ▶▶▶ オ 友人関係

○ 非行傾向群では、友だちになったきっかけを複数回答で選ぶ設問において「SNS (LINE、Twitter等)を通じて」友達になった、と回答した割合が高かった。一般群でSNSを通じた友人関係がある割合は中学2年、高校2年は、いずれも1割以下であったが、非行傾向群では、2割前後がSNSを通じた友人関係があると回答している。

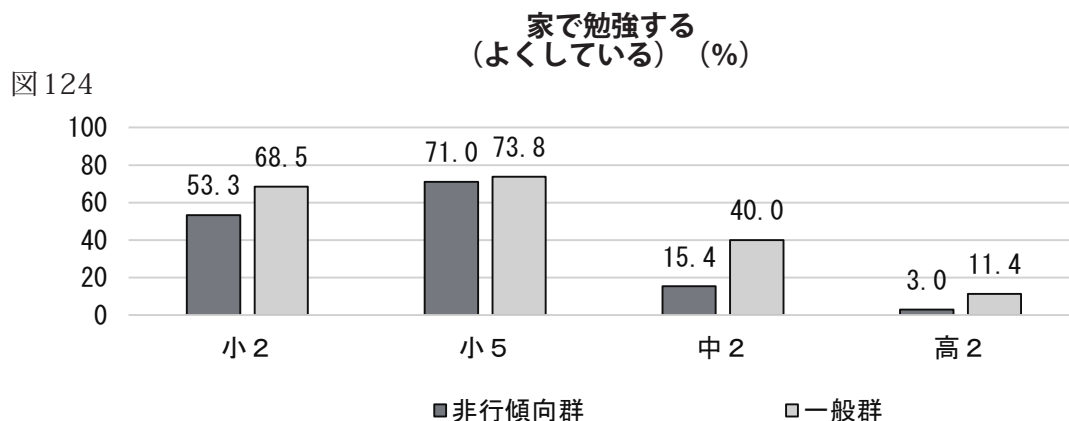
どんなきっかけで友だちになりましたか。  
（SNS (LINE、Twitter等)を通じて）（%）

図 123

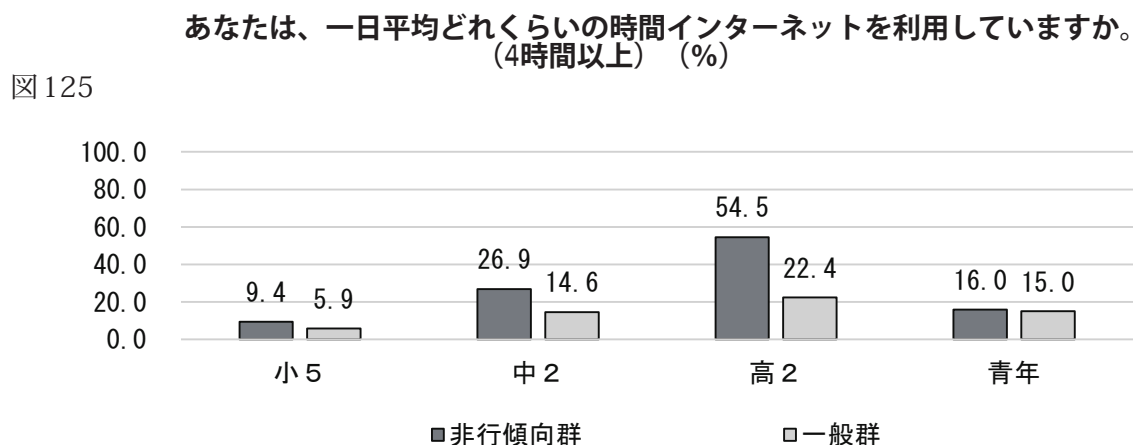


## ▶▶▶ 力 生活

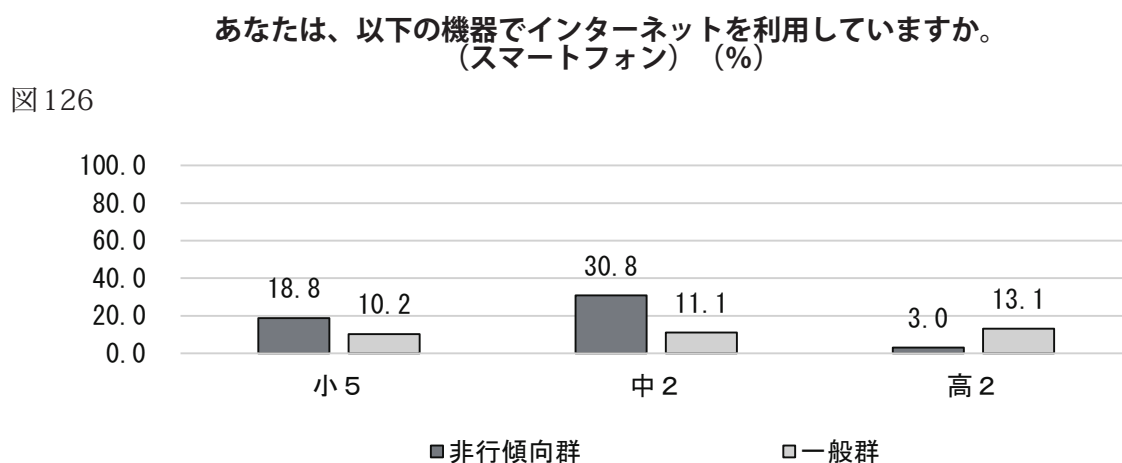
- 学習習慣についての設問で、「家で勉強」を「よくしている」と回答した割合は、総じて非行傾向群のほうが低く、特に中学2年では非行傾向群と一般群で約25%の差があった。



- また、一日のインターネット利用時間について、「4時間以上」と回答した割合は非行傾向群のほうが高く、特に中学2年では非行傾向群と一般群の差が約12%、高校2年では約32%の差があった。

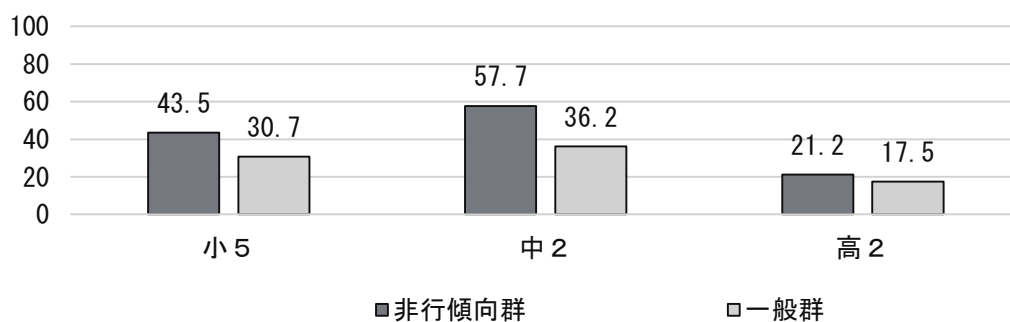


- インターネット接続機器の使用状況について尋ねた質問で、小学5年と中学2年の非行傾向群では「スマートフォン」「タブレット」「携帯音楽プレーヤー」「据え置き型ゲーム機」を使ってインターネットを利用していると回答した割合が、一般群よりも高い傾向にあった。



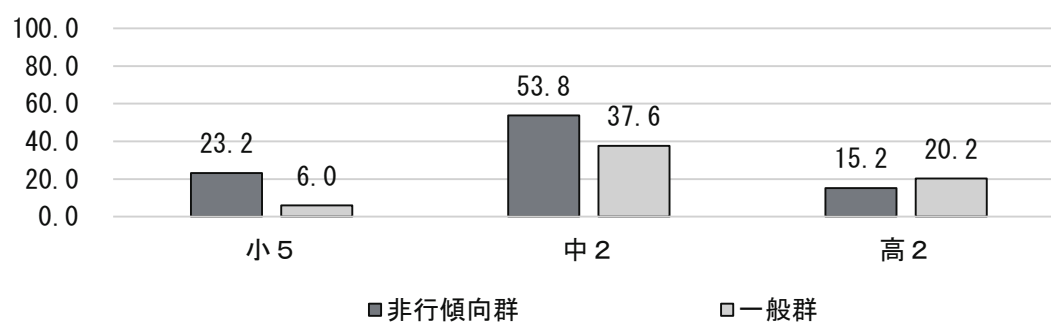
(タブレット (iPadなど) ) (%)

図 127



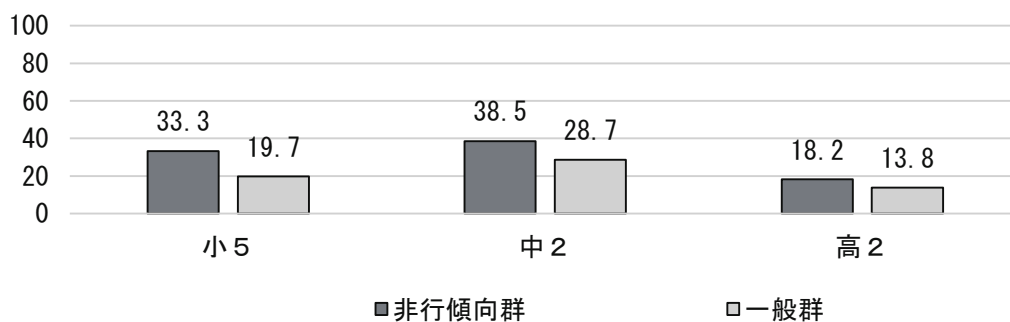
(携帯音楽プレーヤー (iPodやWALKMANなど) ) (%)

図 128



(据え置き型ゲーム機 (ゲーム機WiiやXbox、Playstationなど) ) (%)

図 129



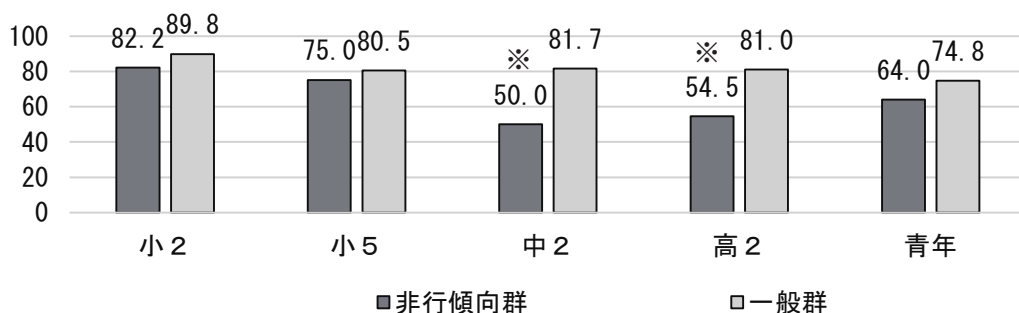
## キ 学校生活

- 学校生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は、いずれの年代でも非行傾向群の方が低かった。特に、中学2年と高校2年では非行傾向群と一般群の差が大きく、中学2年では約32%、高校2年では約27%の差があった。

※ 次のグラフ中で「※」があるものは、比率算出のもとになる人数が25人未満であることを示す。

あなたは、学校生活に満足していますか。  
(満足している+ほぼ満足している) (%)

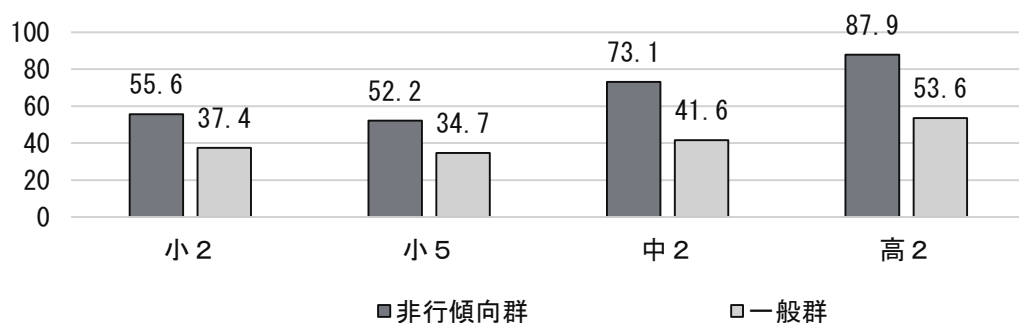
図130



- 登校前に「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思った経験が「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、いずれの年代でも非行傾向群のほうが高かった。非行傾向群と一般群の差は小学2年と小学5年で約18%、中学2年で約32%、高校2年で34%で、小学生よりも中学生・高校生の方が差が大きかった。

あなたは登校前に、「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思うことがありますか。  
(よくある+ときどきある) (%)

図131

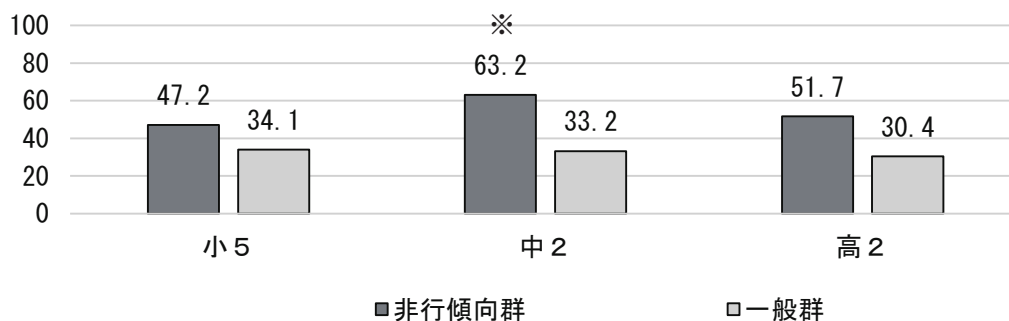




- また、学校に行きたくない理由として「勉強がおもしろくない」と回答した割合は、非行傾向群のほうが一般群よりも高く、その差は小学5年で約13%、中学2年で約30%、高校2年で約21%であった。  
 ※ 次のグラフ中で「※」があるものは、比率算出のもとになる人数が25人未満であることを示す。

質問26で、「1よくある」、「2ときどきある」を選んだ人に質問します。学校に行きたくない理由は何ですか。  
 (勉強がおもしろくないから) (%)

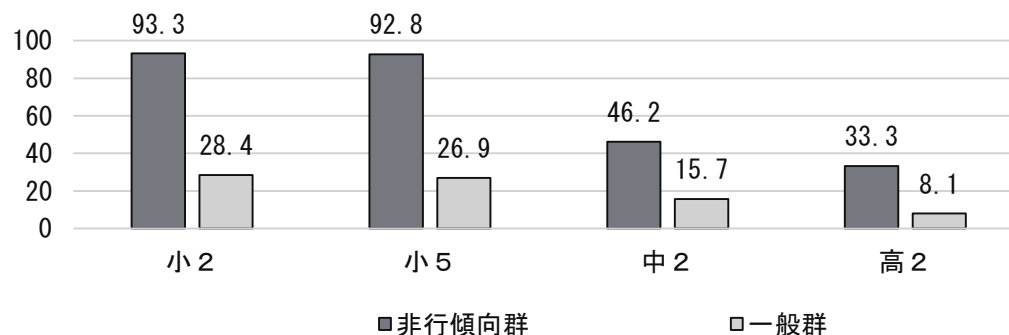
図 132



- いじめについての設問では、いじめた経験のある割合、いじめられた経験のある割合どちらも非行傾向群の方が一般群よりも高かった。(ある = 「1～2度ある」「ときどきある」の合計)

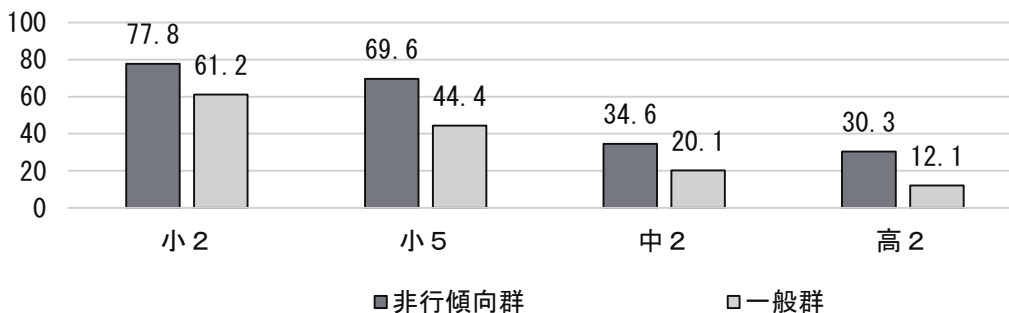
友だちをいじめたことがある  
 (ときどきある+1～2度ある) (%)

図 133



いじめられたことがある  
 (ときどきある+1～2度ある) (%)

図 134

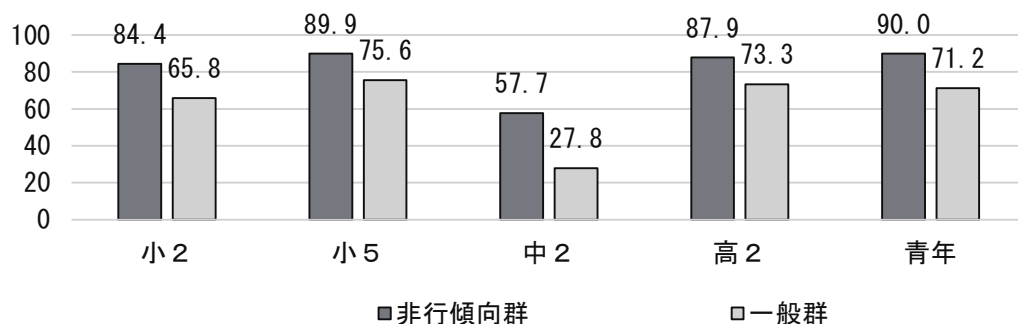


## ク 心の状態

- いらいらしたり、おこりっぽくなることが「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、いずれの年代でも非行傾向群のほうが高かった。特に、中学2年では非行傾向群と一般傾向群の差が約30%あった。

あなたは、いらいらしたり、おこりっぽくなったりすることがありますか。  
(よくある+ときどきある) (%)

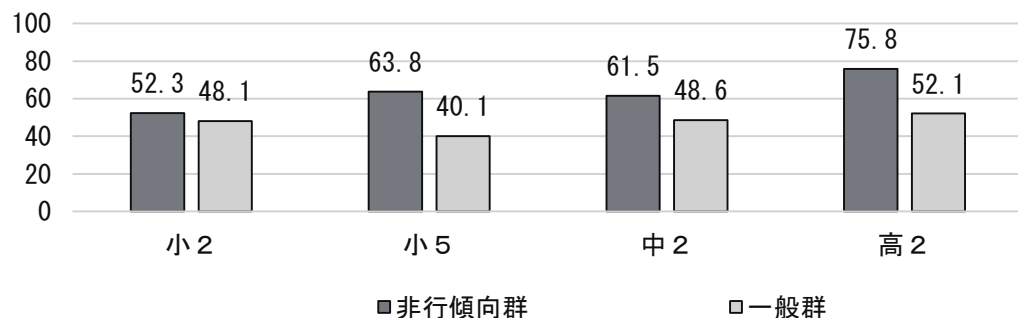
図135



- 悩みや心配なことが「ある」と回答した割合はいずれの年代でも非行傾向群のほうが高く、特に小学5年と高校2年では一般群と20%以上の差があった。

あなたは、悩みや心配なことがありますか。  
(ある) (%)

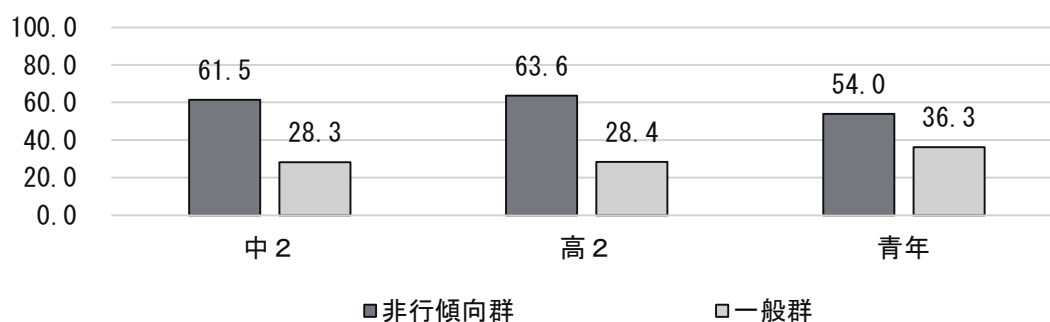
図136



- また、死にたいとおもったことが「ある（「1～2度ある」「ときどきある」の合計）」と回答した割合はいずれの年代でも非行傾向群のほうが高かった。非行傾向群と一般群の差は中学2年で約33%、高校2年で約35%、青年で約18%であった。

死にたいと思ったことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図137

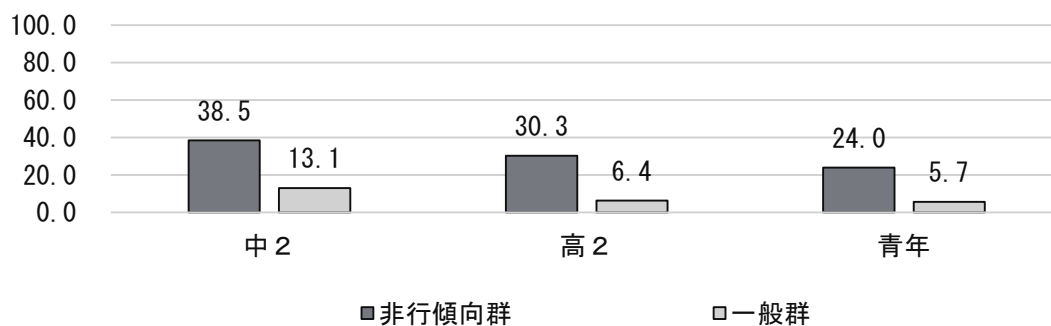


ケ 非行

- 最近1年くらいの触法行為の経験（青年は高校卒業までの経験）について尋ねた設問のうち「けんかをして、人をなぐった」「店の品物をお金を払わずに持って出た」の2つの項目で、非行傾向群の方が「ある」と回答した割合が高かった。

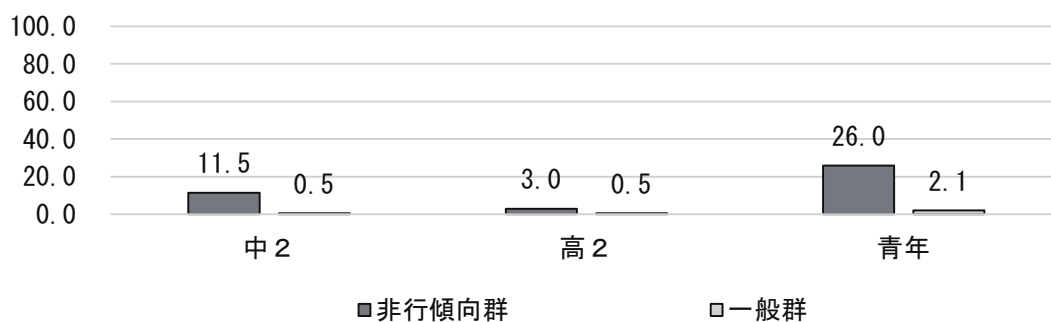
けんかをして、人をなぐった（ある）（%）  
※青年はよくあった+ときどきあった

図138



店の品物をお金を払わずに持って出た（ある）（%）  
※青年はよくあった+ときどきあった

図139



## (12) 触法行為経験による比較

### ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

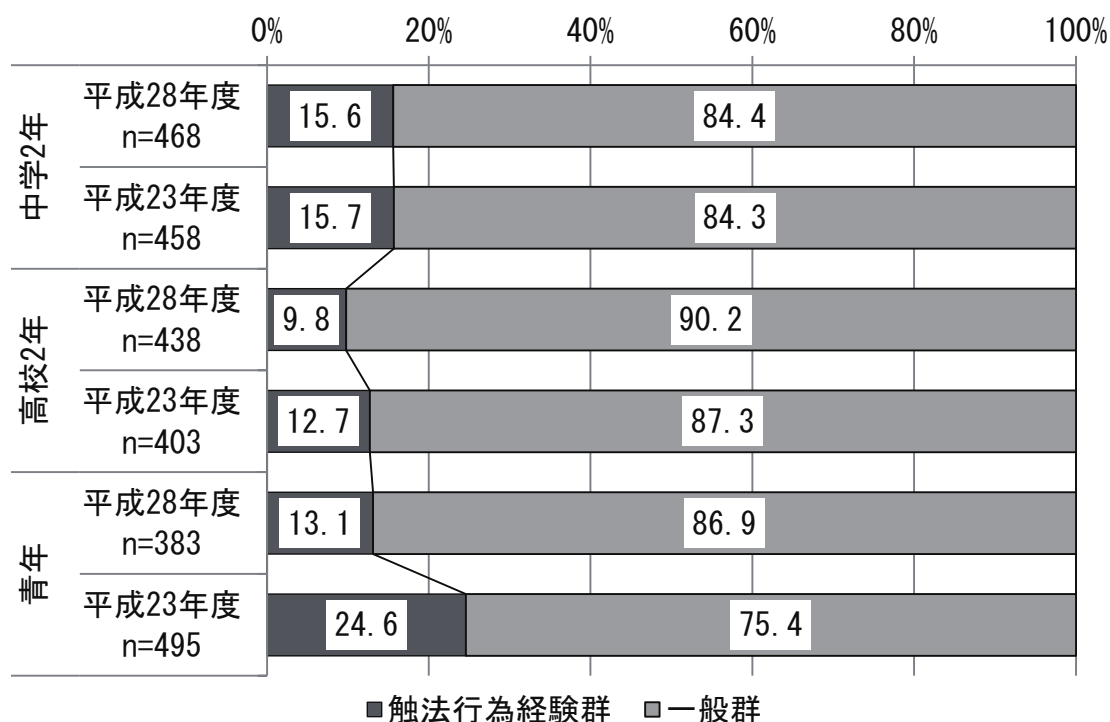
触法行為経験群 = 最近1年以内の自身の経験についての質問で、以下のうち一つでも「1～2度ある」「ときどきある」を選んだ者。(青年では18歳(高校卒業)までに「よくあった」「ときどきあった」)

- ・他人の自転車やオートバイを乗りまわした
- ・けんかをして、人をなぐった
- ・店の品物をお金を払わずに持って出た
- ・むりやり人からお金や品物を取りあげた
- ・大麻や覚醒剤、シンナーなどの薬物を使った
- ・ファッションや護身のためにナイフを持ち歩いた
- ・頭の中が真っ白になって暴力をふるった

一般群 = 上記以外の者。

触法行為経験群と一般群の割合 (%)

図140



触法行為経験群の割合は、各年代の1割未満から1.5割程度であった。最も割合が少ないのが高校2年の9.8%、次に青年の13.1%、最も多いのは中学2年の15.6%であった。

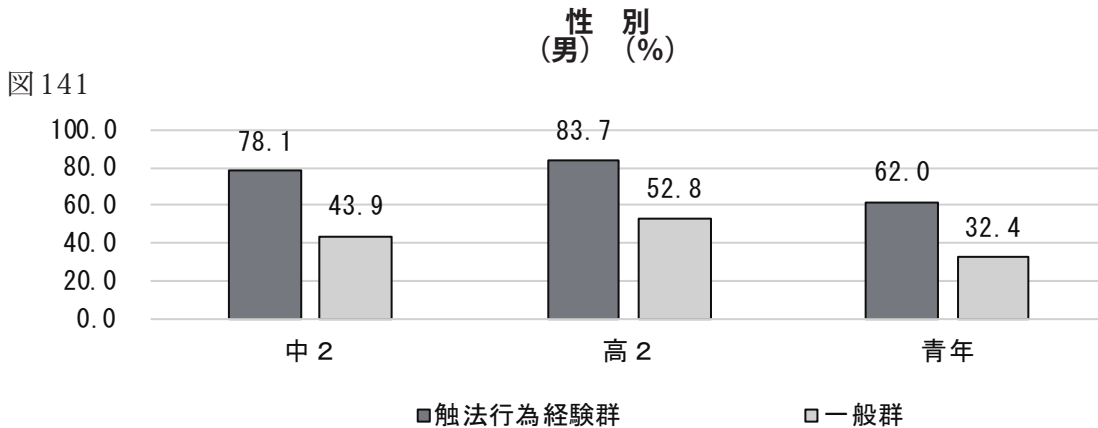
平成23年度と比較すると、触法行為経験群の割合は、中学2年ではほとんど変わらず、高校2年では3%程度、青年では10%以上減少している。

### イ 触法行為経験群と一般群の比較方法

触法行為経験群と一般群別に全質問項目を集計し、回答率に10%以上の差があった項目を抽出した。触法行為経験群と一般群で、2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。(なお、触法行為経験群と一般群別の集計は、有効回答者数(n)から無回答を除いて行った。)

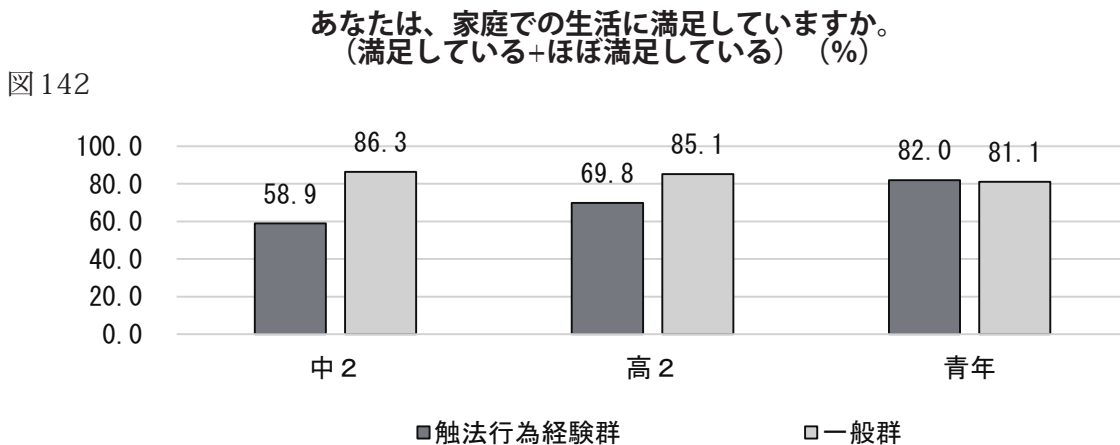
ウ 属性

○ 性別をみると、いずれの年代でも触法行為経験群の方が男子の割合が高かった。一般群との差は中学2年で約34%、高校2年で約31%、青年で約30%であった。

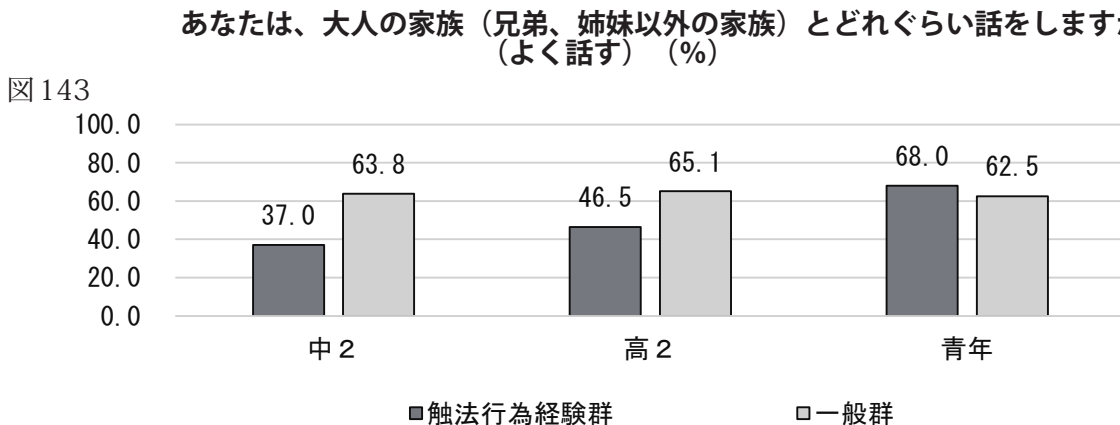


エ 家族・家庭

○ 家庭生活の満足度について、「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は、中学2年では約27%、高校2年では約15%触法行為経験群の方が低かった。青年では触法行為経験群と一般群で家庭生活の満足度に大きな差はなかった。



○ 家庭での大人の家族との会話の頻度を尋ねる質問に対し、「よく話す」と回答した割合は、中学2年では約27%、高校2年では約19%触法行為経験群の方が低かった。一方で、青年では触法行為経験群のほうが約6%「よく話す」の割合が高かった。

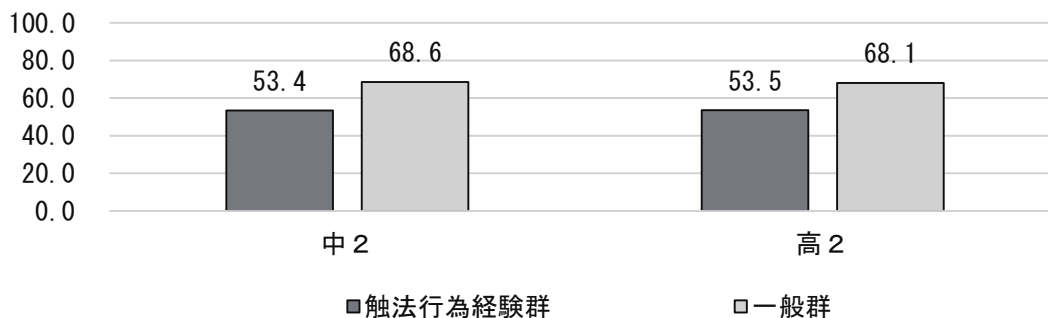


### ▶▶▶ オ 地域とのかかわり・地域での活動

○ 選挙の投票を通じての政治参加への意識を尋ねる質問に対し、「行く（必ず行く、なるべく行くの合計）」と回答した割合は触法行為経験群の方が低かった。一般群との差は、中学2年と高校2年のどちらの年代でも約15%であった。

あなたは、18歳になったら選挙の投票に行きたいと思いますか。  
(必ず行く+なるべく行く) (%)

図144

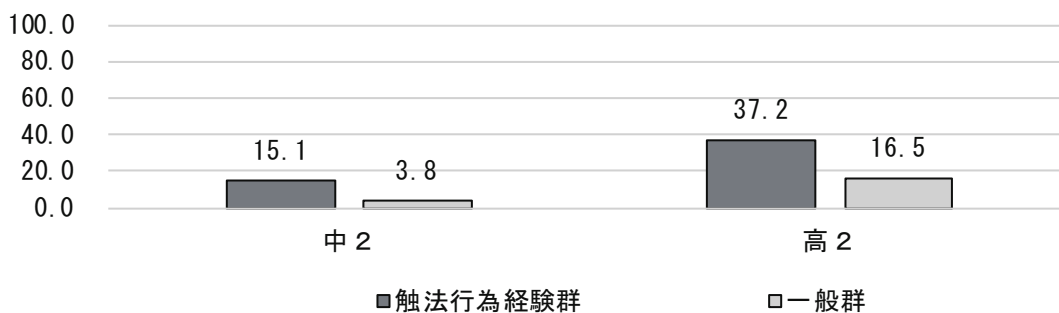


### ▶▶▶ カ 生活

○ 学習習慣についての設問で、「家で勉強」を「全然していない」と回答した割合は、触法行為経験群の方が多く、一般群との差は中学2年で約11%、高校2年で約21%の差があった。

家で勉強する  
(全然していない) (%)

図145

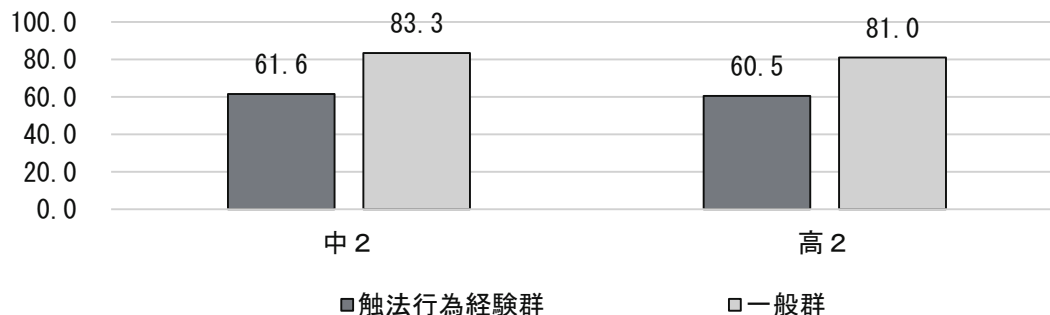


### ▶▶▶ キ 学校生活

○ 学校生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は、中学2年と高校2年のどちらの年代でも触法行為経験群の方が2割以上低かった。

あなたは、学校生活に満足していますか。  
(満足している+ほぼ満足している) (%)

図146



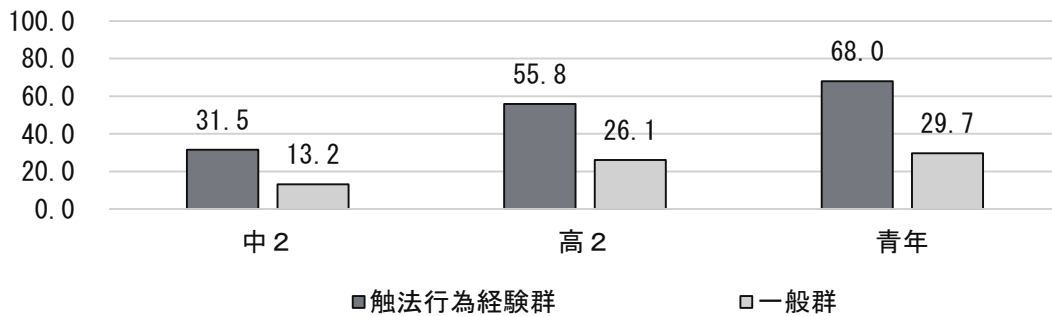
ク 非行

○ 深夜外出、学校の先生への暴力の非行行為の経験について、ある（「1～2度ある」「ときどきある」の合計）と回答した割合は総じて触法行為経験群の方が多かった（下記グラフ参照）。

下記のグラフの他にも、「学校の授業をさぼった」「家のお金をだまって持ち出した」「家の人にひどく反抗した」「友達とゲームセンターに行った」「家の人にだまって外泊した」「アダルト（ポルノ）雑誌やアダルトDVDを見た」「インターネットのアダルトサイト（動画・画像）を見た」の項目でも同様の傾向があった。

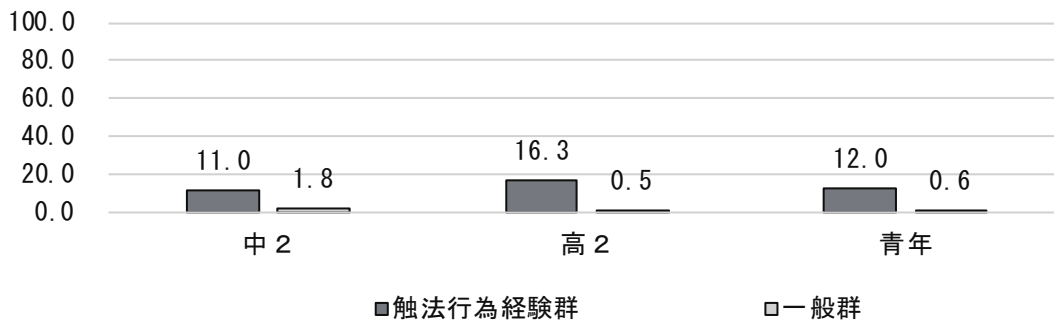
友だちと深夜まで遊んでいたことがある  
（ときどきある+1～2度ある）（%）

図 147



学校の先生に暴力で反抗したことがある  
（ときどきある+1～2度ある）（%）

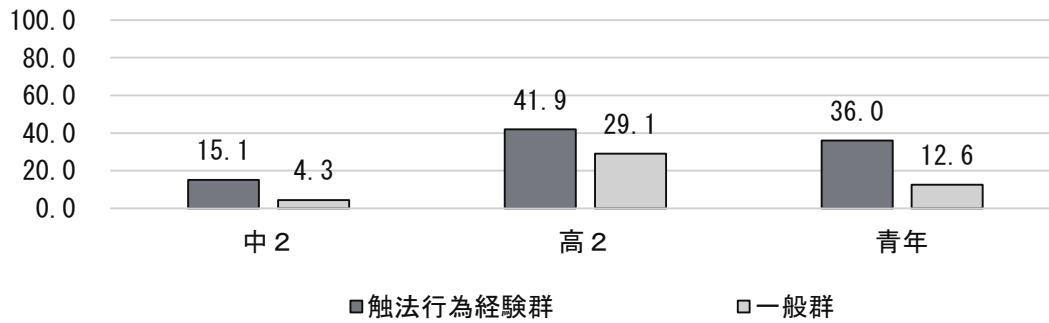
図 148



- 性非行についての意識に関して、「今のあなたの年齢（青年は高校生の年齢）で、してもよいと思うものを全て選んでください」という質問への回答を触法行為経験群と一般群に分けてクロス集計したところ、「二人で泊まりがけの旅行に行く」「性関係を持つ」の項目で、触法行為経験群のほうが「してもよい」と回答する割合が高かった（下記グラフ参照）。

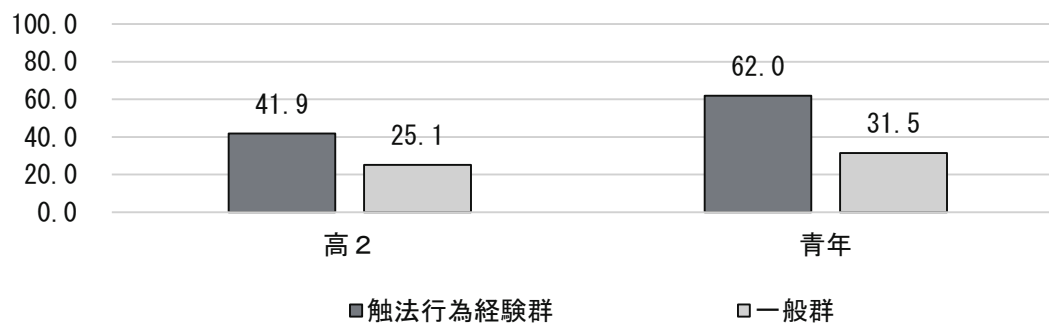
**異性との交際について、今のあなた自身の年齢で、してもよいと思うものを  
すべて選んで○をつけてください  
(二人で泊まりがけの旅行に行く) (%)**

図 149



**異性との交際について、今のあなた自身の年齢で、してもよいと思うものを  
すべて選んで○をつけてください  
(性関係を持つ) (%)**

図 150





## (13) 性関係を持ってもよいと思うか、思わないかによる比較

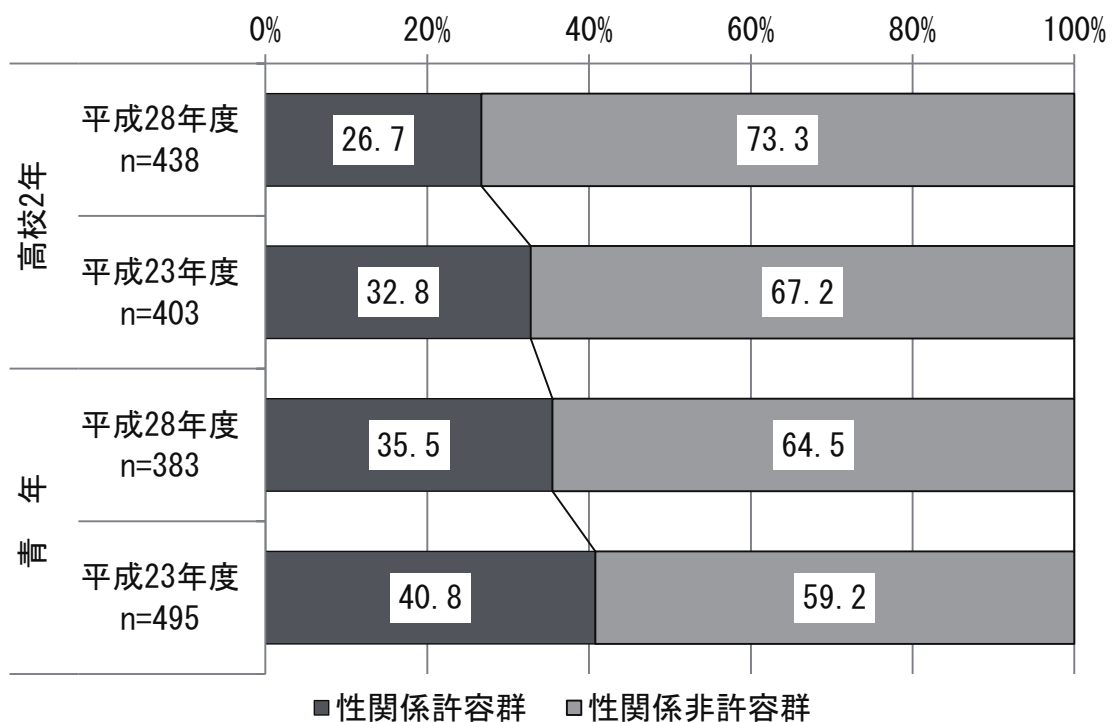
### ▶▶ ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

性関係を持ってもよいと思う群 = 「今のあなたの年齢（青年は高校生の年齢）で、してもよいと思うものを全て選んでください」という問いで、「性関係を持つ」を選択した者。以下「性関係許容群」という。

性関係を持ってもよいと思わない群 = 上記以外の者。以下「性関係非許容群」という。

性関係許容群と性関係非許容群の割合 (%)

図 151



平成 28 年度における性関係許容群の割合は、高校 2 年の約 27%、青年の約 36%であった。

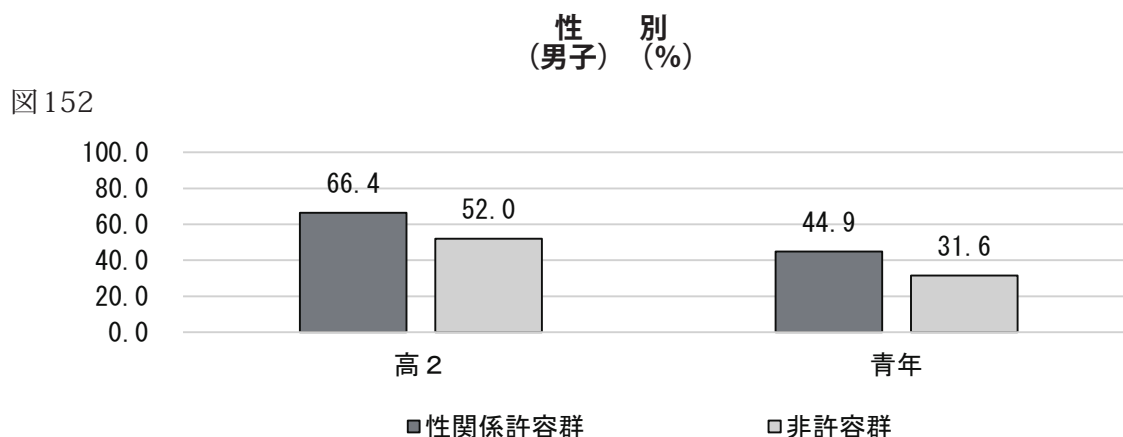
平成 23 年度と比較すると、性関係許容群の割合は高校 2 年では 6.1%、青年では 5.3%減少した。

### ▶▶ イ 性関係許容群と性関係非許容群の比較方法

性関係許容群と性関係非許容群別に全質問項目を集計し、回答率に 10%以上の差があった項目を抽出した。性関係許容群と性関係非許容群で、2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。(なお、性関係許容群と性関係非許容群別の集計は、有効回答者数 (n) から無回答を除いて行った。)

## ウ 属性

- 性別をみると、性関係許容群では非許容群と比べて男子の割合が高く、非許容群とは高校2年、青年どちらも14%程度の差があった。



## エ 非行

- 性関係許容群では、下記グラフのとおり非行に該当する行為について、最近1年ぐらいの間に経験が「ある(1~2度ある、ときどきあるの合計)」と回答した割合が非許容群よりも高かった。(青年は18歳(高校卒業)までに「あった(よくあった、ときどきあったの合計)」

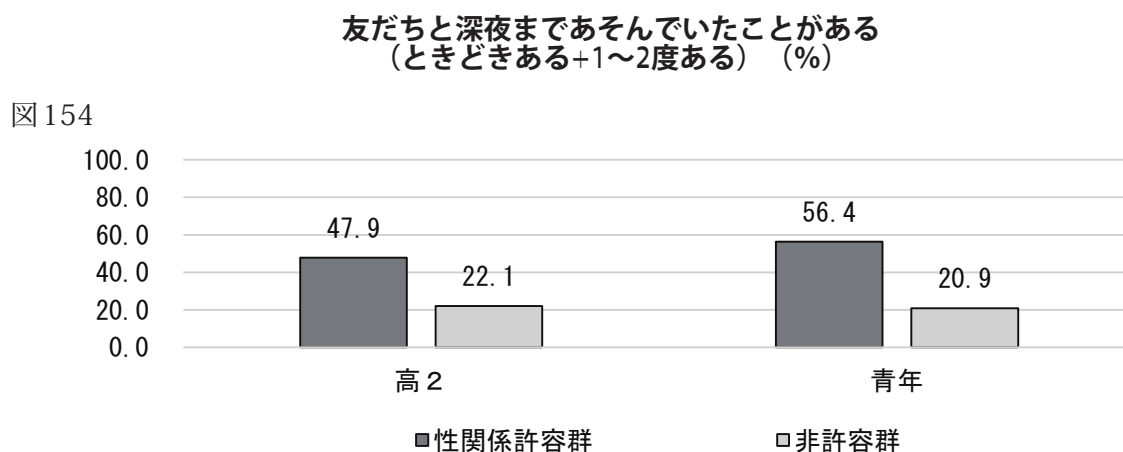
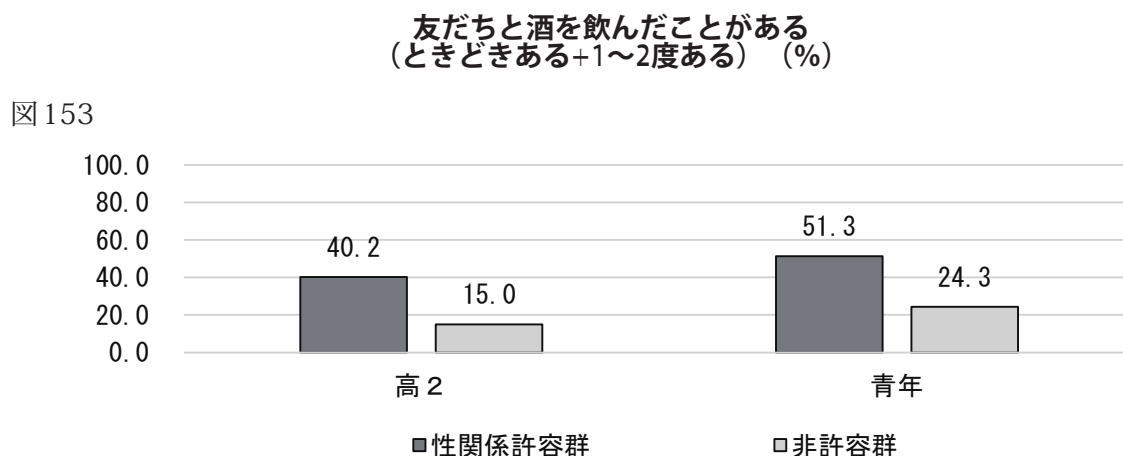


図 155

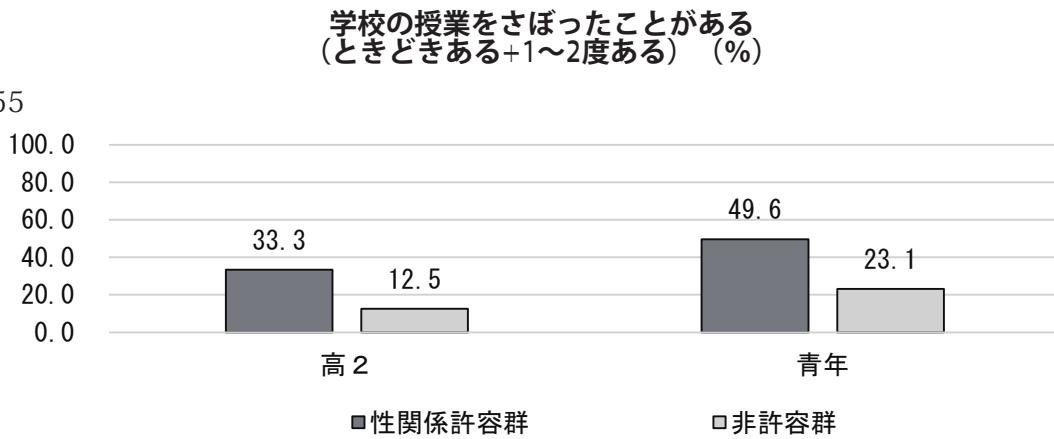


図 156

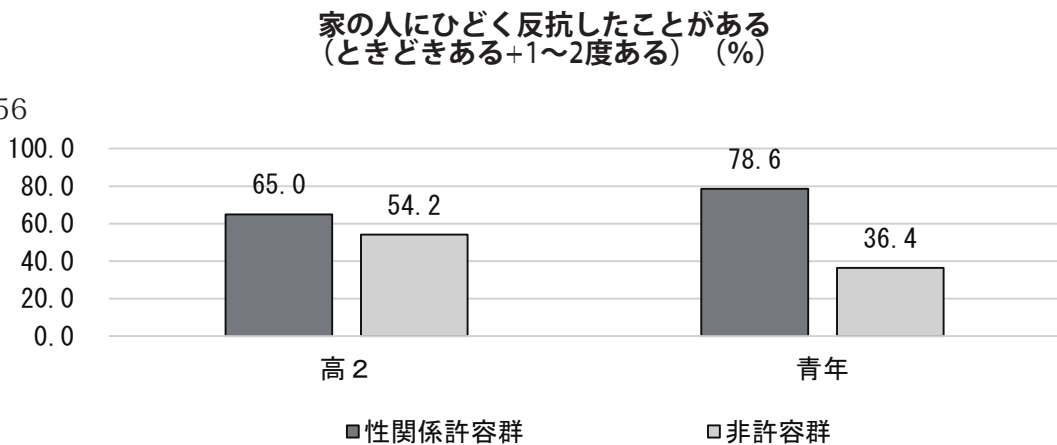


図 157

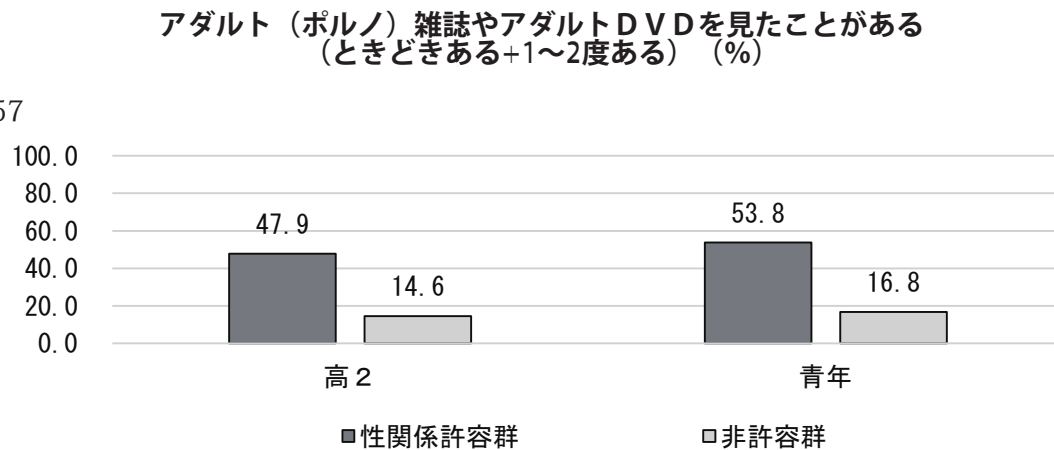
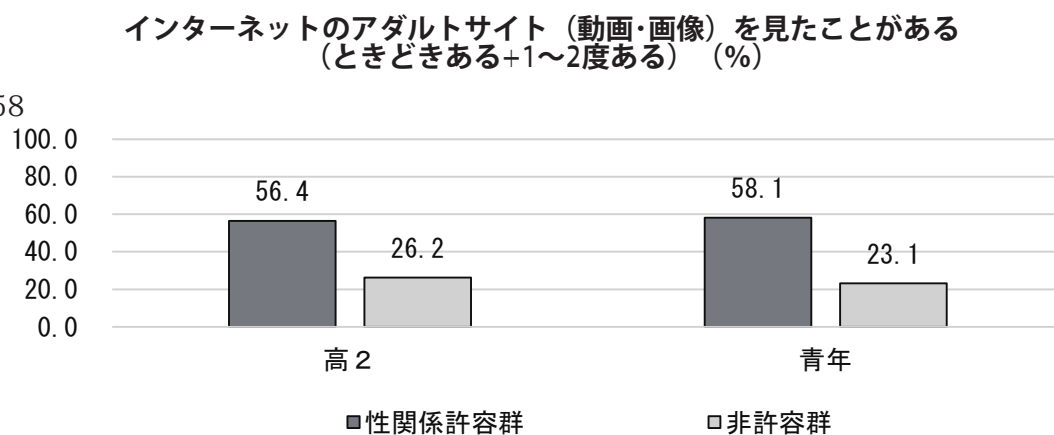


図 158



## (14) 「死にたい」と思った経験による比較

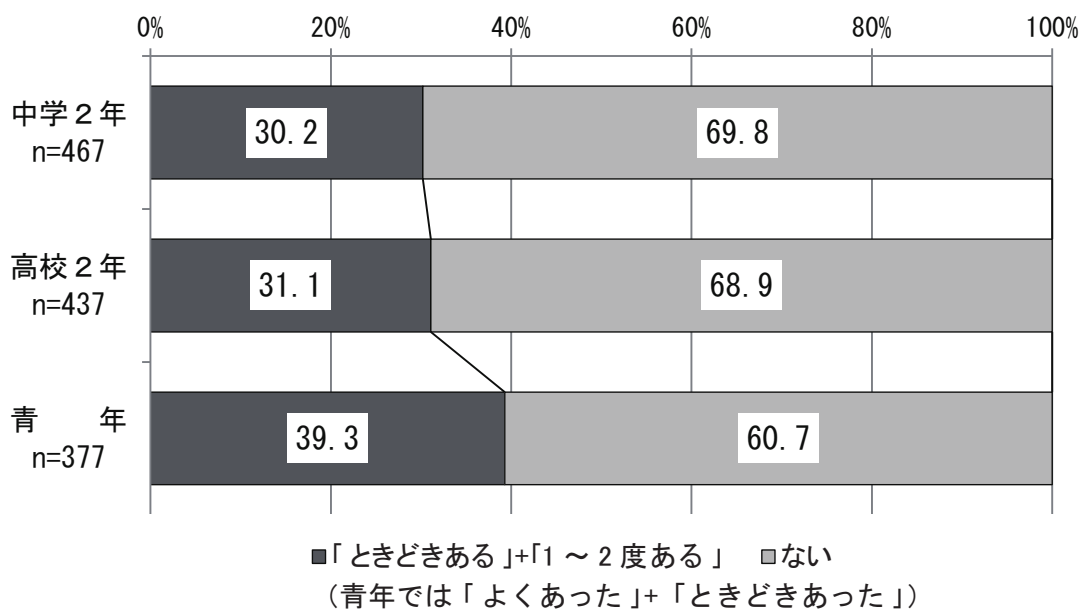
### ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

「死にたい」と思った経験がある群 = 最近1年以内の自身の経験について、「死にたいとおもったこと」が「ときどきある」「1～2度ある」（青年では18歳（高校卒業）までに「よくあった」「ときどきあった」）と回答した者。以下「自死願望経験群」という。

「死にたい」と思った経験がない群 = 上記以外の者。以下「自死願望非経験群」という。

自死願望経験群と自死願望非経験群の割合（％）

図159



自死願望経験群の割合は、中学2年と高校2年の約3割、青年の約4割であった。

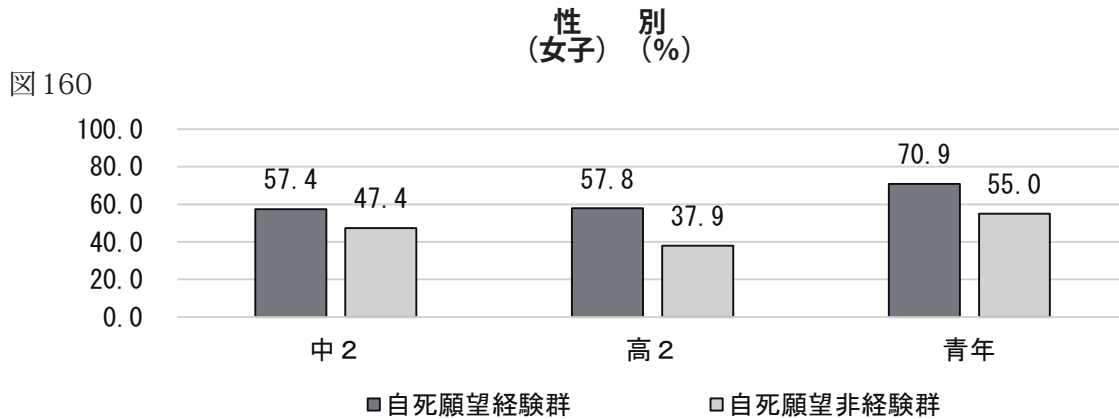
(平成28年度調査で質問文を修正した質問項目であるため、過去の調査との比較はできない)

### イ 自死願望経験群と自死願望非経験群の比較方法

自死願望経験群と自死願望非経験群別に全質問項目を集計し、回答率に10%以上の差があった項目を抽出した。自死願望経験群と自死願望非経験群で、2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。(なお、自死願望経験群と自死願望非経験群別の集計は、有効回答者数(n)から無回答を除いて行った。)

ウ 属性

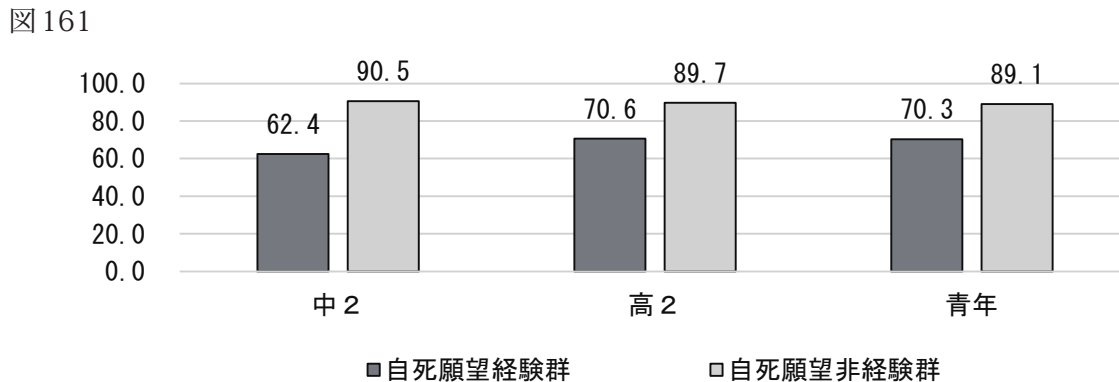
○ 性別をみると、自死願望経験群の方が女子の割合が高かった。非経験群との差は中2で約11%、高校2年で約20%、青年で約18%であった。



エ 家族・家庭

○ 自死願望経験群では、家庭生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合が非経験群に比べ低かった。非経験群との差は、中学2年で約28%、高校2年と青年で約19%であった。

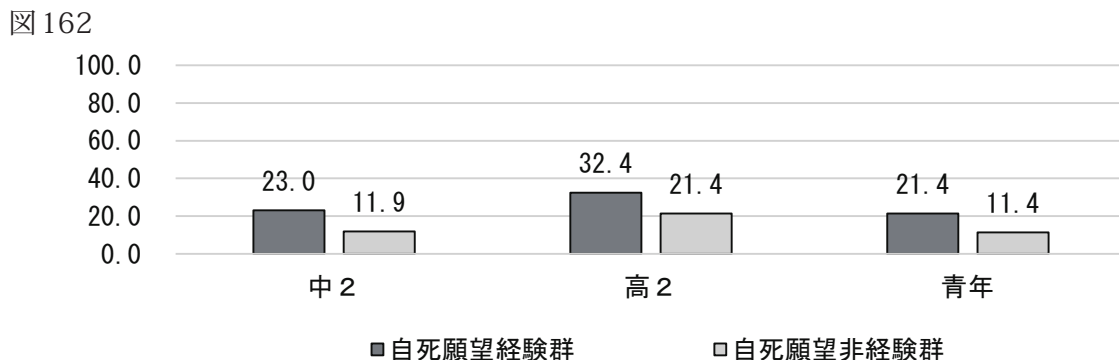
あなたは、家庭での生活に満足していますか。  
(満足している+ほぼ満足している) (%)



オ 生活

○ 一日のインターネット利用時間について、「4時間以上」と回答した割合は自死願望経験群の方が高く、中学2年、高校2年、青年のいずれの年代でも10%以上の差があった。

あなたは、一日平均どれくらいの時間インターネットを利用していますか。  
(4時間以上) (%)

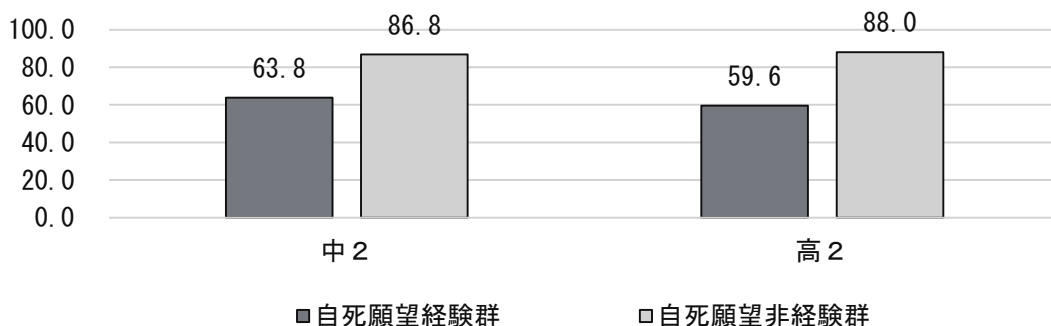


## ▶▶▶ 力 学校生活

- 学校生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は自死願望経験群のほうが低く、非経験群との差は中学2年で23%、高校2年で約28%であった。

**あなたは、学校生活に満足していますか。  
（満足している+ほぼ満足している）（%）**

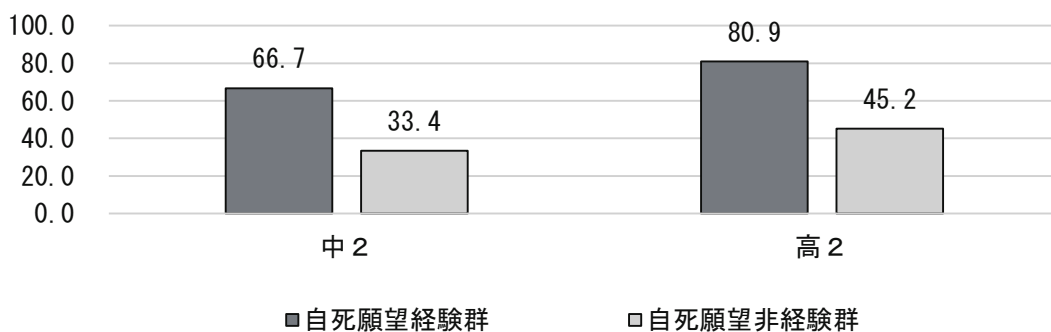
図163



- 登校前に「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思った経験が「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、中学2年、高校2年どちらの年代でも自死願望経験群のほうが高く、非経験群との差は30%以上あった。

**あなたは登校前に、「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思うことがありますか  
（よくある+ときどきある）（%）**

図164



- 登校前に「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思った経験が「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した者に、その理由を尋ねたところ、自死願望経験群は「勉強がおもしろくないから」「友だちとの人間関係がうまくいかないから」を挙げる割合が高かった。

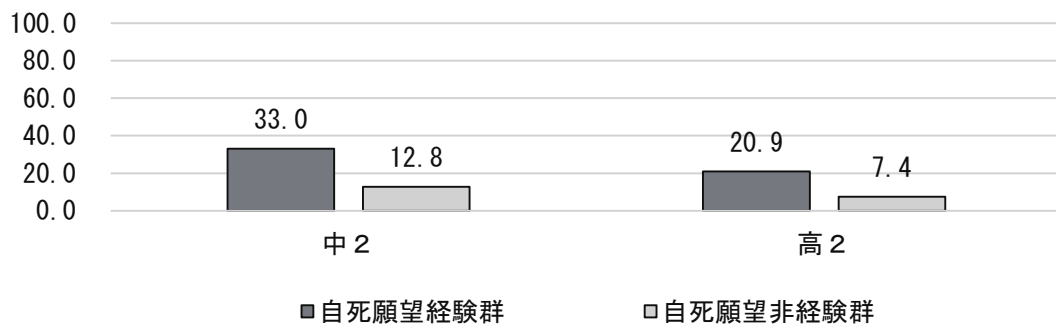
**質問26で、「1よくある」、「2ときどきある」を選んだ人に質問します。学校に行きたくない理由は何ですか。  
（勉強がおもしろくないから）（%）**

図165



質問26で、「1よくある」、「2ときどきある」を選んだ人に質問します。学校に行きたくない理由は何ですか。  
(友だちとの人間関係がうまくいかないから) (%)

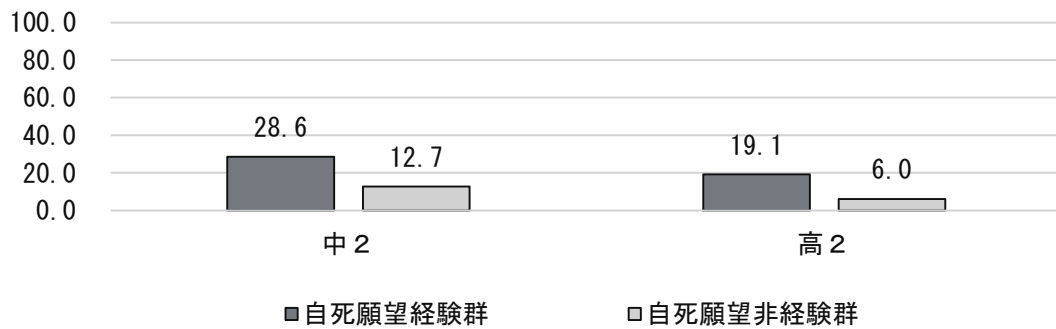
図 166



○ いじめについての設問では、いじめた経験のある割合、いじめられた経験のある割合どちらも自死願望経験群の方が非経験群よりも高かった。

友だちをいじめたことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図 167



いじめられたことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図 168

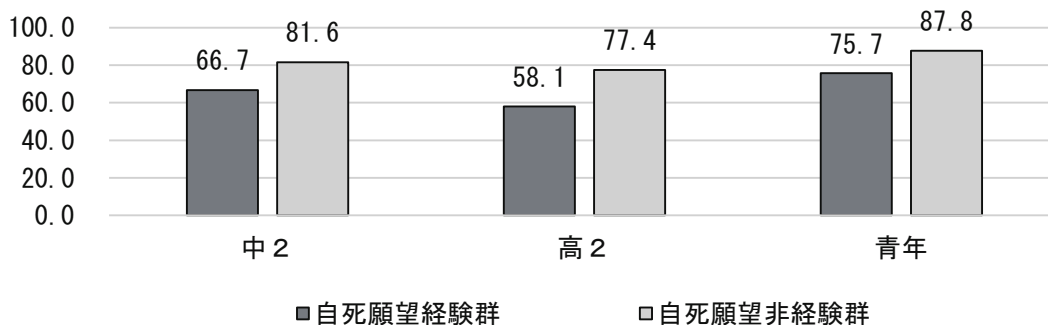


## キ 心の状態

- 自己肯定感についての設問で、自分には良いところが「ある（ある、どちらかといえばあるの合計）」と回答した割合は、自死願望経験群の方が低かった。非経験群との差は、中学2年で約15%、高校2年で約19%、青年で約12%であった。

**あなたは、自分には良いところがあると思いますか。  
（ある+どちらかといえばある）（%）**

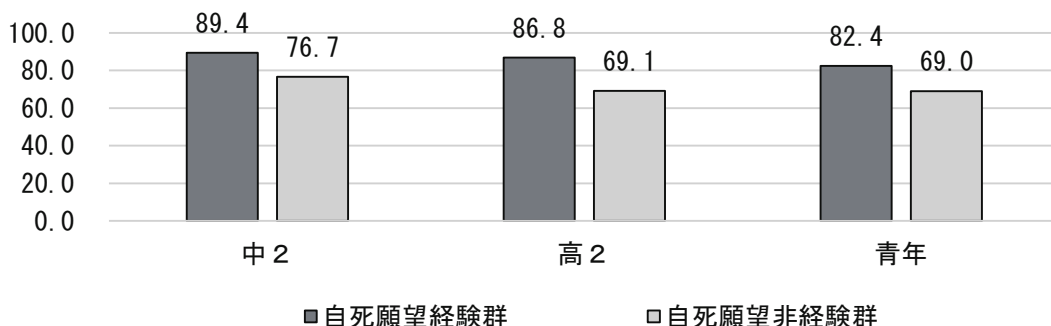
図169



- いらいらしたり、おこりっぽくなるのが「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、いずれの年代でも自死願望経験群のほうが高かった。非経験群との差は、中学2年で約13%、高校2年で約18%、青年で約13%であった。

**あなたは、いらいらしたり、おこりっぽくなったりすることがありますか。  
（よくある+ときどきある）（%）**

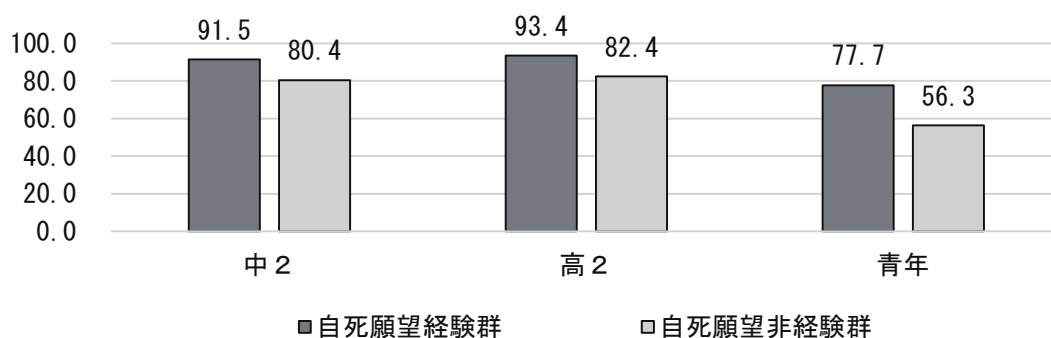
図170



- 疲労感、倦怠感についての設問（いつも疲れた感じがする）について「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、いずれの年代でも自死願望経験群のほうが高かった。非経験群との差は、中学2年、高校2年では約11%、青年では約21%であった。

**あなたは、いつも疲れた感じがしますか。  
（よくある+ときどきある）（%）**

図171

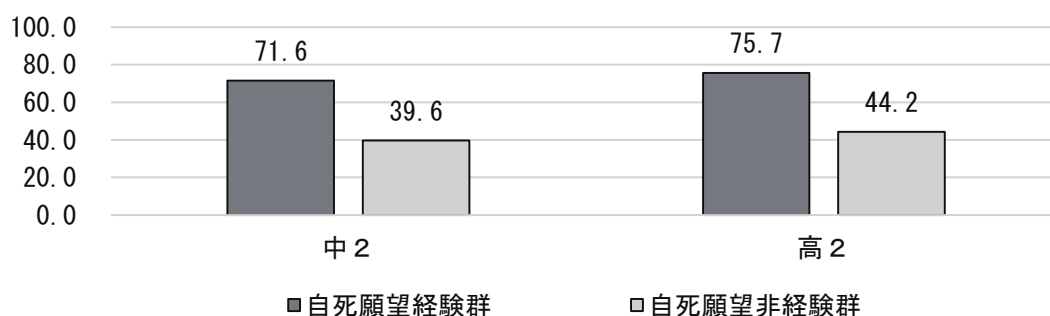




- 悩みの有無につて、悩みや心配なことが「ある」と回答した割合は、自死願望経験群の方が高く、中学2年、高校2年のどちらの年代でも非経験群との差は3割以上あった。

あなたは、悩みや心配なことがありますか。  
(ある) (%)

図 172



- 悩みや心配なことが「ある」と回答した者にその内容を複数選択で尋ねる設問において、自死願望経験群と非経験群で大きな差が現れた項目は「自分の性格のこと」であった。

質問7で、「1ある」を選んだ人に質問します。それはどんなことについてですか。  
(自分の性格のこと) (%)

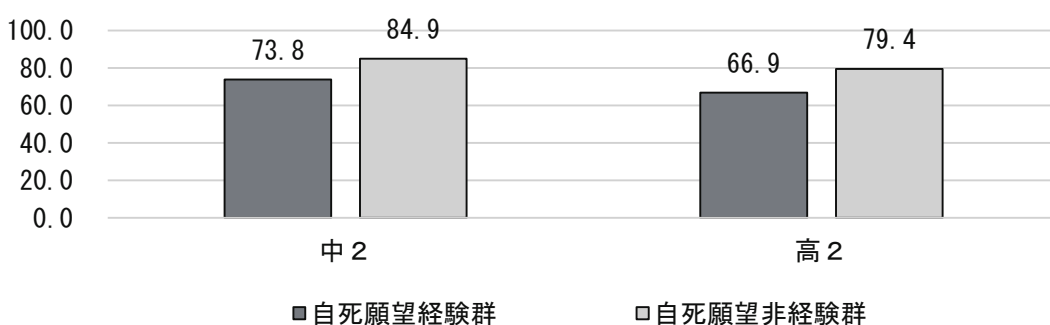
図 173



- 達成感についての設問で、自分もやればできると思えるような経験が「ある」と回答した割合は、自死願望経験群の方が10%以上低かった。

あなたは「自分もやればできるんだ」と思えるような体験をしたことがありますか  
(ある) (%)

図 174

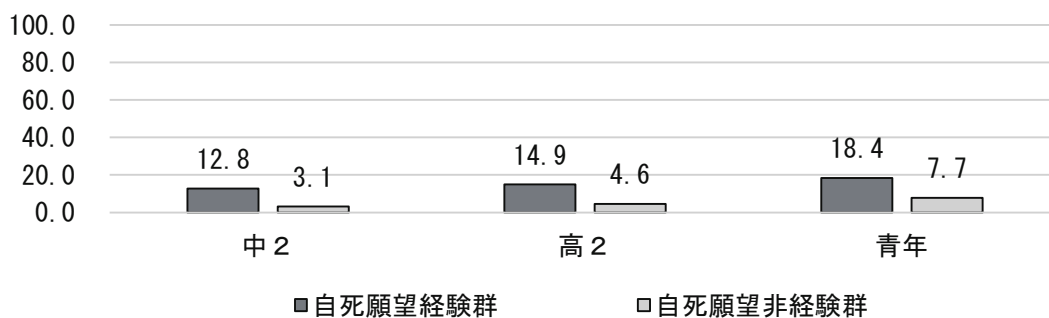


## ク 非行

○ 自死願望経験群では、下記グラフのとおり非行に該当する行為について、最近1年ぐらいの間に経験が「ある（1～2度ある、ときどきあるの合計）」と回答した割合が非経験群よりも高かった。（青年は18歳（高校卒業）までに「あった（よくあった、ときどきあったの合計）」

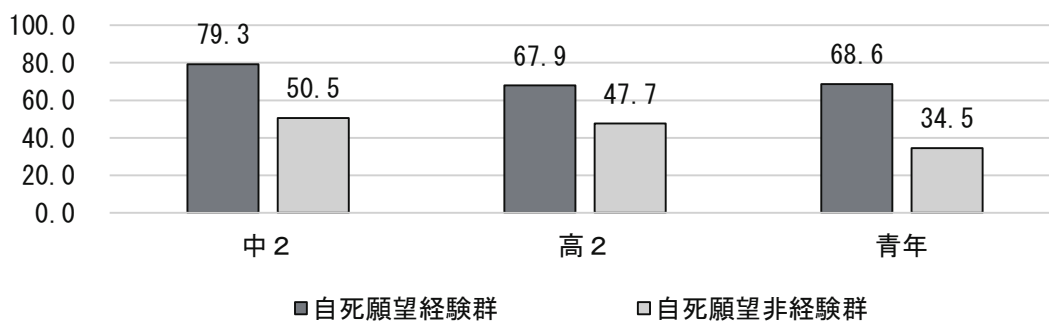
家のお金を、だまって持ち出したことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図175



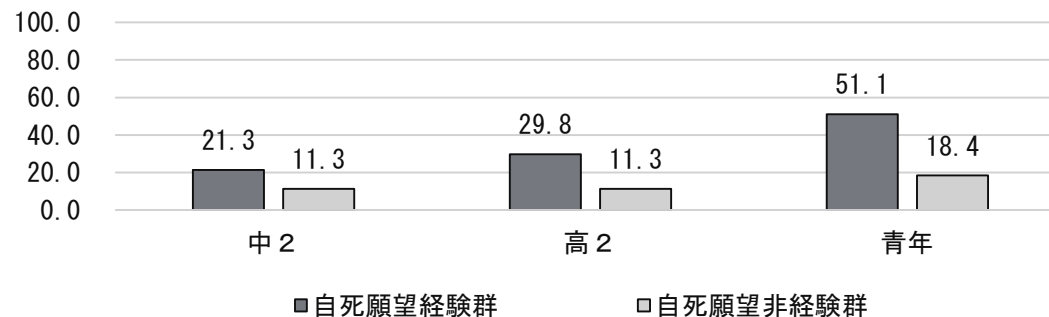
家の人にひどく反抗したことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図176



学校の授業をさぼったことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図177



## (15) ボランティアへの参加経験の有無による比較

### ▶▶ ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

ボランティアへの参加経験がある群 = 最近1年以内のボランティア活動への参加回数についての質問で、「1～2回」「3～5回」「6～9回」「10回以上」と回答した者。  
以下「ボランティア参加群」という。

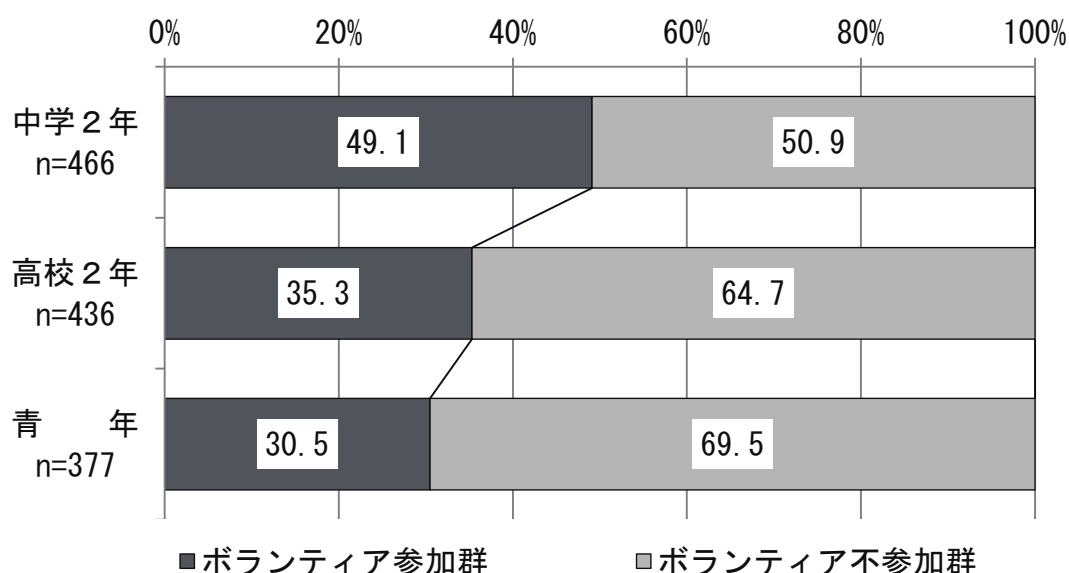
ボランティアへの参加経験がない群 = 上記以外の者。以下「ボランティア不参加群」という。

#### ボランティア参加群とボランティア不参加群の割合 (%)

ボランティア参加群の割合は、中学2年の約5割、高校2年の約3.5割、青年の約3割であり、年代があがるにつれて、ボランティアへの参加経験がある割合は少なくなる傾向にあった。

(平成28年度調査で新設した質問項目であるため、過去の調査との比較はできない)

図178



### ▶▶ イ ボランティア参加群とボランティア不参加群の比較方法

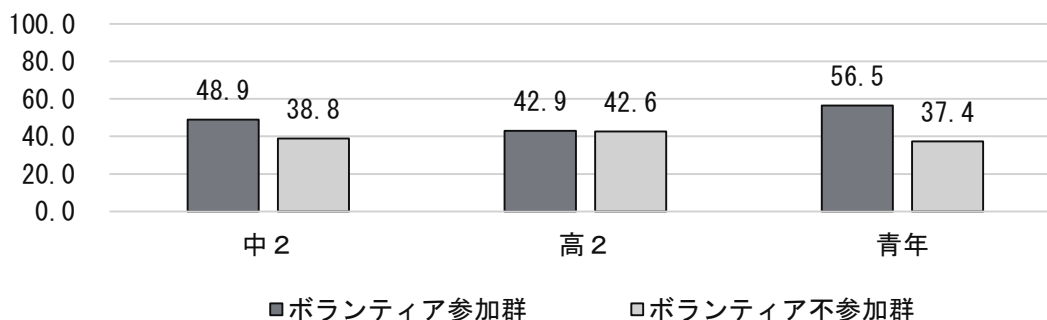
ボランティア参加群とボランティア不参加群別に全質問項目を集計し、回答率に10%以上の差があった項目を抽出した。ボランティア参加群とボランティア不参加群で、2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。(なお、ボランティア参加群とボランティア不参加群別の集計は、有効回答者数(n)から無回答を除いて行った。)

## ウ 家族・家庭

- 家庭生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は、ボランティア参加群の方が高かった。特に不参加群との差が大きかったのは中学2年（約10%）、青年（約19%）であった。

あなたは、家庭での生活に満足していますか。  
（満足している+ほぼ満足している）（%）

図179

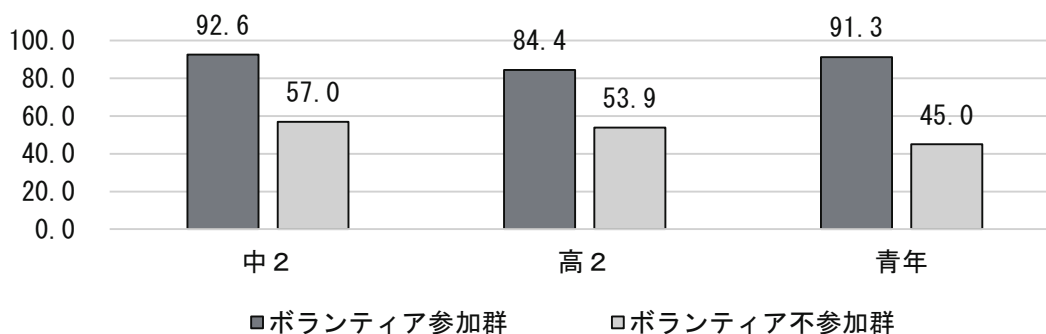


## エ 地域とのかかわり・地域での活動

- 地域活動への参加経験について尋ねた質問への回答では、ボランティア活動参加群は、不参加群よりも地域活動に積極的に参加していた。（参加したことがある＝この一年間に参加した地域活動として「祭り」「一斉清掃」「公民館活動」「地域のスポーツ活動」「青少年団体の活動」「災害復旧」「子ども会活動」「レクリエーション」「消防団」「非行防止」「その他」を選んだ者の合計）

地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。  
（参加したことがある）（%）

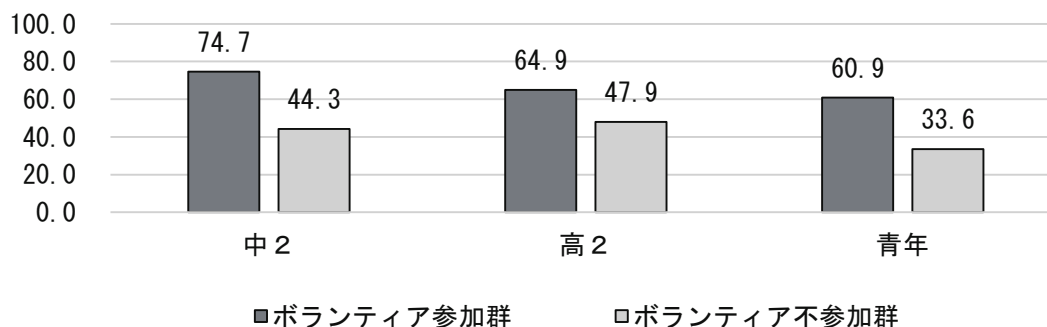
図180



- 特に、祭り、一斉清掃、公民館活動では、ボランティア参加群と不参加群の差が顕著であった。

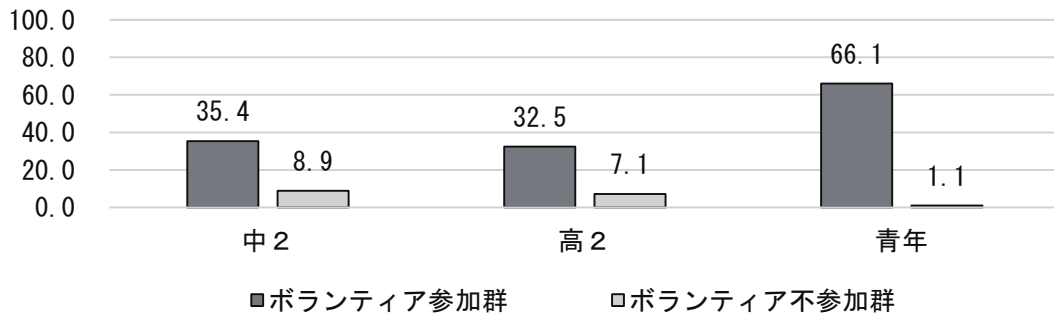
地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。  
（祭り）（%）

図181



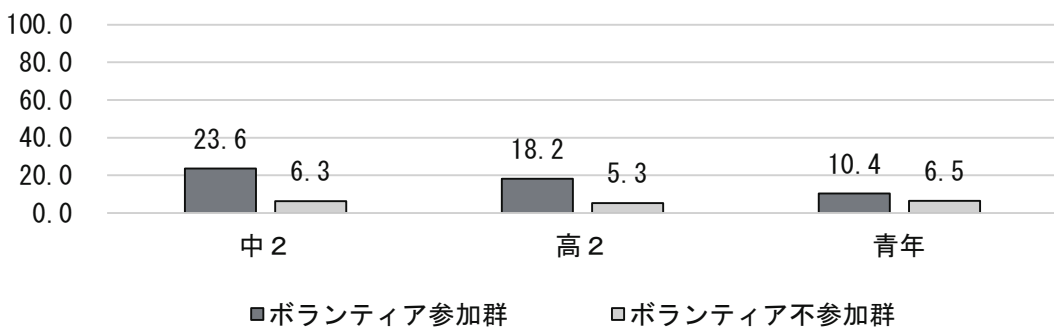
地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。  
(一斉清掃などの活動) (%)

図 182



地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。  
(公民館の活動) (%)

図 183

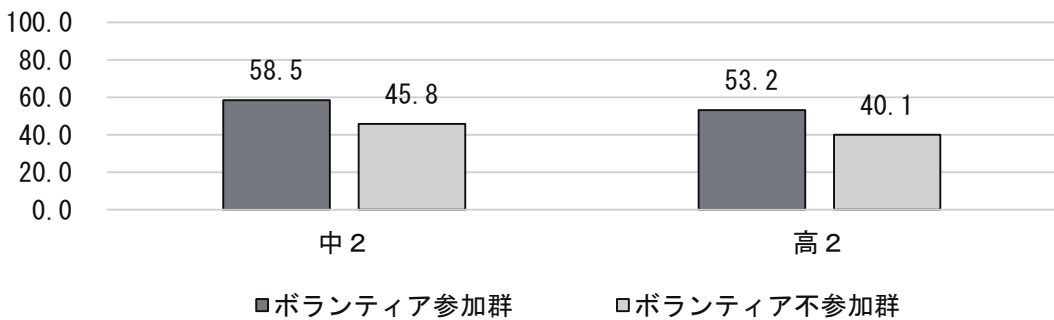


## 生活

- 生活習慣についての設問では、ボランティア参加群は近所の人や知り合いへのあいさつを「よくしている」と回答した割合が、不参加群より1割以上高かった。

近所の人や知り合いにあいさつする  
(よくしている) (%)

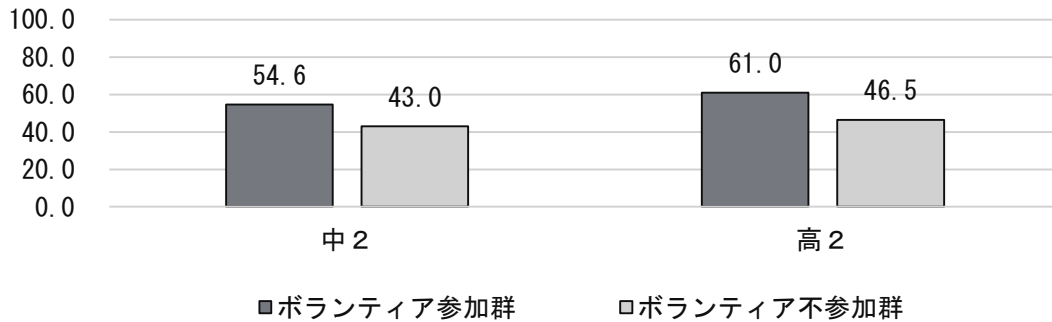
図 184



- 体験的活動の経験の有無を尋ねる質問では、ボランティア参加群は、「のこぎりや金づちを使って何か作ったことがある」「体の不自由な人やお年寄りなど困っている人の手助けをしたことがある」の項目について、不参加群よりも経験が「ある」と回答した割合が高かった。

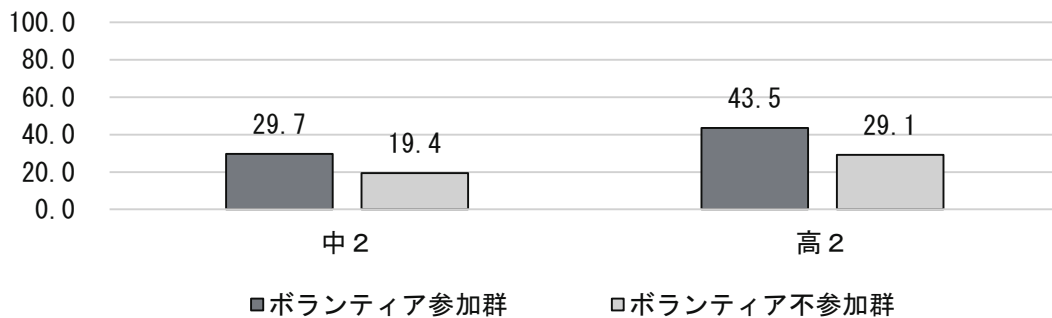
あなたが、これまでに学校の勉強や行事以外で体験したことがあるものについて、当てはまる番号すべて選んで○をつけてください。  
(のこぎりや金づちを使って何か作ったことがある) (%)

図185



あなたが、これまでに学校の勉強や行事以外で体験したことがあるものについて、当てはまる番号すべて選んで○をつけてください。  
(体の不自由な人やお年寄りなど困っている人の手助けをしたことがある) (%)

図186

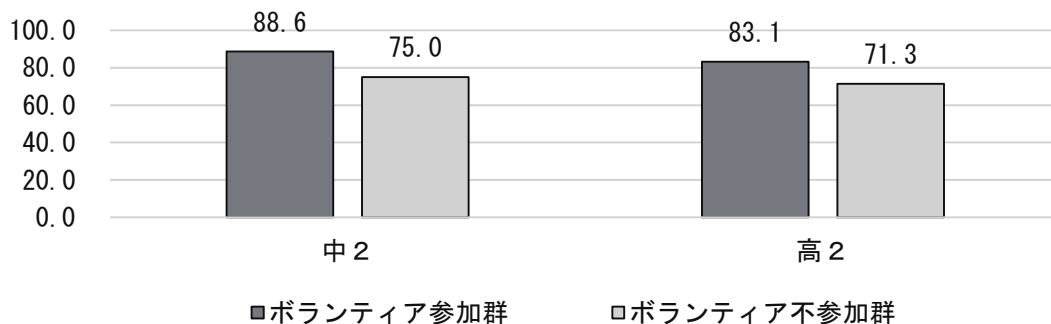


## ▶▶▶ カ 心の状態

- 達成感についての設問で、自分もやればできると思えるような経験が「ある」と回答した割合は、ボランティア参加群の方が10%以上高かった。

あなたは「自分もやればできるんだ」と思えるような体験をしたことがありますか。  
(ある) (%)

図187



## (16) 選挙投票への意識による比較

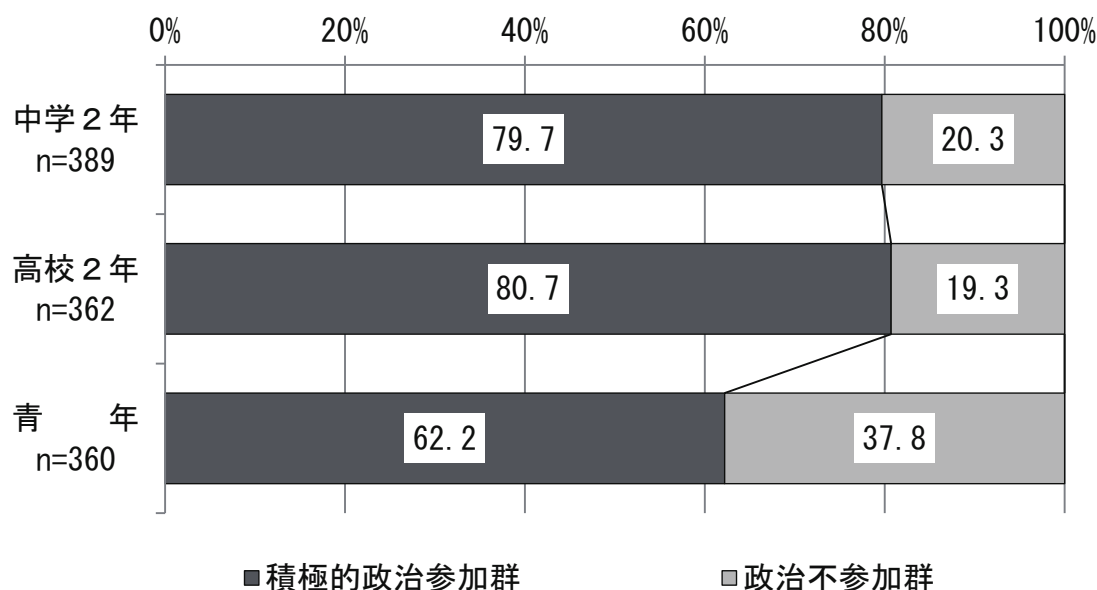
### ▶▶ ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

選挙を通じた政治参加への意識が積極的な群 = 「18歳になったら選挙の投票に行きたいと思いますか」という質問に対し、「必ず行く」「なるべく行く」と回答した者。以下「積極的政治参加群」という。

選挙を通じた政治参加への意識が消極的な群 = 上記以外の者。以下「政治不参加群」という。

積極的政治参加群と政治不参加群の割合

図 188



積極的政治参加群の割合は、中学 2 年・高校 2 年の約 8 割、青年の 6 割であった。

(平成 28 年度調査で新設した質問項目であるため、過去の調査との比較はできない)

### ▶▶ イ 積極的政治参加群と政治不参加群の比較方法

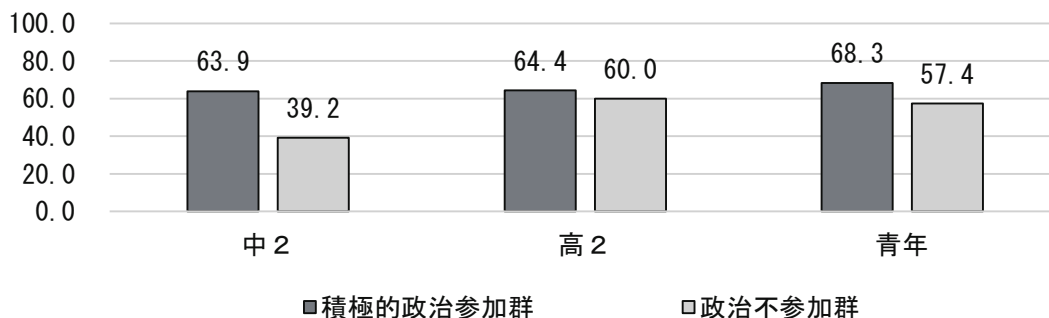
積極的政治参加群と政治不参加群別に全質問項目を集計し、回答率に 10%以上の差があった項目を抽出した。積極的政治参加群と政治不参加群で、2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。(なお、積極的政治参加群と政治不参加群別の集計は、有効回答者数 (n) から無回答を除いて行った。)

## ウ 家族・家庭

- 家庭での大人の家族との会話の頻度を尋ねる質問で、「よく話す」と回答した割合は、中学2年では約25%、高校2年では約4%、青年では約11%積極的政治参加群の方が高かった。

あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）とどれくらい話をしますか。  
（よく話す）（%）

図189

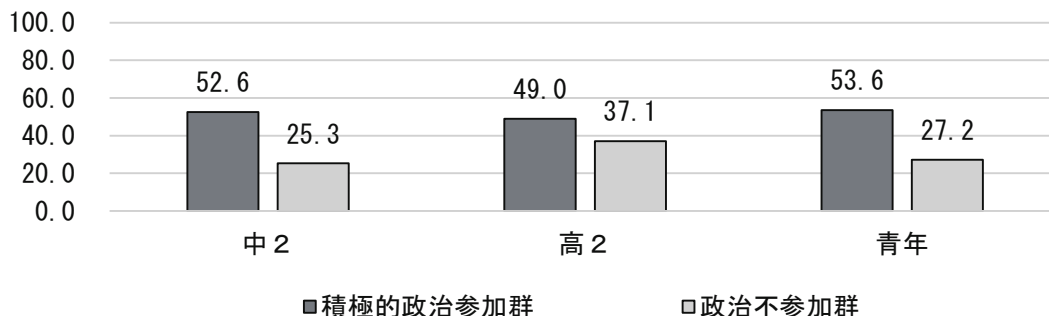


## エ 地域とのかかわり・地域での活動

- ボランティア活動に関する設問では、積極的政治参加群はボランティア活動への関心、参加経験のどちらも不参加群より高い傾向にあった。

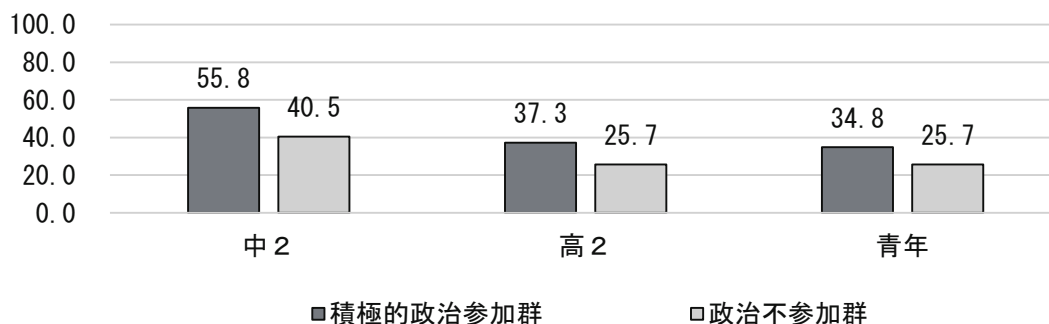
あなたは、ボランティア活動に対して、どの程度関心がありますか。  
（非常に関心がある+ある程度関心がある）（%）

図190



あなたは、この1年間に何回程度ボランティア活動に参加しましたか。  
（参加した）（%）

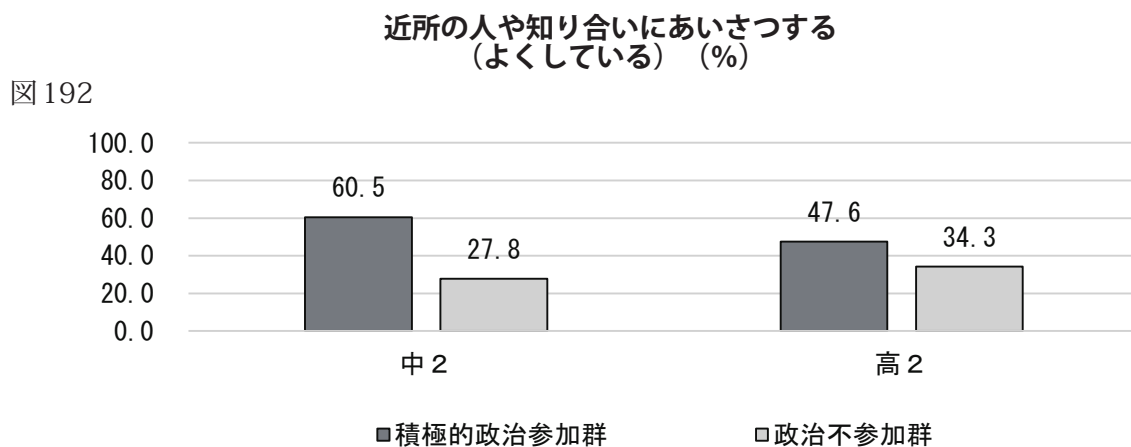
図191



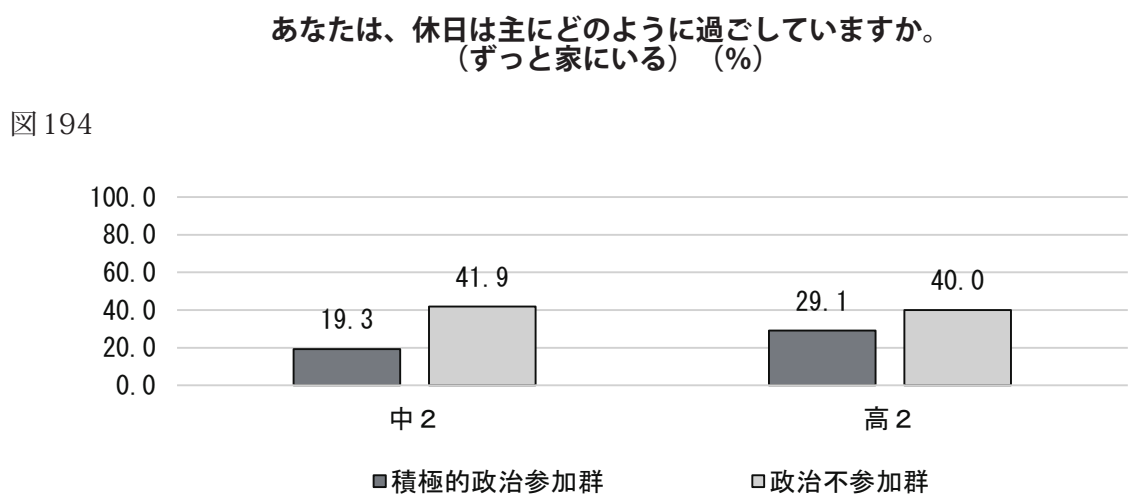
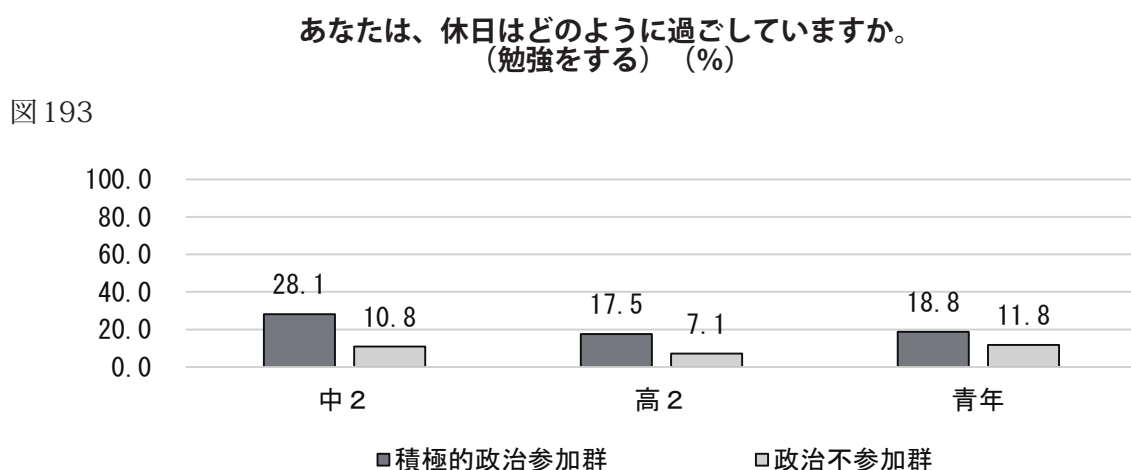


生活

○ 生活習慣についての設問では、積極的政治参加群は近所の人や知り合いへのあいさつを「よくしている」と回答した割合が不参加群より高く、不参加群との差は中学2年で約33%、高校2年で13%であった。



○ また、休日の過ごし方についての設問では、積極的政治参加群では「勉強をする」と回答した割合が高く、政治不参加群では「ずっと家にいる」と回答した割合が高かった。



## ▶▶ カ 非行

○ 積極的政治参加群では、下記グラフのとおり非行に該当する行為について、最近1年ぐらいの間に経験が「ある（1～2度ある、ときどきあるの合計）」と回答した割合が不参加群よりも低かった。（青年は18歳（高校卒業）までに「あった（よくあった、ときどきあったの合計）」。

図195

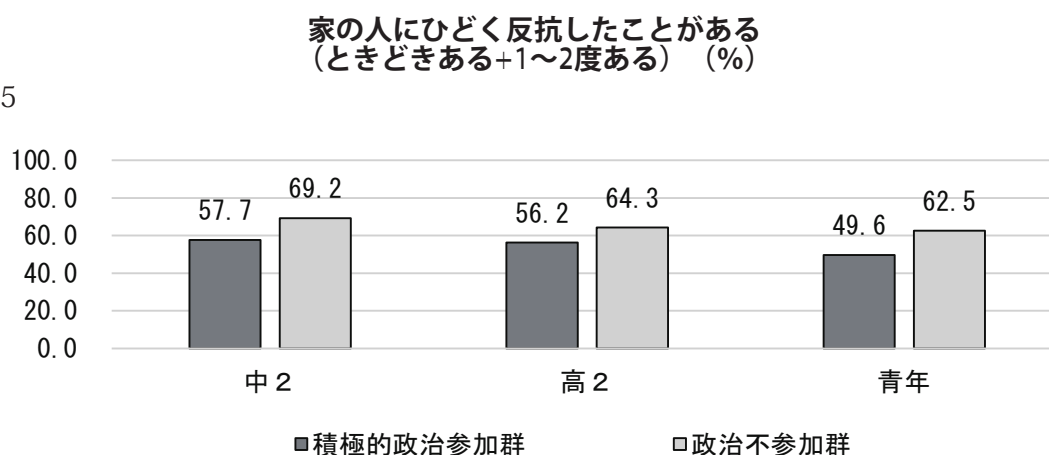


図196

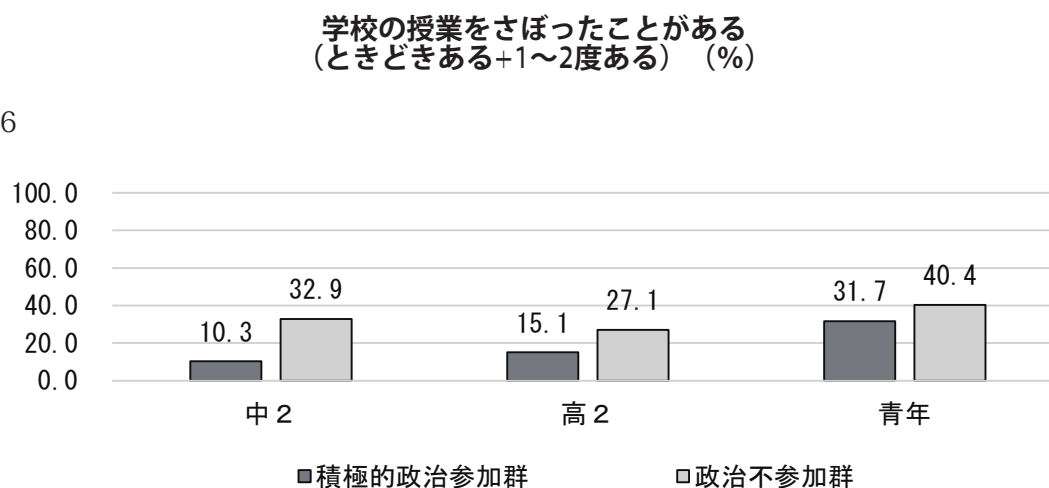
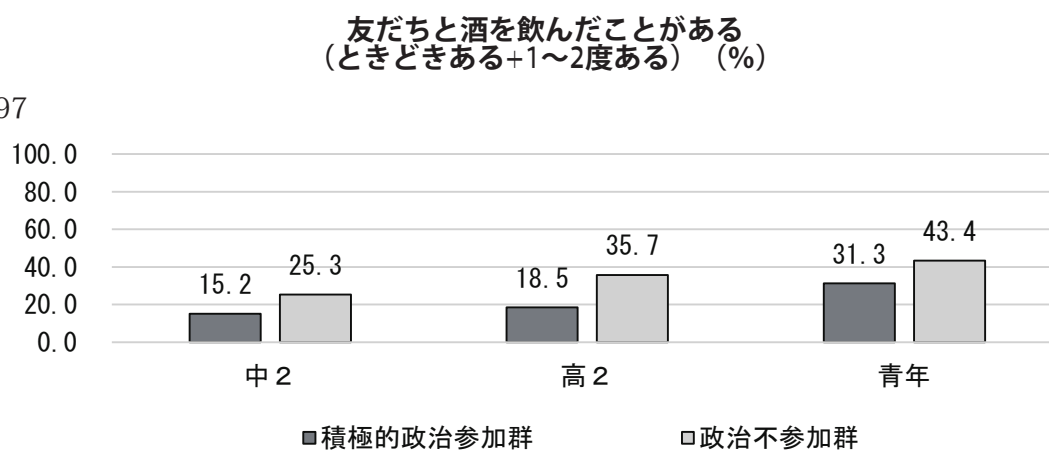


図197



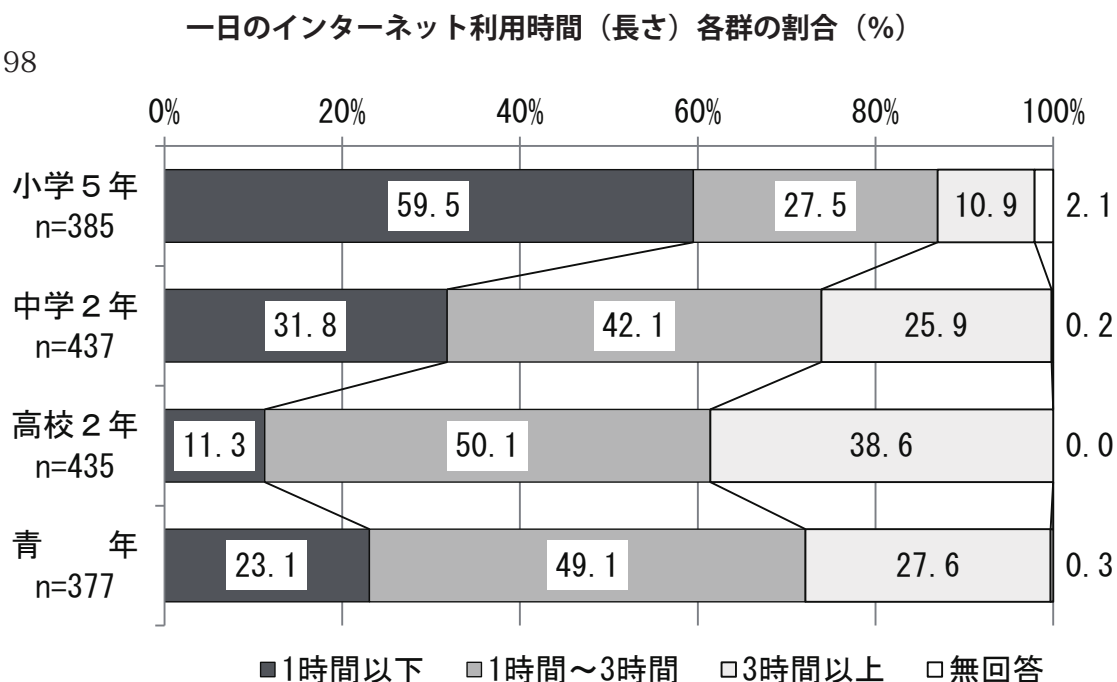
## (17) 一日のインターネット利用時間 (長さ) による比較

### ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

インターネットの利用時間の長さを尋ねる質問への回答により、回答者を下記の3つの群に分けて、クロス集計を行った。

- ・1時間以下群
- ・1時間～3時間群
- ・3時間以上群

図 198



年代別に割合の高い群をみると、小学5年では1時間以下の群(約6割)であった。それ以外の年代では、1時間～3時間の群の割合が高く、中学2年の約4割、高校2年と青年の約5割を占めた。3時間以上の群は、中学2年と青年の25割以上、高校2年の4割近くを占めた。

### イ 一日のインターネット利用時間 (長さ) 各群の比較方法

各群別に全質問項目を集計し、主な項目を抽出した。

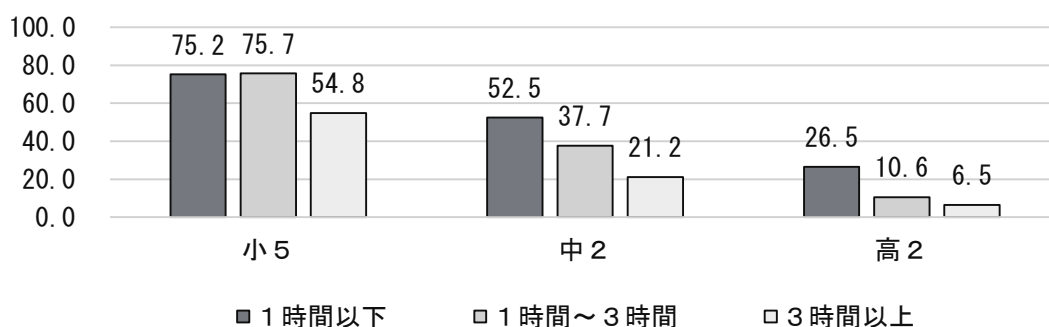
(なお、各群別の集計は、有効回答者数 (n) から無回答を除いて行った。)

### ウ 生活

- 学習習慣についての設問で、「家で勉強」を「よくしている」と回答した割合は、一日のインターネット利用時間が長い群の方が概ね低かった。中学2年では一日のインターネット利用時間が1時間以下の群では約53%が「良くしている」と答えたが、3時間以上の群では「よくしている」21%となり、その差は30%以上であった。高校2年でも、1時間以下の群と3時間以上の群では20%の差があった。

家で勉強する  
(よくしている) (%)

図199

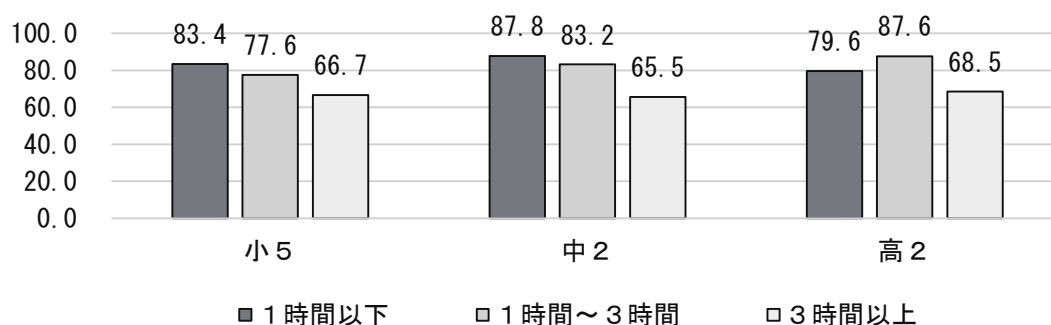


学校生活

- 学校生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は、一日のインターネット利用時間が長い群の方が概ね少ない傾向にあった。

あなたは、学校生活に満足していますか。  
(満足している+ほぼ満足している) (%)

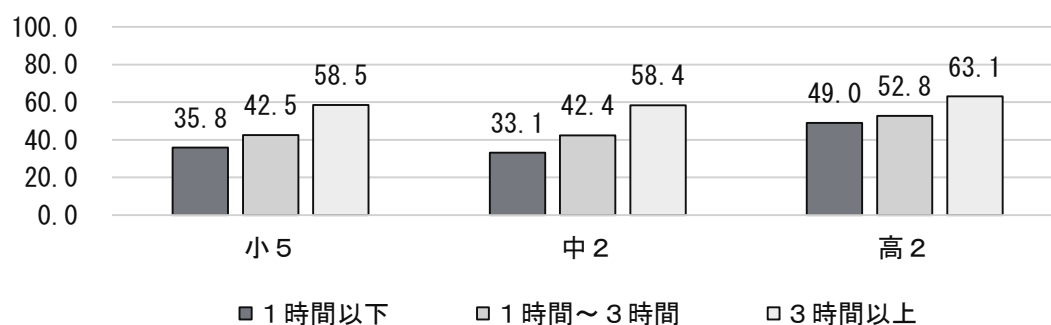
図200



- 登校前に「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思った経験が「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、一日のインターネット利用時間が長くなるに従い増加する傾向にあった。

あなたは登校前に、「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思うことがありますか。  
(よくある+ときどきある) (%)

図201

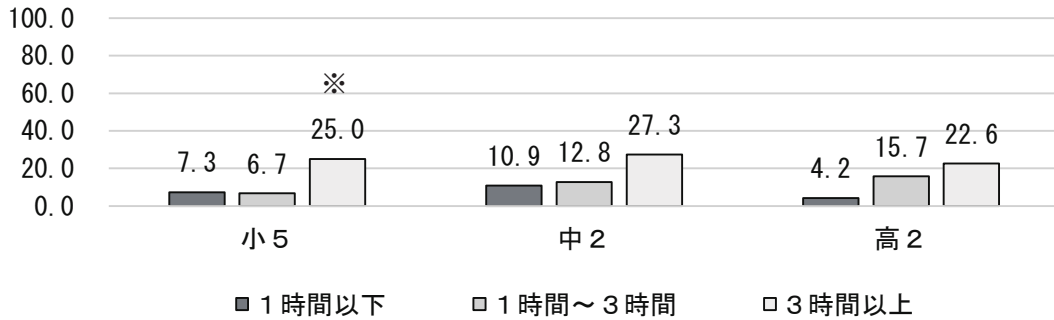


○ また、一日のインターネット利用時間が長い群の方が、学校に行きたくない理由として「夜更かしをしたから」と回答する割合が多かった。

※ 次のグラフ中で「※」があるものは、比率算出のもとになる人数が25人未満であることを示す。

質問26で、「1よくある」、「2ときどきある」を選んだ人に質問します。学校に行きたくない理由は何ですか。  
(夜更かしをしたから) (%)

図202

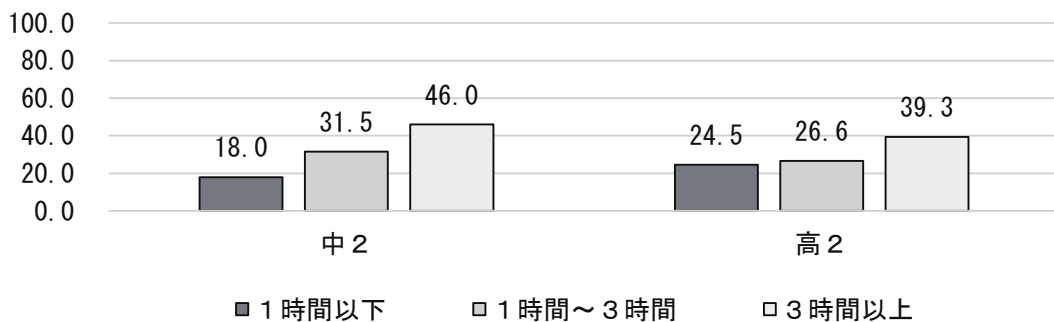


### ▶▶▶ オ 心の状態

○ 「死にたいとおもったこと」が「ある (1～2度ある)」「ときどきある」の合計」と回答した割合はインターネット利用時間が長くなるに従って増える傾向にあった。

死にたいと思ったことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図203

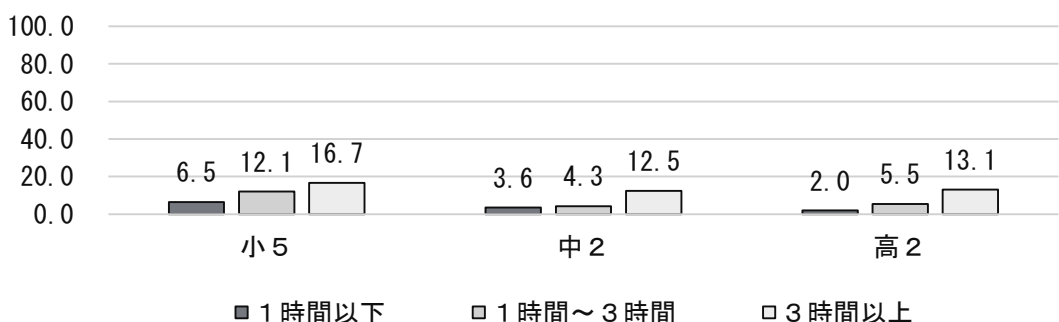


### ▶▶▶ カ 非行・被害

○ 非行に該当する行為について、最近1年ぐらいの間に経験が「ある (1～2度ある、ときどきあるの合計)」と回答した割合は、一日のインターネット利用時間が長くなるに従って増える傾向にあった (下記グラフ参照)。

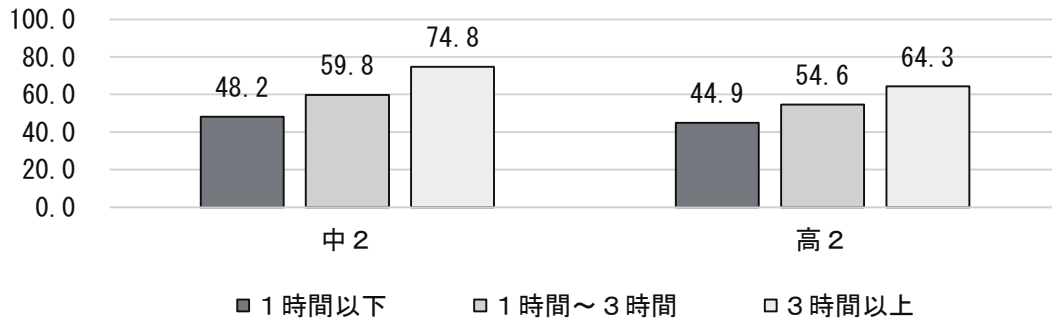
家のお金を、だまって持ち出したことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図204



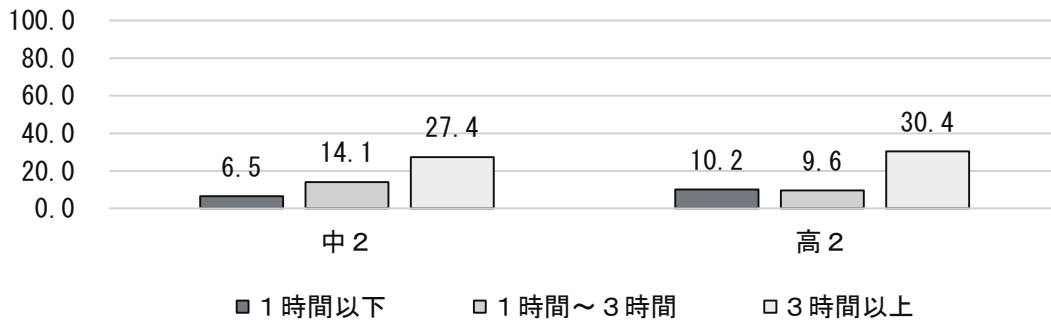
家の人にひどく反抗したことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図205



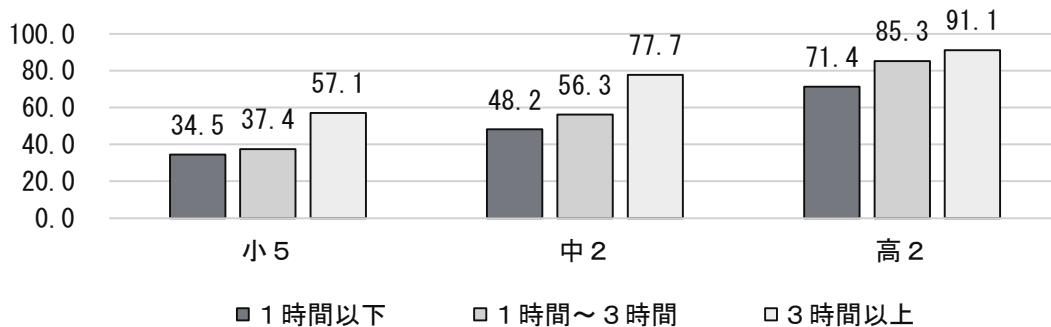
学校の授業をさぼったことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図206



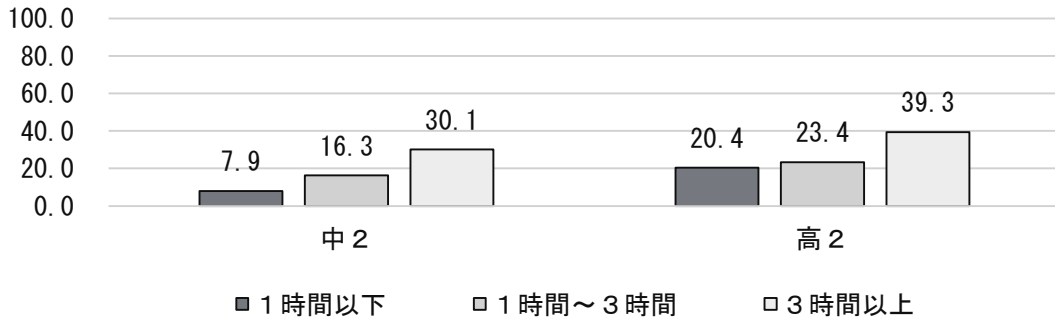
友だちとゲームセンターに行ったことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図207



友だちと深夜まで遊んでいたことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

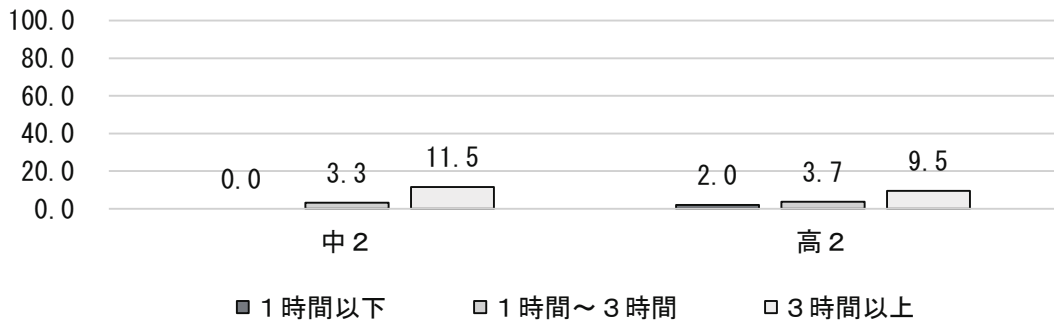
図208



○ また、インターネット上の掲示板などでの経験に関する質問では、インターネット利用時間が長くなるに従って他人の悪口を書き込んだ経験、書き込まれた経験共に増える傾向にあった。

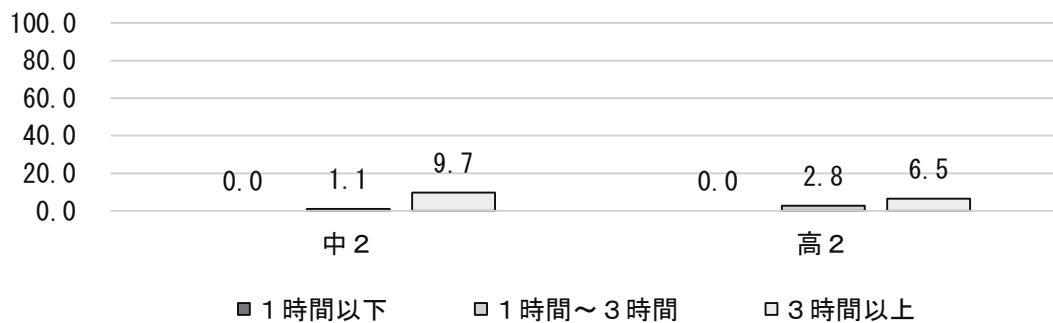
インターネット上の掲示板などに他人の悪口などの書き込みをしたことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図209



インターネット上の掲示板などで自分の悪口などの書き込みをされた  
(ある) (%)

図210



## (18) ひきこもりについて

### ▶▶ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

前回調査（平成23年度）と同じ基準を用いて、下記のとおり広義のひきこもり群、ひきこもり群、一般群を区分した。なお、基準の設定にあたっては、内閣府の「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）（平成22年7月）」を参考としている。（広義のひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群別の集計は、有効回答者数（n）から「無回答」を除いて行った。）

#### ○ 広義のひきこもり群

「外出頻度」「ひきこもり開始後の期間」の設問のそれぞれで、下の項目のいずれかを選んだ者

外出頻度	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
	自室から外には出るが、家からは出ない
	自室からほとんど出ない
ひきこもり開始後の期間	6ヶ月～1年未満
	1年～3年未満
	3年～5年未満
	5年～7年未満
	7年以上

ただし、「ひきこもりのきっかけ」「自宅でよくすること」の設問のどちらかで、下記の項目のいずれかを選んだ者を除く。

ひきこもりのきっかけ	病気
	妊娠した
	その他（自宅で仕事、育児）
自宅でよくすること	家事・育児をする

#### ○ ひきこもり親和群

下表の4つの項目すべてに「はい」と答えた者、及び3つは「はい」で1つのみ「どちらかといえばはい」と答えた者の合計から「広義のひきこもり群」をのぞいた者

家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

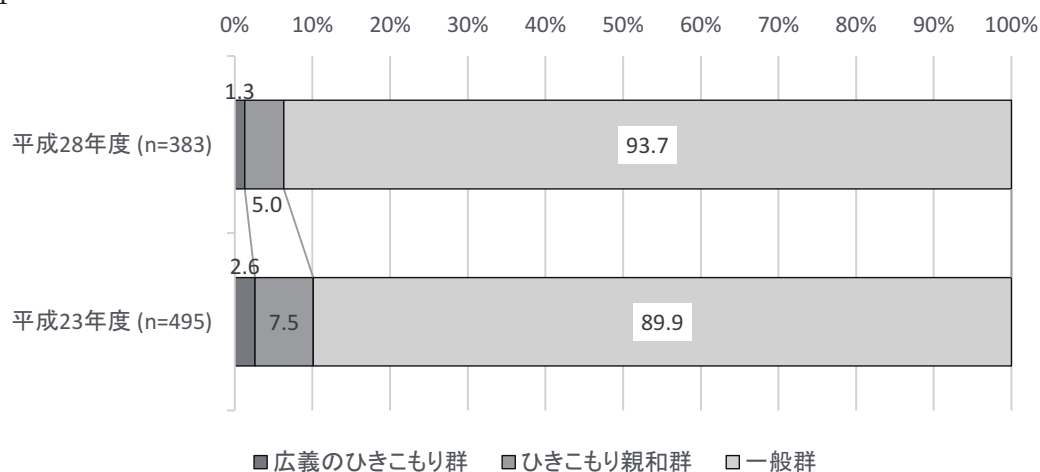
#### ○ 一般群

上記「広義のひきこもり群」「ひきこもり親和群」以外の者



広義のひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群の割合 (%)

図211



平成 28 年度の調査では、広義のひきこもり群の割合は 1.3%、ひきこもり親和群の割合は 5.0%、一般群の割合は 93.7%であった。

平成 23 年度の調査と比較すると、広義のひきこもりの割合は 2.6%から 1.3%へ、ひきこもり親和群の割合は 7.5%から 5.0%へそれぞれ減少している。

※本調査では無作為抽出した県内在住の 19 歳～ 29 歳の青年を対象に、郵送により調査票を送付、回収を行った。

## 2 保護者について

### (1) 属性

#### ▶▶ ア 回答の対象とした子どもの学年

問 お子さん（このアンケートを受け取った）の通学先を次の中から1つ選んで○をつけてください。

表

選択肢	総数	小学校 (2年)	小学校 (5年)	中学校	高等学校	無回答
回答数(人)	1683	421	440	436	373	13
構成比(%)	100	25.0	26.2	25.9	22.2	0.7

※このページ以降の集計は、上記の「無回答」13名を除いた1670名を全体の比率算出の基数とした。また、子どもの学年別の集計は、各問の有効回答者数から「無回答数」を除いて行った。

#### ▶▶ イ 回答した保護者の続柄

この調査票（アンケート）に回答してくださる方は、どなたですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。なお、父や母などとはこの調査票を持ち帰ったお子さんから見た父や母などを表します。

どの年代でも、約9割は「母」が回答している。

#### 回答した保護者の続柄

表4

(単位:%)

区分	父	母	兄	姉	祖 父	祖 母	そ の 他
全 体 n=1667	9.0	89.8	0.0	0.1	0.0	0.5	0.2
小学2年 n=420	9.5	90.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
小学5年 n=440	8.2	90.9	0.0	0.2	0.0	0.2	0.5
中学2年 n=434	9.2	89.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.2
高校2年 n=373	9.4	89.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0

(単位:人)

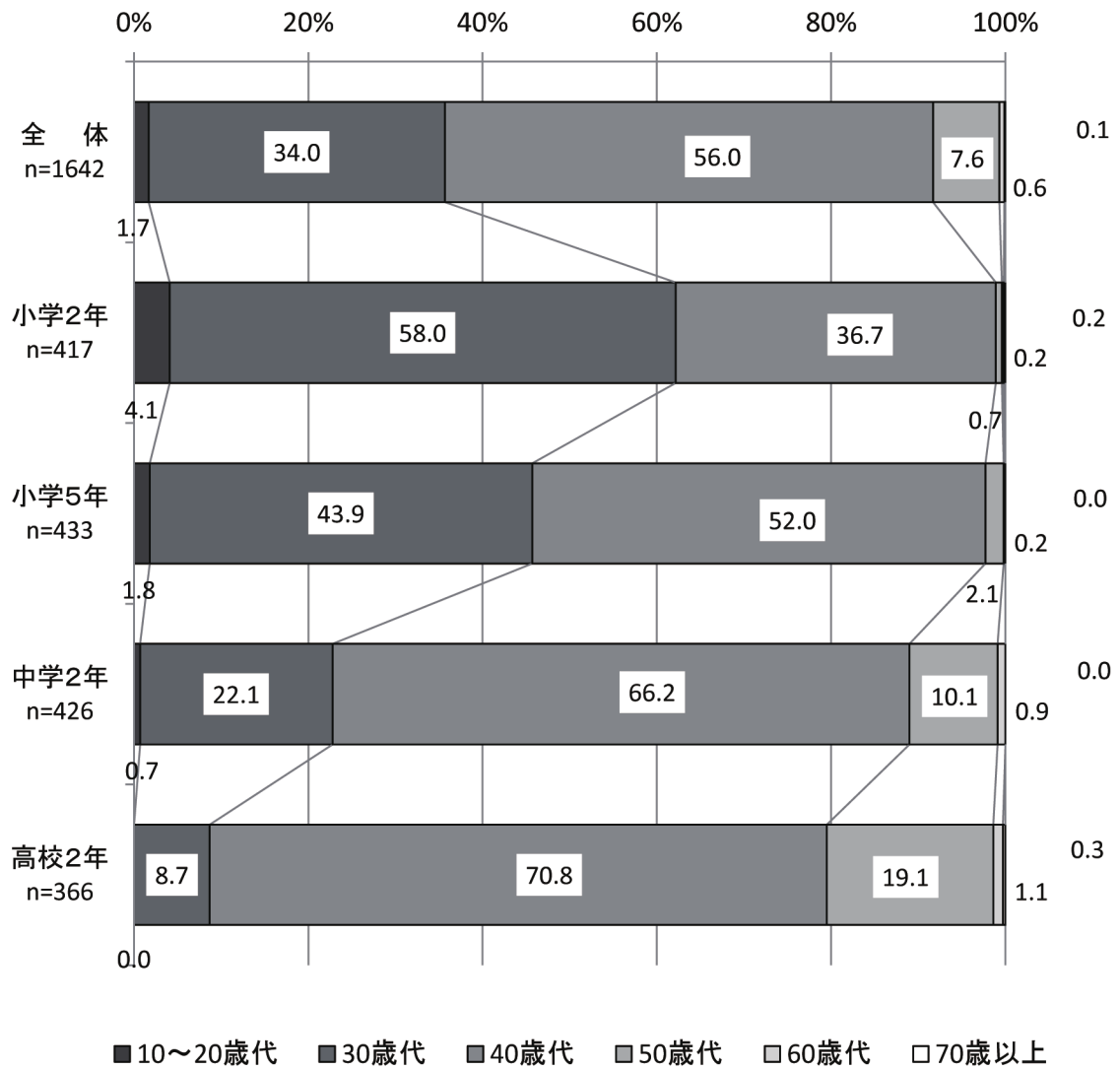
区分	父	母	兄	姉	祖 父	祖 母	そ の 他
全 体 n=1667	151	1504	0	1	0	8	3
小学2年 n=420	40	379	0	0	0	1	0
小学5年 n=440	36	400	0	1	0	1	2
中学2年 n=434	40	390	0	0	0	3	1
高校2年 n=373	35	335	0	0	0	3	0

ウ 回答した保護者の年齢

あなたの年齢に○をつけてください。

年 齢

図212



## (2) 悩み

### ▶▶ ア 子どもについての保護者の悩み

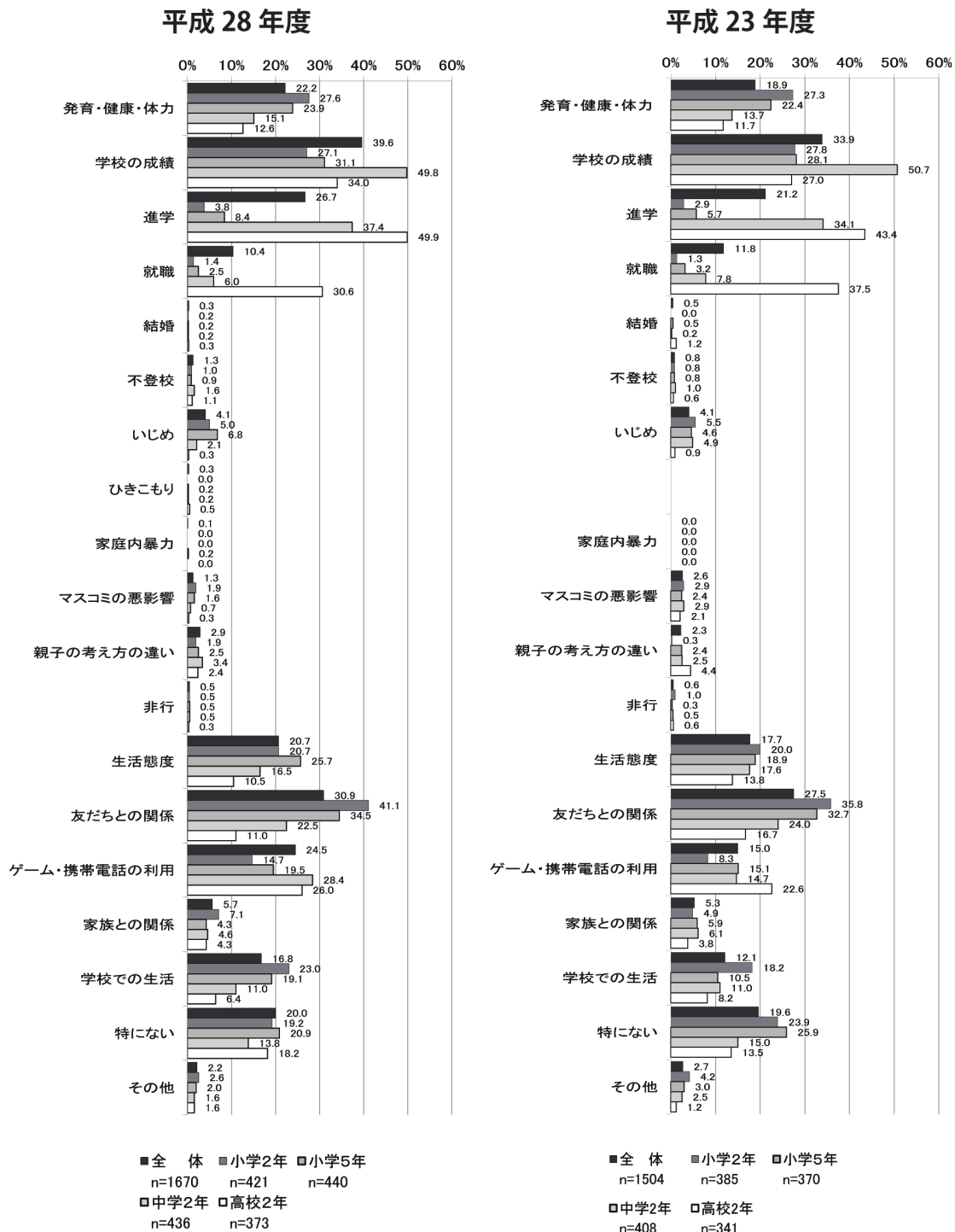
問 あなたは、お子さんについて、悩みや不安はありますか。次の中からあてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

「学校の成績」はどの年代でも悩みにあげられている。小学校では「友だちとの関係」が多いが、中学校・高等学校になると「進学」「就職」が多い。

平成23年度と比較して、どの年代でも増加しているのは「発育・健康・体力」「進学」「ゲーム・携帯電話の利用」であった。

### 子どもについての保護者の悩み

図213



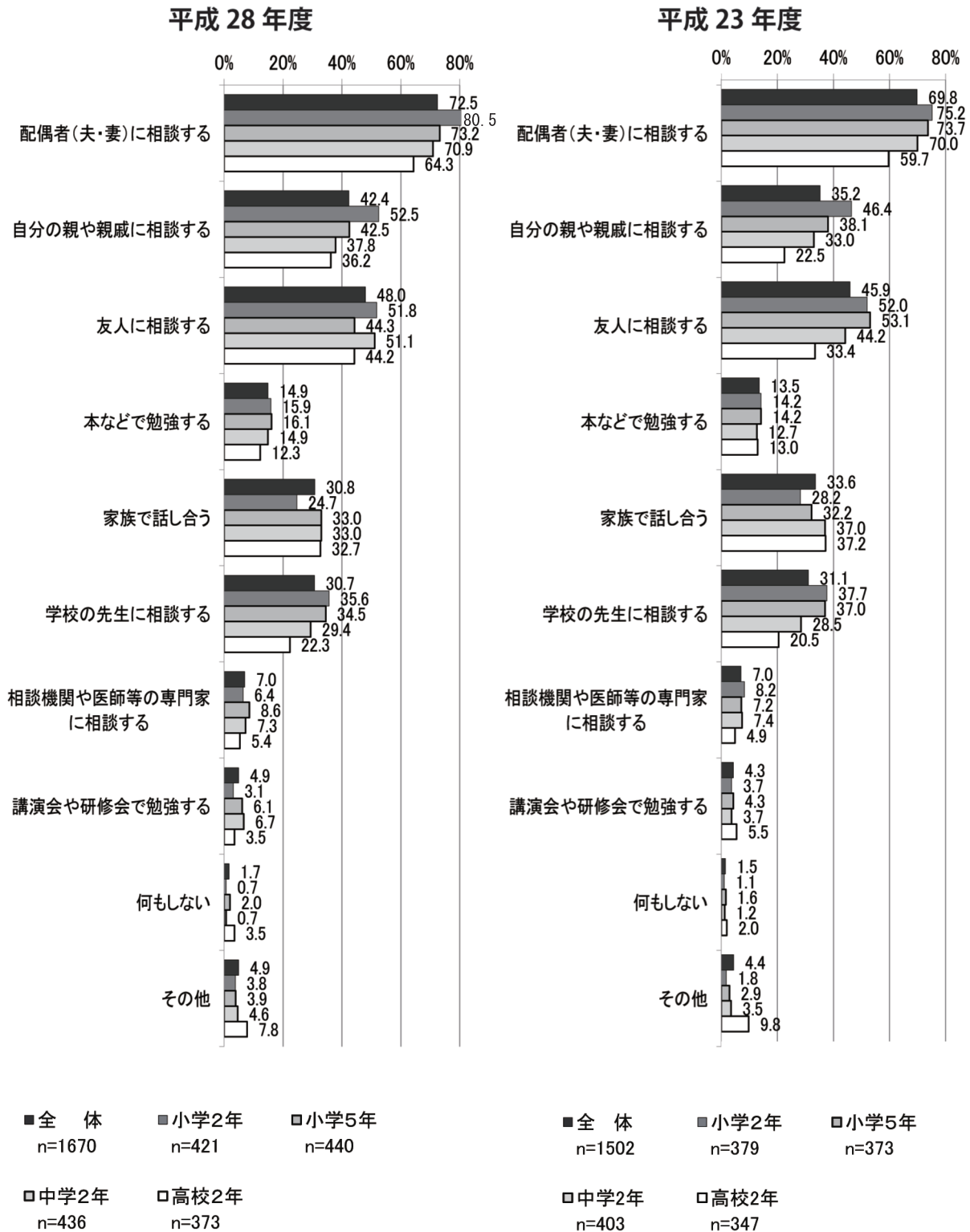
▶▶ イ 保護者の悩みの対応法

問 お子さんに対する悩みがあるときはどのようにしていますか。次の中からあてはまる番号をいくつでも選んで○をつけてください。

「配偶者に相談する」が7割程度、「自分の親や親戚」、「友人」、「学校の先生」に相談するがそれぞれ3～5割程度であった。

保護者の悩みの対応法

図214



### (3) 保護者から見た子どもの様子

#### ア 保護者が把握する子どもの交友関係

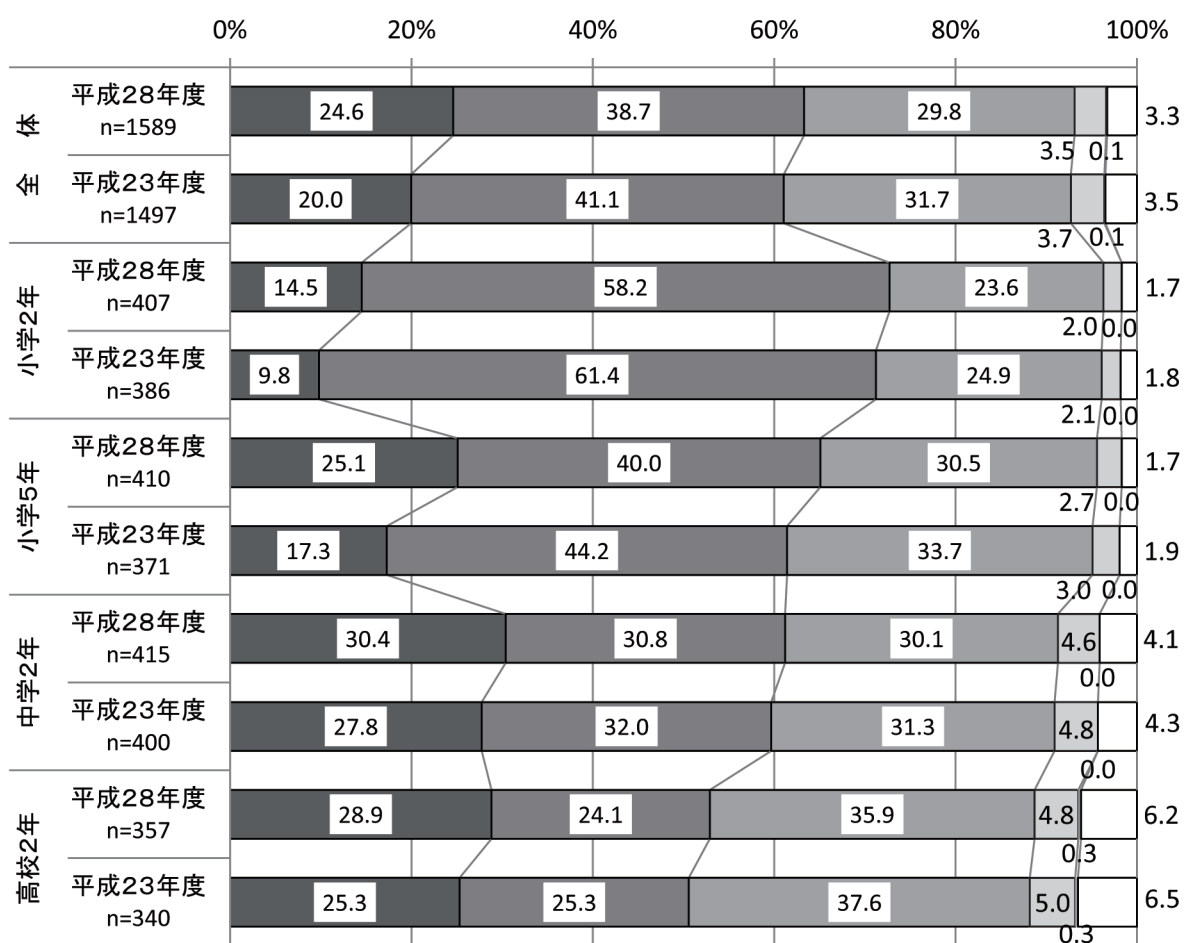
問 お子さんの友達について、あなたが把握しているものに近い番号を、次の中から1つ選んで○をつけてください。

どの年代でも「友だちはいない」と答える保護者はほとんどいなかった。

平成23年度と比べると、どの年代でも「親友（どんなことでも話せる友だち）がいる」の割合が増えている。

保護者が把握する子どもの交友関係

図215



- 親友(どんなことでも話せる友だち)がいる
- 親友はいないが、遊び友だちならいる
- 親友も遊び友だちもいる
- 親友や遊び友だちはいないが、少し話をする程度の友だちならいる
- 友だちはいない
- 分からない

▶▶ イ 保護者が把握する子どもの悩みの相談相手

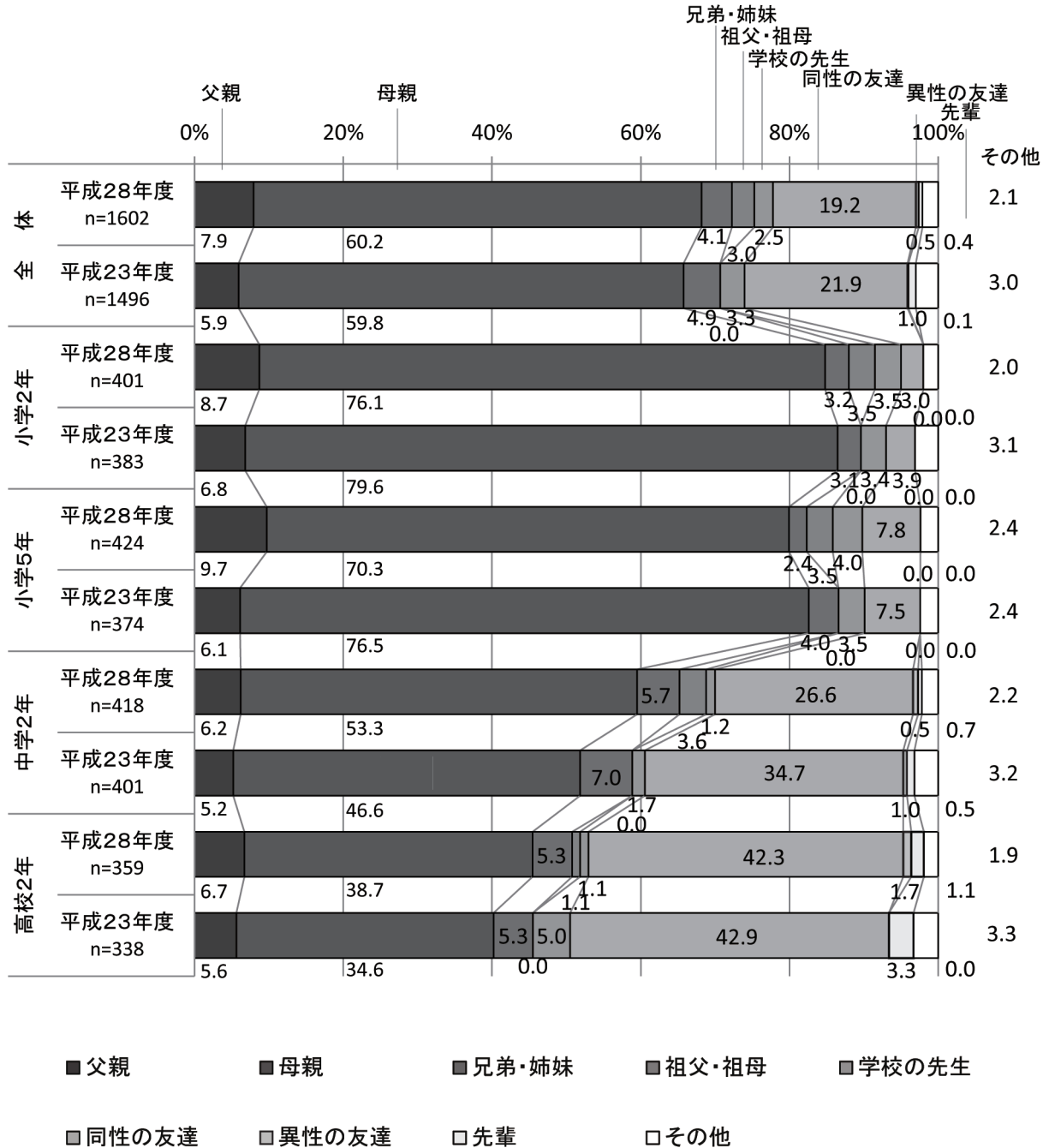
問 お子さんが、学校生活のことで悩んでいることや困ったことがあれば、まず誰に相談すると思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

いずれの年代でも「父親」より「母親」が圧倒的に多い。年代が上がるにつれて、「同性の友達」の割合が増加している。

平成23年度と比べると、僅かずつではあるがどの年代でも「父親」の割合が増加している。

保護者が把握する子どもの悩みの相談相手

図216



## (4) 保護者から見た家庭環境

### ア 保護者が感じる家庭関係の良好度

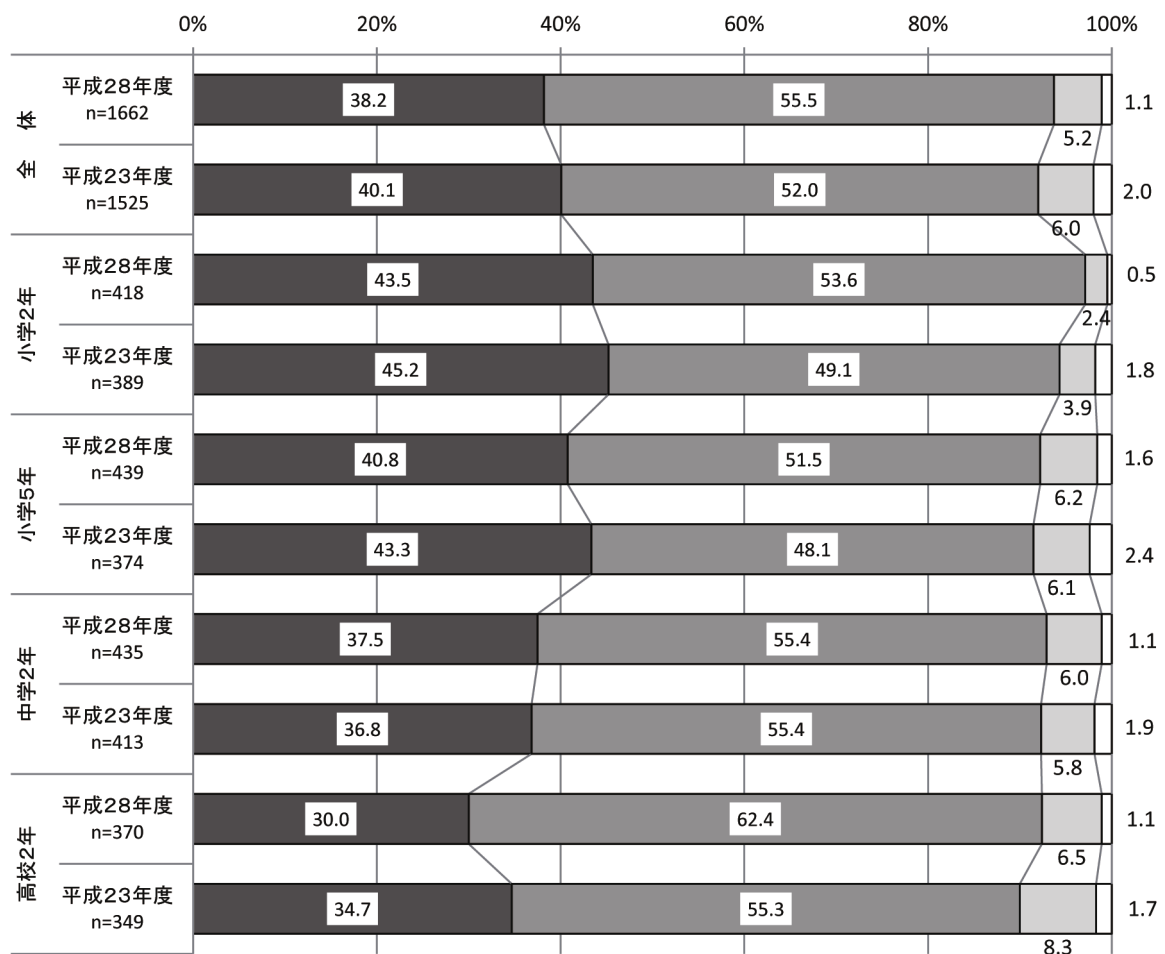
問 あなたの家庭の家族関係について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

いずれの年代でも9割以上の保護者が「うまくいっている」「まあうまくいっている」と答えているが、子の年齢が上がるにしたがい「うまくいっている」の割合が下がっている。

平成23年度と比較すると、中学2年以外で「うまくいっている」の割合が僅かに減少している。

保護者が感じる家庭関係の良好度

図217



■うまくいっている ■まあうまくいっている □あまりうまくいっていない □うまくいっていない



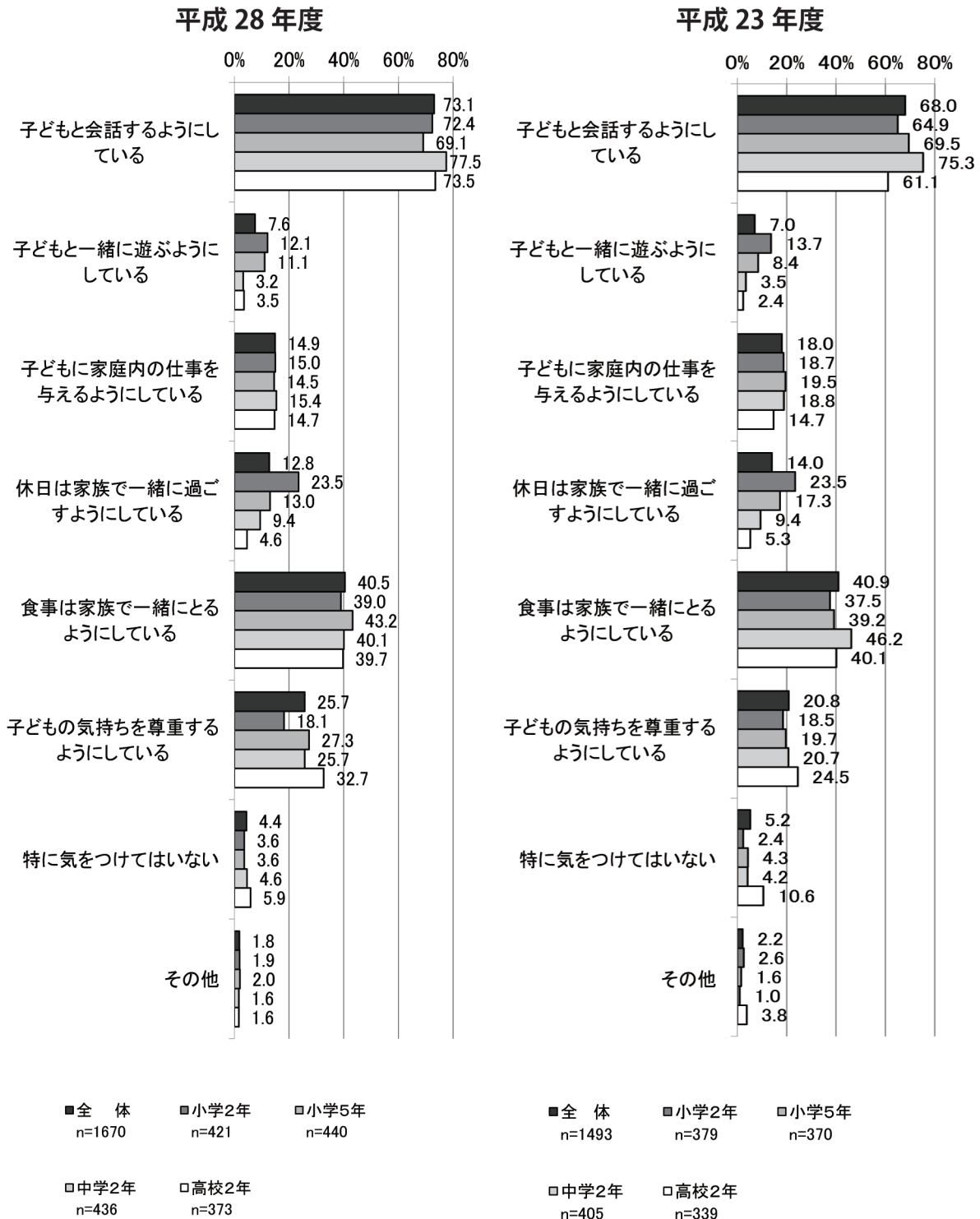
▶▶ イ 保護者が子育てで心がけていること

問 あなたの家庭で特に気をつけていることはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

いずれの年代の保護者の回答でも「子どもと会話するようにしている」が一番多く、「食事は家族で一緒にとるようにしている」が続いている。

保護者が子育てで心がけていること

図218



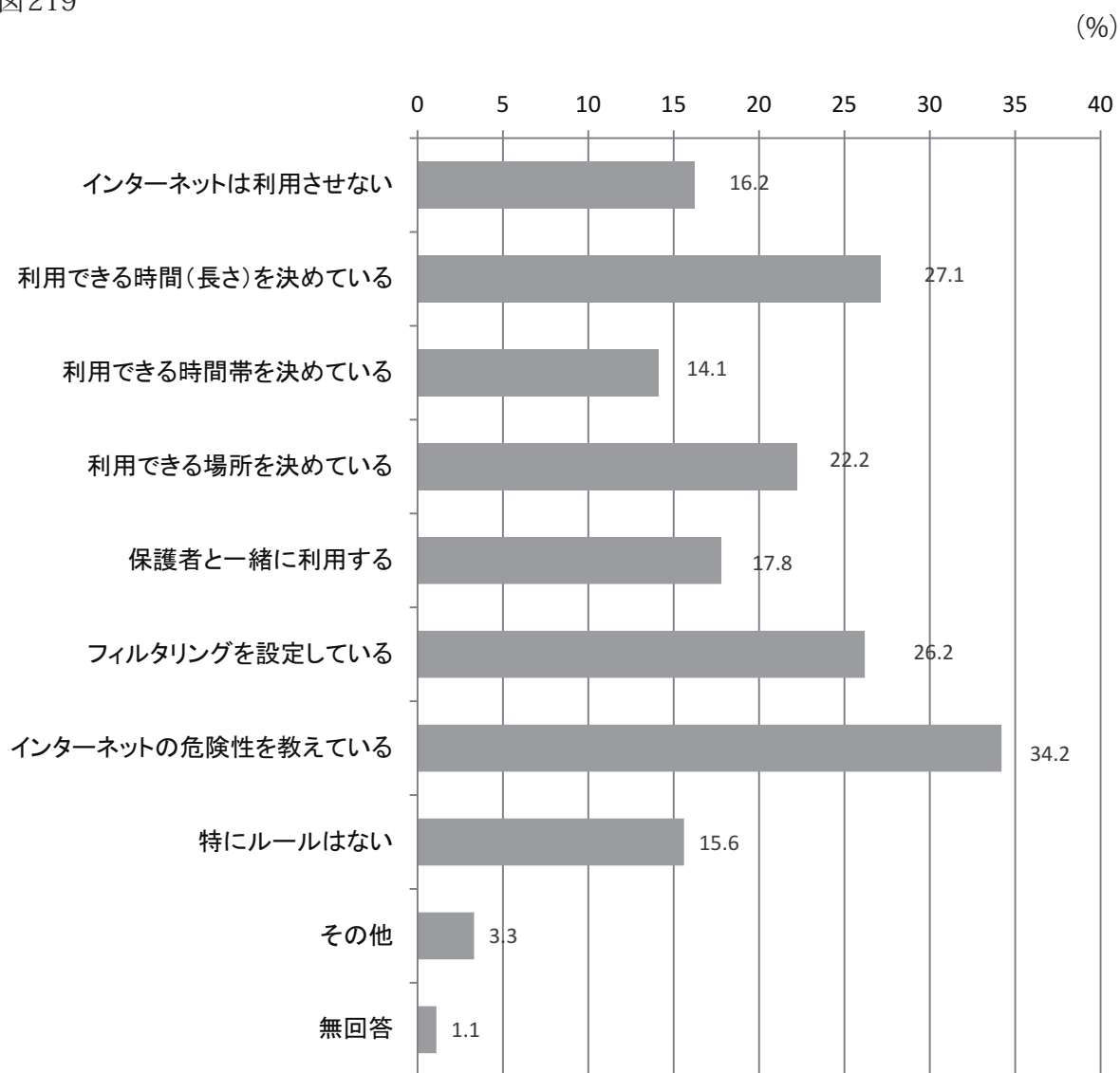
## ウ ペアレンタル・コントロールの状況

問 あなたの家庭で、お子様のインターネット（携帯電話・スマートフォン・パソコン・ゲーム機・音楽プレーヤー等による）の使用状況について、あてはまる番号をいくつでも選んで○をつけてください。

「インターネットは利用させない」の割合が約16%ある一方、「特にルールはない」の割合も同程度であった。保護者のペアレンタル・コントロールの状況として、最も多かった回答は「インターネットの危険性を教えている」で、約34%が回答している。利用についての具体的なルールを定めている割合は、多い順に「利用できる時間（長さ）を決めている」（27.1%）、「利用できる場所を決めている」（22.2%）、保護者と一緒に利用する（17.8%）、利用できる時間帯を決めている（14.1%）であった。また、フィルタリングを設定している保護者は四分の一程度であった。

### ペアレンタル・コントロールの状況

図219



n=1683

(5) 青少年に関する問題

▶▶ ア 青少年に関する問題への保護者の関心

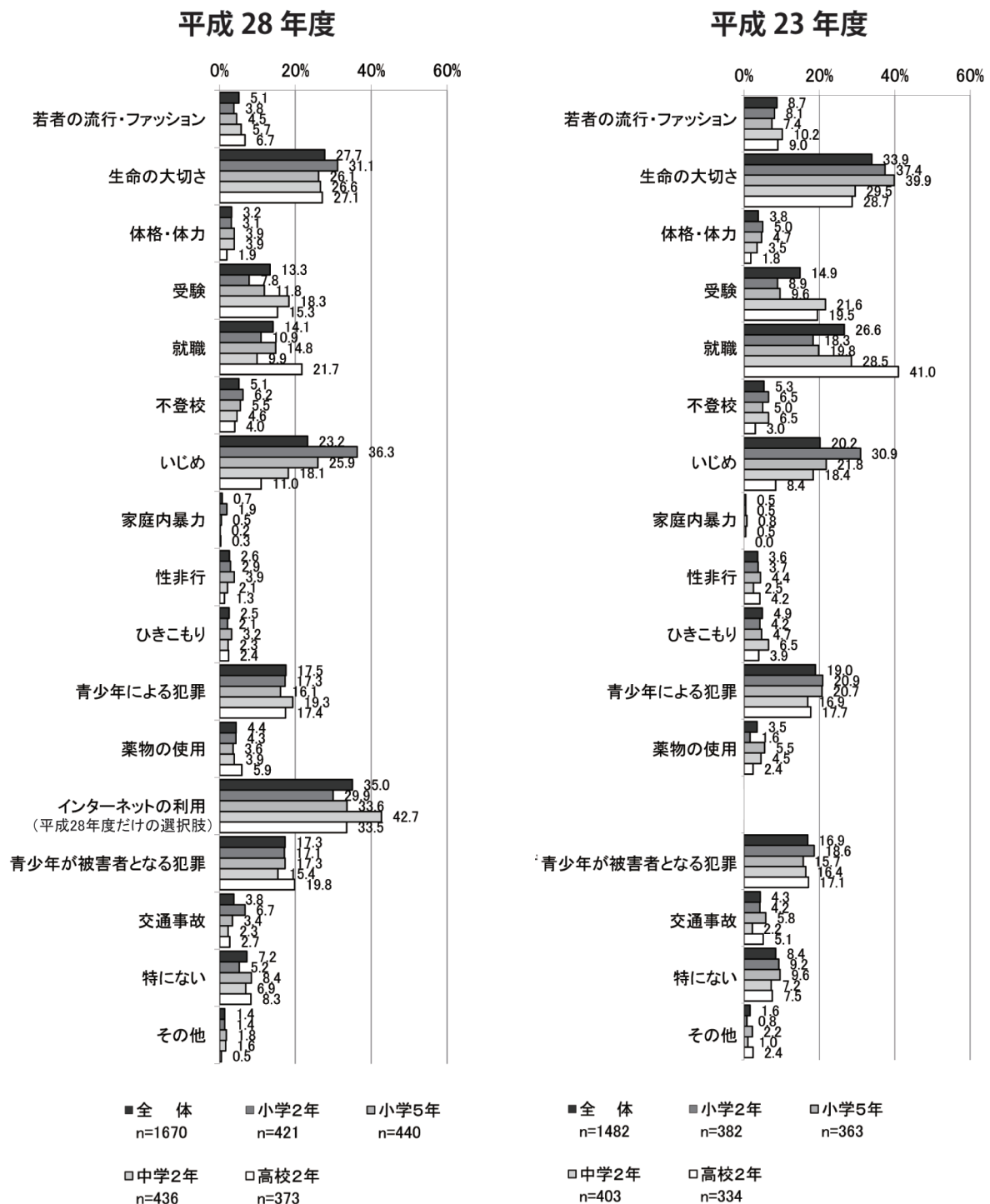
問 あなたは、青少年に関係するどのようなことについて関心を持っていますか。次の中からあてはまる番号を2つまで選んで○をつけてください。

「インターネットの利用」及び「命の大切さ」がどの年代でも高い割合を占めている。小学2年の保護者では「いじめ」が最も多い。

平成23年度と比較すると、「就職」の割合がどの年代でも減少している。

青少年に関する問題への保護者の関心

図220



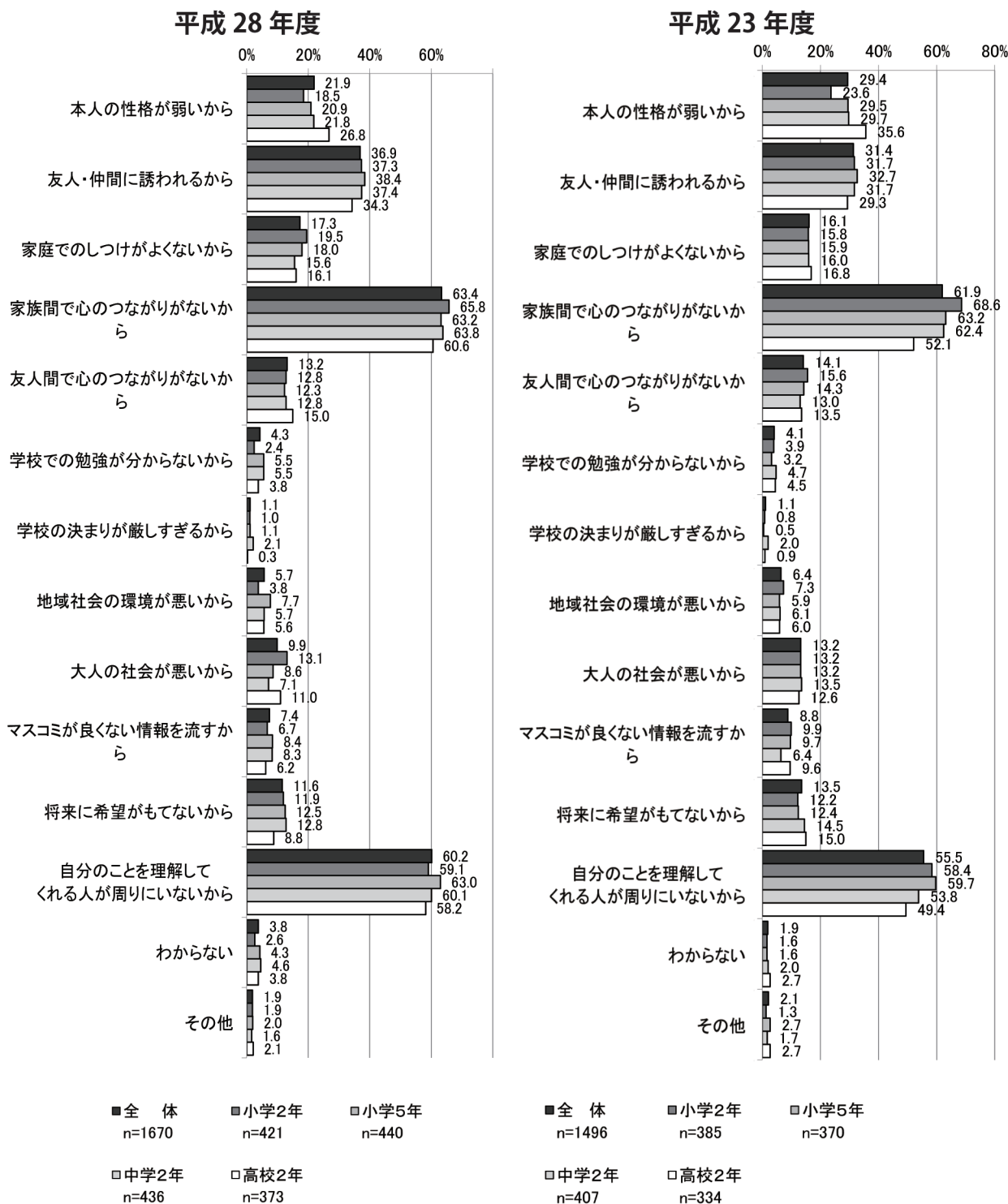
▶▶ イ 保護者が考える非行の理由

問 あなたは、青少年が犯罪を犯したり、非行に走る主な原因はどこにあると思いますか。次の中からあなたの感じ方に近い番号を3つまで選んで○をつけてください。

どの年代でも「家族間で心のつながりがないから」を非行の原因と考える保護者が一番多く、次に「自分のことを理解してくれる人が周りにいないから」が続いている。「自分のことを理解してくれる人が周りにいないから」と「友人仲間に誘われるから」の割合はどの年代でも増加している。

保護者が考える非行の理由

図221



ウ 保護者が考える子どもの非行傾向

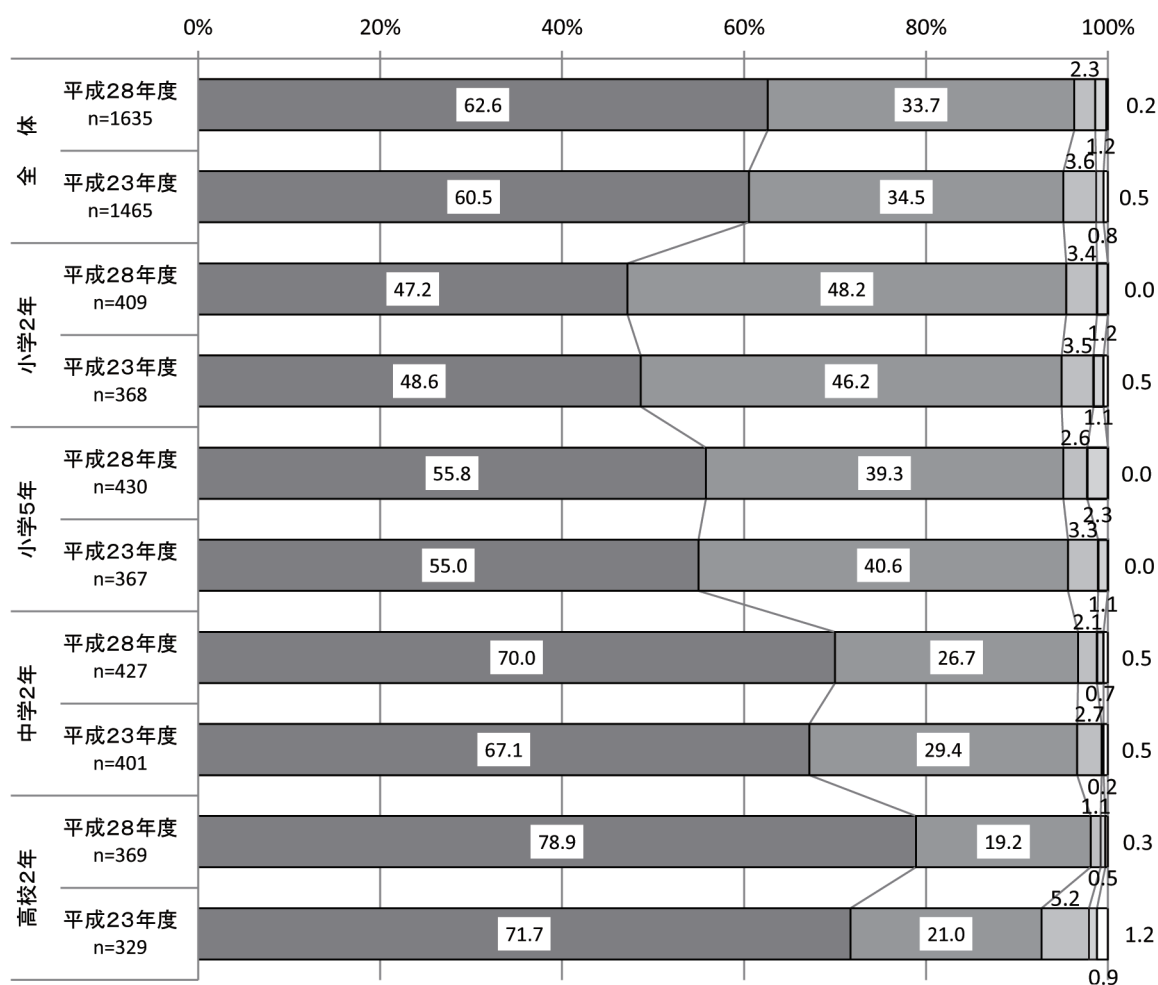
問 お子さんについて、あなたの感じ方に近いものはどれですか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

子どもの年齢が高くなるほど、「絶対に非行に走らない」と回答した保護者の割合が高くなっている。

平成23年度と比較すると、小学2年以外の年代の保護者において「絶対に非行に走らない」の割合が増加している。

保護者が考える子どもの非行傾向

図222



- 絶対に非行に走らない
- 友達と一緒になら、知らない人の自転車に無断で乗るような非行をするかもしれない
- 友達と一緒になら、かなりの非行でもしてしまう
- ひとりで知らない人の自転車に無断で乗るような非行をするかもしれない
- ひとりでかなりの非行に走る

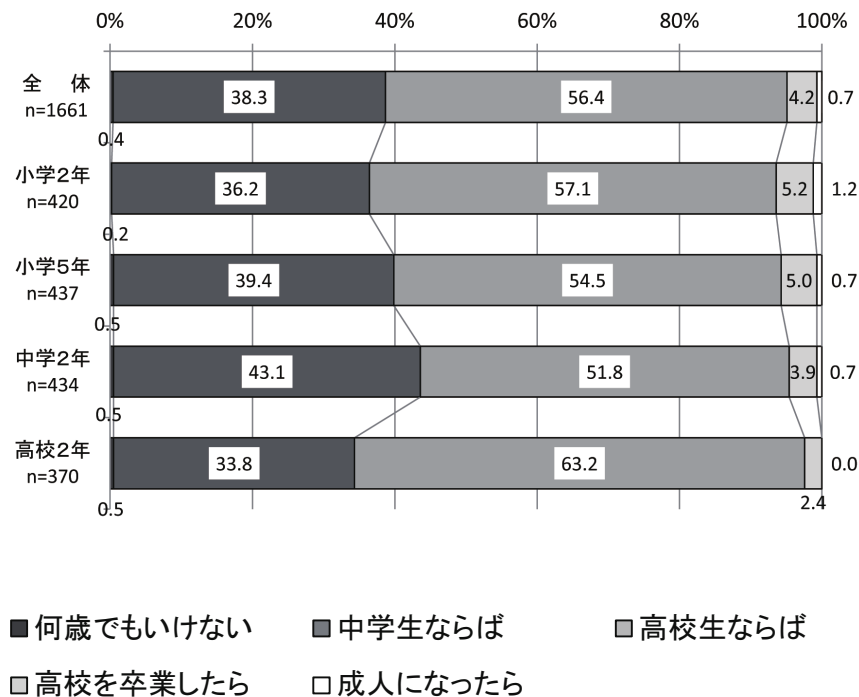
▶▶ エ 子どもの行為について保護者がしても良いと考える年齢

問 お子さんは、下記のことがらについて、どのくらいの年齢になったらしてもよいと思いますか。それぞれあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。(○は各項目につきひとつ)

(ア) 子どもだけでファストフード店等の飲食店に行く

「中学生ならば」と回答したのは各年代の保護者の約3～4割、「高校生ならば」と回答したのは約5～6割で、「何歳でもいけない」「高校を卒業したら」「成人になったら」の回答はほとんどなかった。

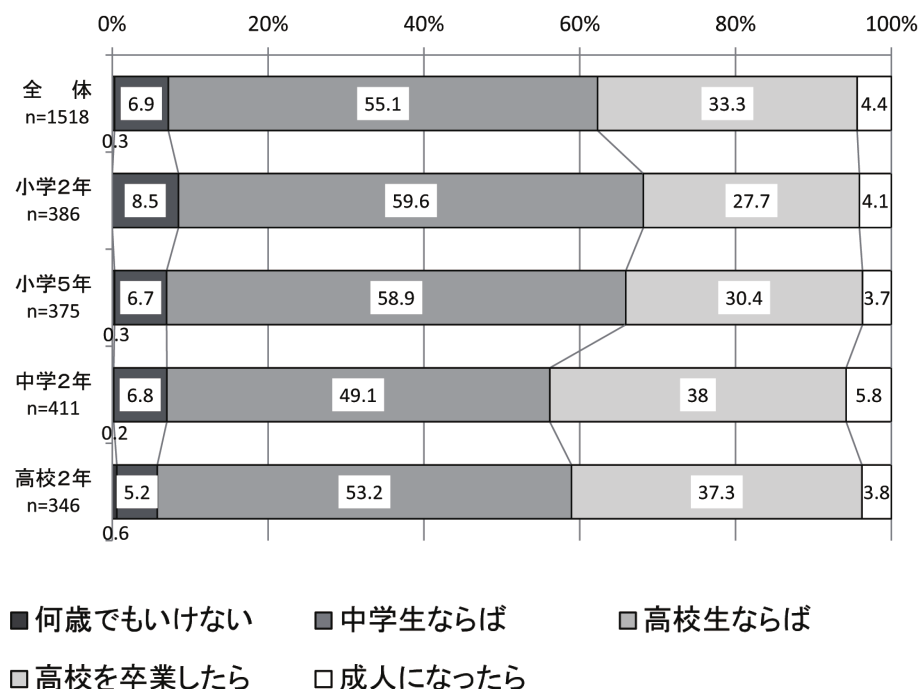
図223



(参考)

図224

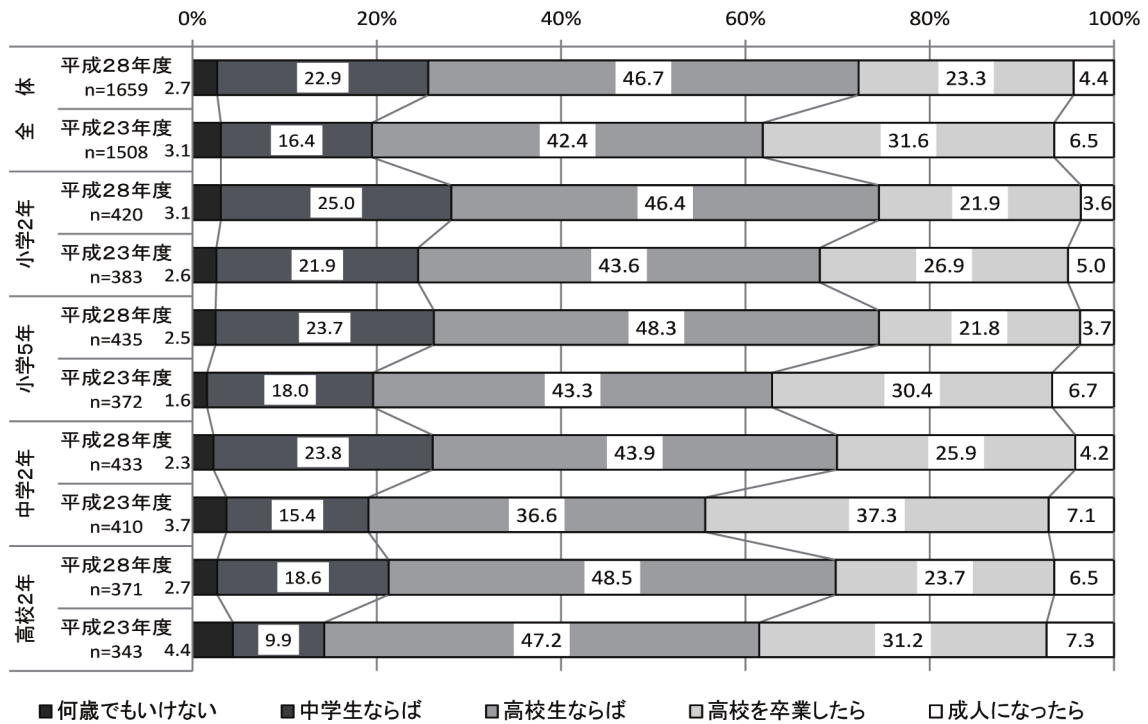
喫茶店に行く (平成23年度)



(イ) ゲームセンターで遊ぶ

いずれの年代においても、「中学生ならば」「高校生ならば」を合計した割合が増加している一方、「高校を卒業したら」「成人になったら」を合計した割合が減少している。

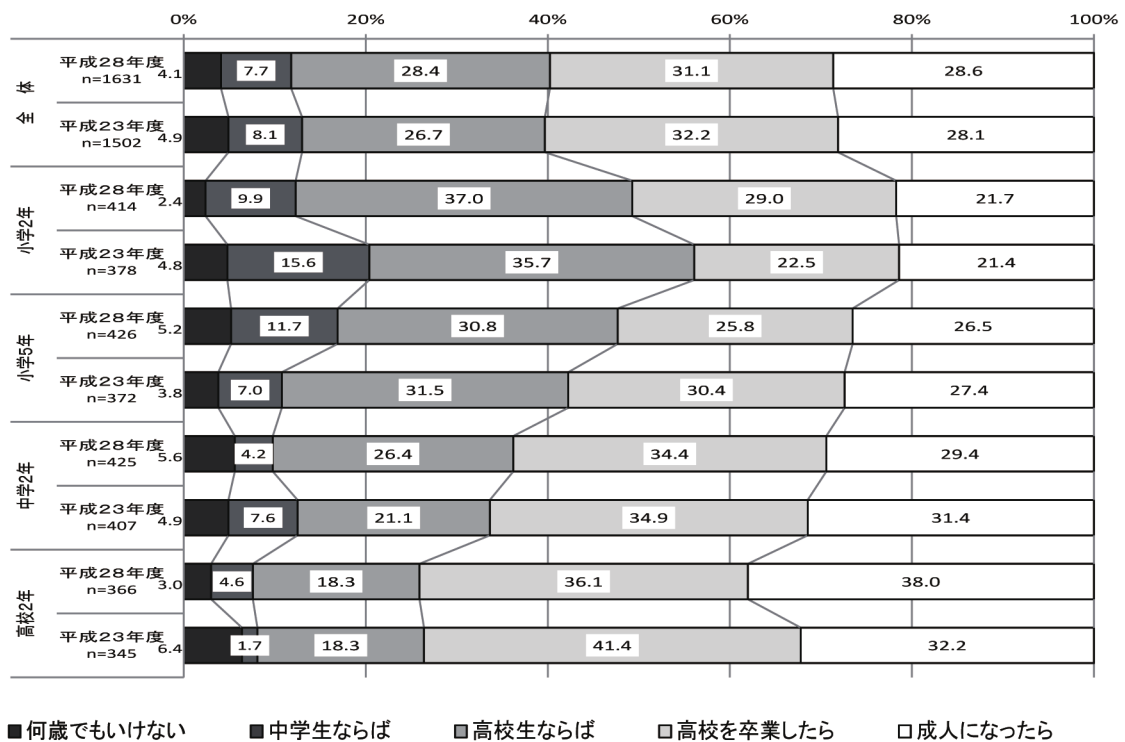
図225



(ウ) アダルト (ポルノ) 雑誌やアダルトDVDを見る

「中学生ならば」または「高校生ならば」アダルト (ポルノ) 雑誌やアダルト DVD を見ても良いと考える保護者は、年代が上がるほど少なくなっている。

図226

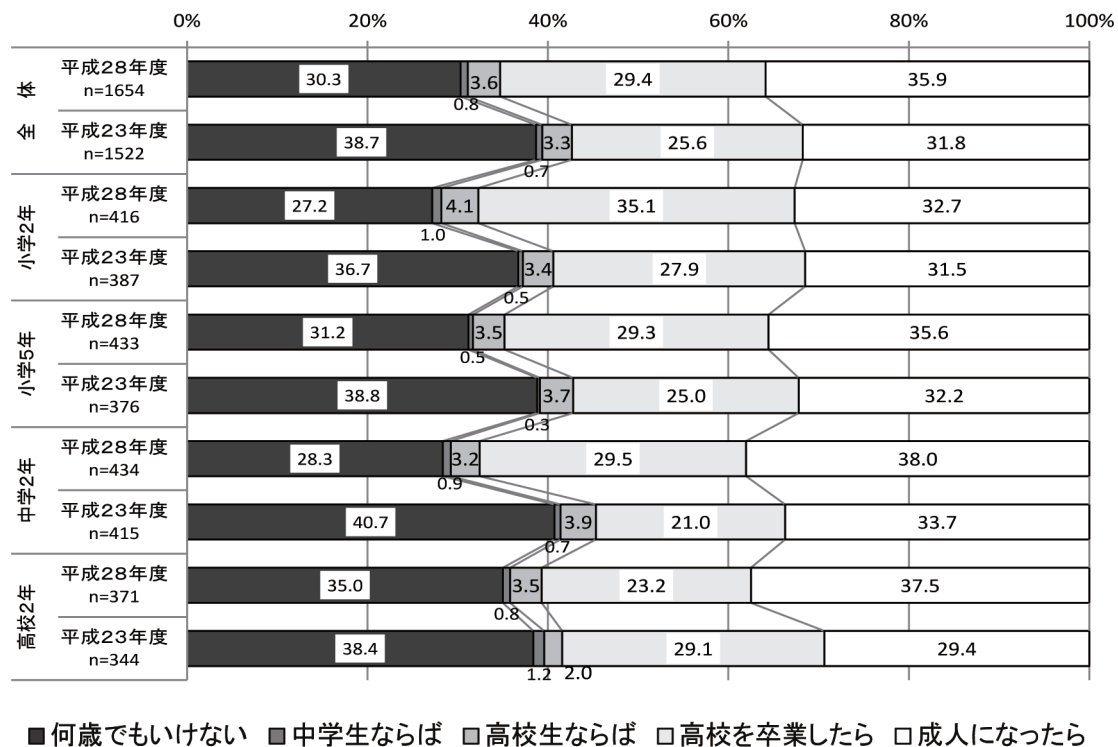


### (工) 無断で外泊をする

「中学生ならば」「高校生ならば」と考える保護者は少数であった。小学2年の保護者では「高校を卒業したら」が最も多く、小学5年以上の年代の保護者では「成人になったら」が最も多かった。

平成23年度と比較すると、「何歳でもいけない」の割合はどの年代でも減少している。

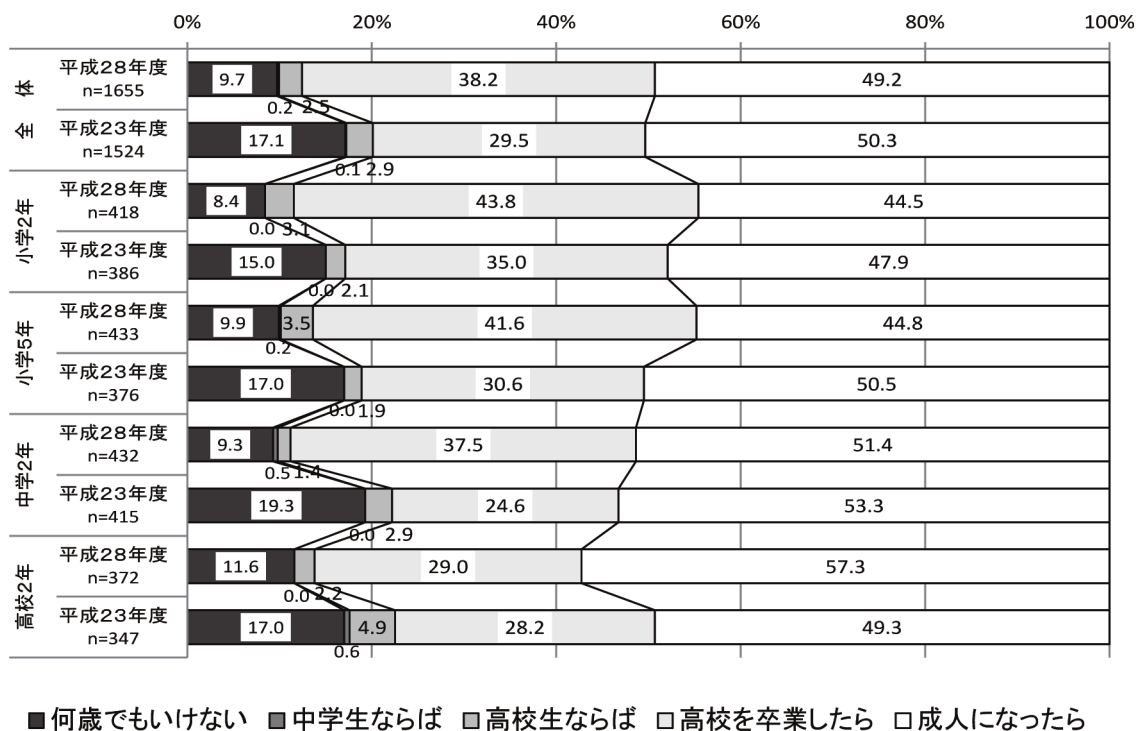
図227



### (オ) 深夜まで外で遊ぶ

平成23年度と比べて、いずれの年代の保護者においても「高校を卒業したら」の割合が増加している。

図228

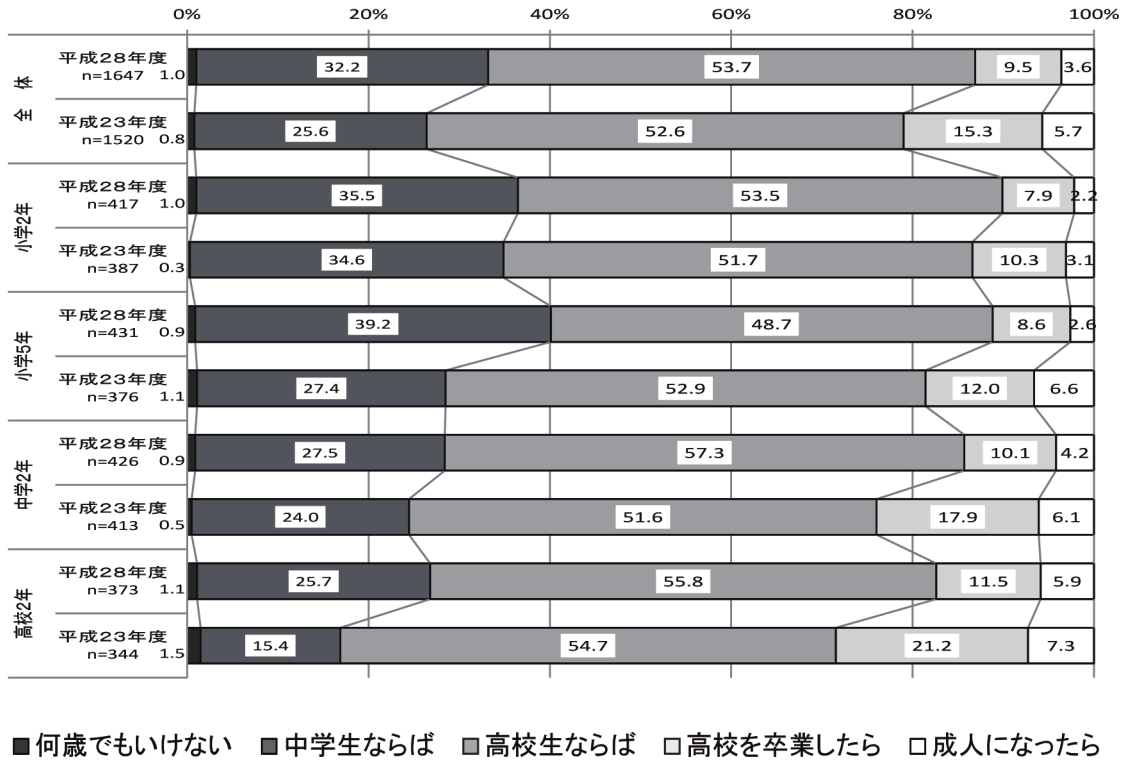




(カ) 交際相手と二人で歩いたり登下校したりする

平成23年度と比較すると、多くの年代の保護者において「中学生ならば」「高校生ならば」の割合が増加している一方、「高校を卒業したら」「成人になったら」の割合が減少している。

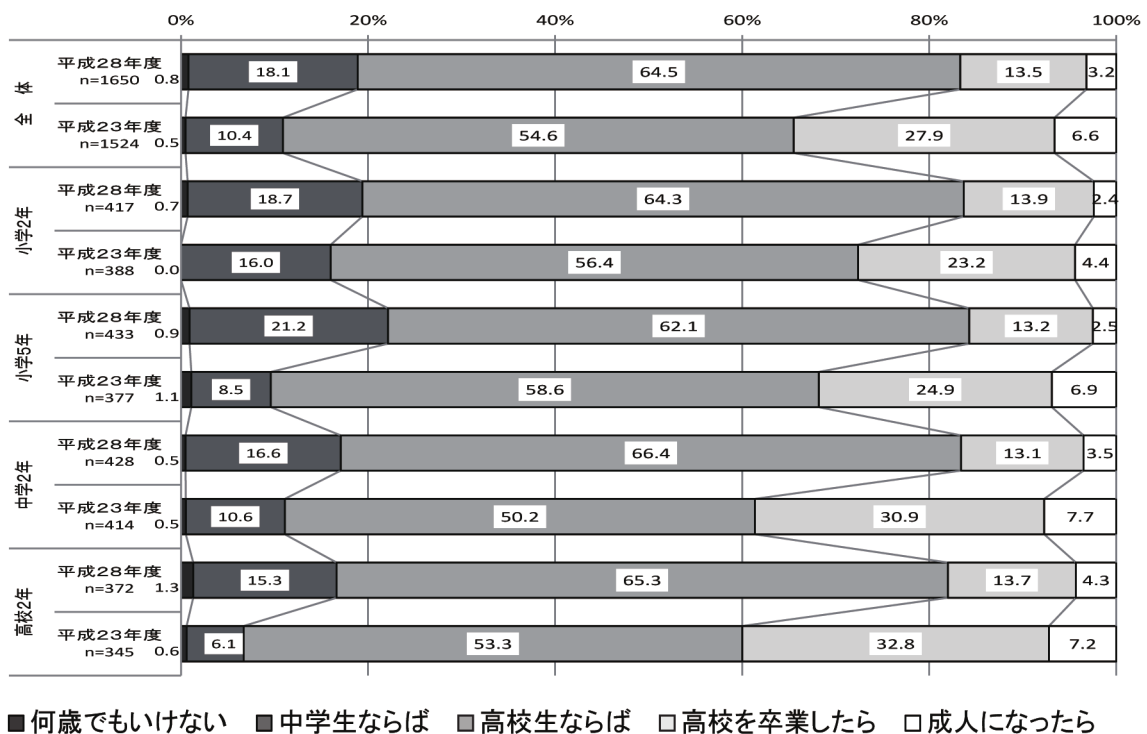
図229



(キ) 交際相手と二人でファストフード店や映画館に行く

いずれの年代においても、「中学生ならば」「高校生ならば」を合計した割合は約8割以上になる。

図230

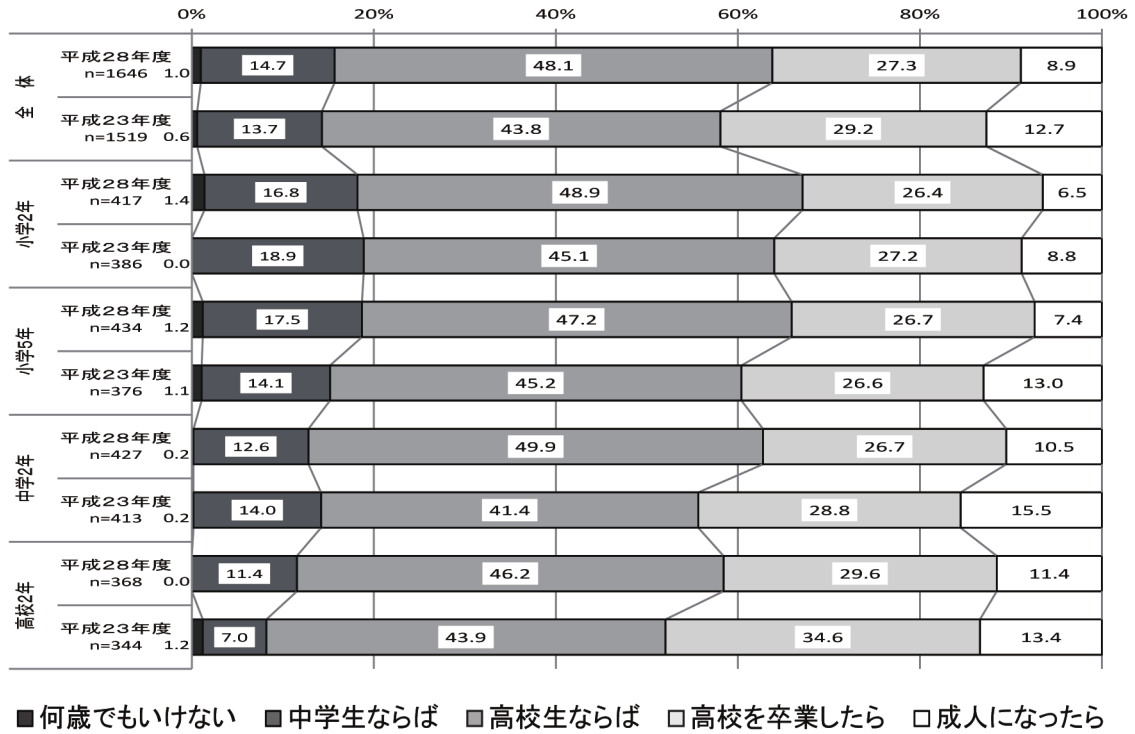


(ク) 交際相手の家に行ったり自分の家に呼んだりする

「中学生ならば」または「高校生ならば」交際相手の家に行ったり自分の家に呼んだりしても良いと考える保護者の割合は、子の年齢が高くなるほど少なくなっている。

平成 23 年度と比較すると、「成人になったら」の割合はいずれの年代でも減少している。

図 231

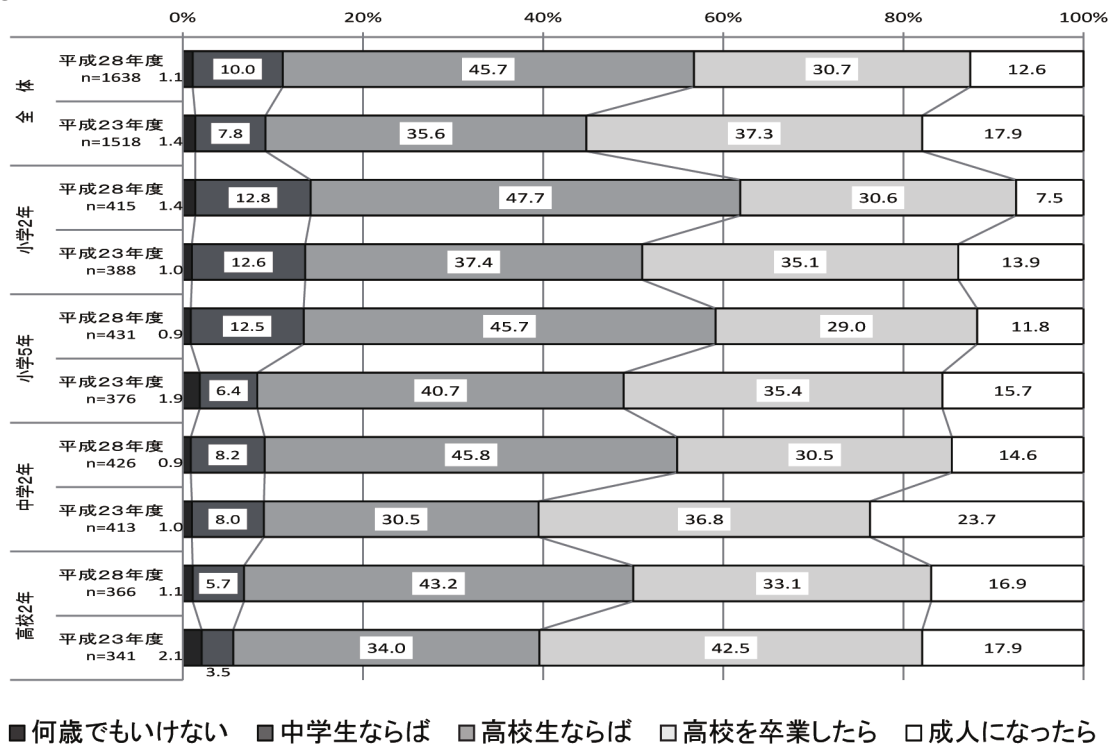


(ケ) 交際相手の部屋や自分の部屋で二人だけで話す

「中学生ならば」または「高校生ならば」交際相手の部屋や自分の部屋で二人だけで話しても良いと考える保護者の割合は、子の年齢が高くなるほど少なくなっている。

平成 23 年度と比較すると、「成人になったら」の割合はいずれの年代でも減少している。

図 232

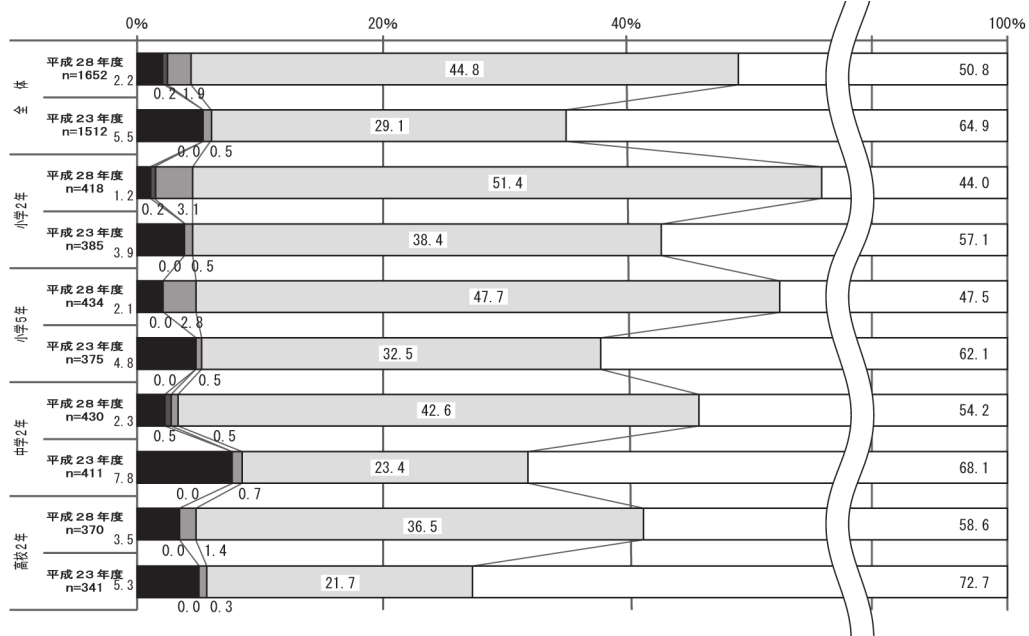


(コ) 交際相手と二人で泊まりがけの旅行に行く

年代が上がるにつれ、「成人になったら」交際相手と二人で泊まりがけの旅行に行っても良いと考える保護者が多くなっている。

平成 23 年度と比べると、いずれの年代でも「成人になったら」「何歳でもいけない」の割合は減少しており、「高校を卒業したら」の割合が増加している。

図 233



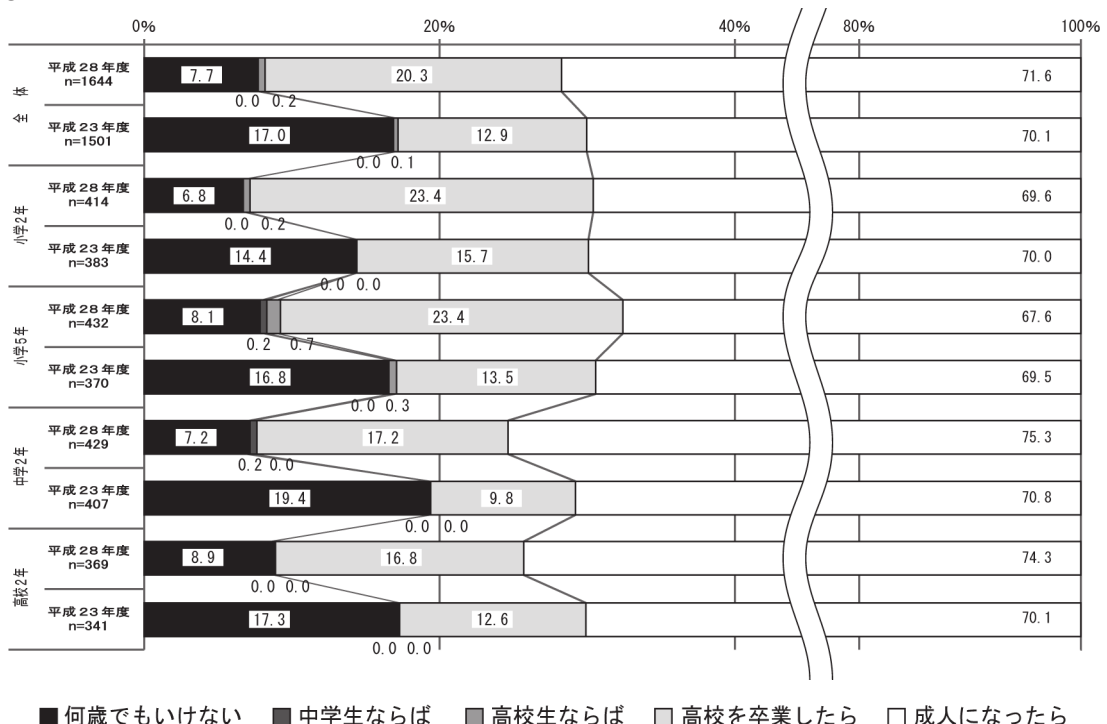
■ 何歳でもいけない ■ 中学生ならば ■ 高校生ならば □ 高校を卒業したら □ 成人になったら

(サ) 交際相手と二人で同じ部屋で生活をする

どの年代の保護者も、7割前後は「成人になったら」、2割前後は「高校を卒業したら」交際相手と二人で同じ部屋で生活しても良いと考えている。

平成 23 年度と比べると、どの年代の保護者でも「高校を卒業したら」の割合が増加している一方、「何歳でもいけない」の割合は半減している。

図 234



■ 何歳でもいけない ■ 中学生ならば ■ 高校生ならば □ 高校を卒業したら □ 成人になったら

## (6) 学校や地域とのかかわり

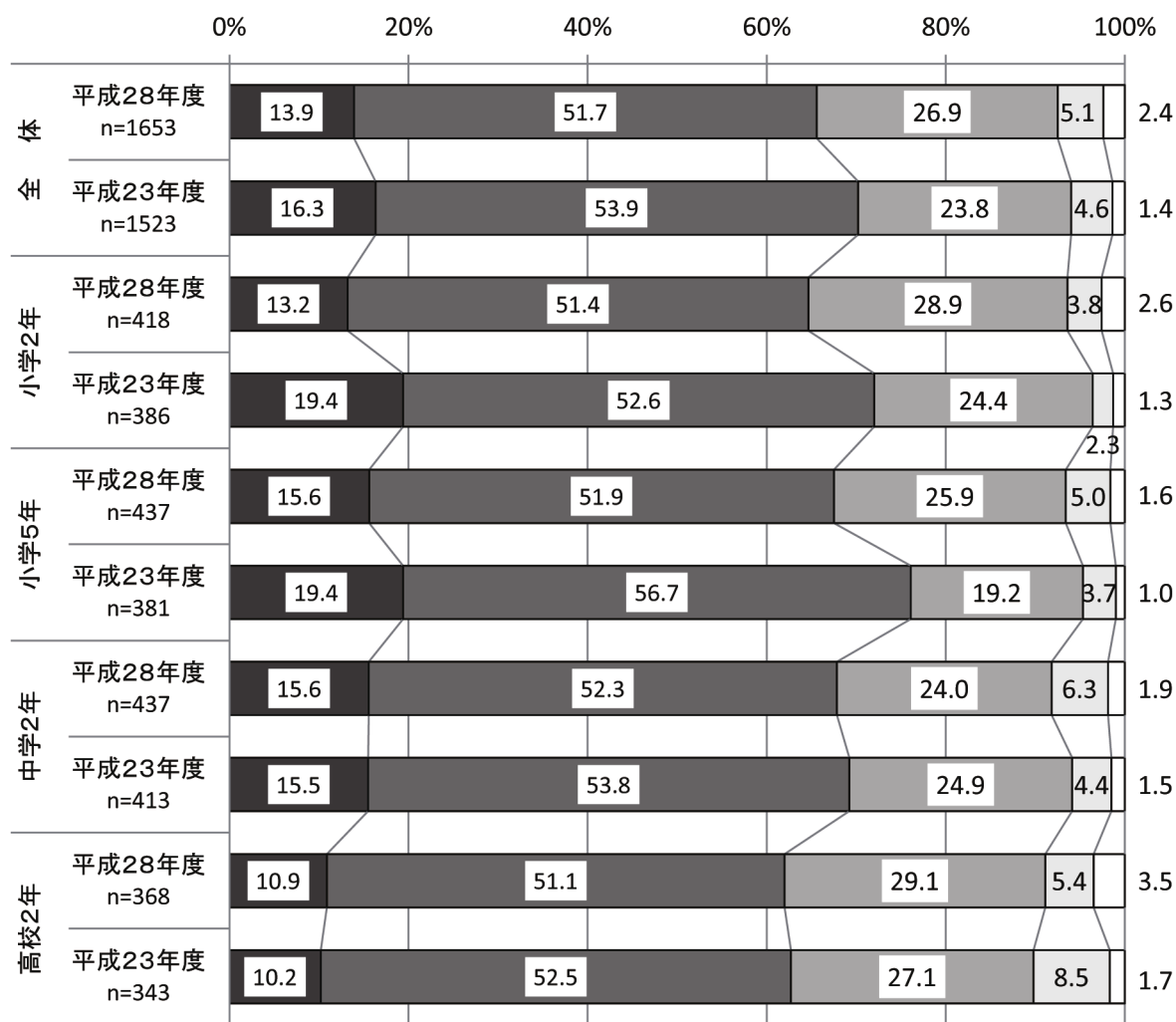
### ▶▶ ア 保護者活動への参加意識

問 あなたは、PTAなどの保護者活動にどのようにかかわっていますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

どの年代でも「頼まれればできるだけ参加する」と考える保護者が約5割あり一番多い。次に「割り当てなら仕方なく参加する」が続いている。

保護者活動への参加意識

図235



■ 積極的に参加する

■ 頼まれればできるだけ参加する

■ 割り当てなら仕方なく参加する

□ できるだけ参加しないようにしている

□ その他

▶▶ イ 保護者の地域活動への参加状況

問 あなたは、地域でどんな活動に参加していますか。次の中からいくつでも選んで○をつけてください。

小学生の保護者は8割近くが「子ども会活動」に参加し、「スポーツ大会、運動会」「地区一斉清掃」「祭りの行事」が続いている。「参加しない」保護者は、調査区分の年齢が高くなるほど増えている。

保護者の地域活動への参加状況

図236

